

平成 17 年度

県立体育センター研究報告書

学校体育に関する児童生徒の意識調査

～ 小学生の意識 ～

(3 年次継続研究の 1 年次)

神奈川県立体育センター
指導研究部 スポーツ科学研究室

目 次

テーマ設定の理由	・・・ 1
目 的	・・・ 1
内容及び方法	
1 研究の期間	・・・ 1
2 研究の内容	・・・ 1
3 研究の方法	・・・ 1
4 集計方法等について	・・・ 4
結果及び考察	
1 調査結果の概要について	・・・ 5
2 単純集計結果について	・・・ 6
3 クロス集計結果について	・・・ 53
まとめ	・・・ 90
参考文献	・・・ 95
資 料	

学校体育に関する児童生徒の意識調査

～小学生の意識～

スポーツ科学研究室 大谷 一記
研究アドバイザー 落合 優

【テーマ設定の理由】

体育センターでは、学習指導要領の改訂に伴い、昭和47年・昭和58年・平成6年と過去3回、およそ10年ごとに小・中・高校生（小学生は平成6年より）を対象に学校体育に関する意識を明らかにしてきた。そこで、今回の学習指導要領導入後3年が経過したことを受け、平成17年度から3年継続事業として1年次小学校・2年次中学校・3年次高等学校を対象にアンケート調査を行うことにした。

今年度の調査では、小学生を対象とし、現在の児童の意識が前回調査時の児童の意識と比較して10年の経過とともにどう変化したのかを明らかにすることにした。

また、現在の子どもたちは、体力・運動能力の長期的低下傾向と、運動に興味を持ち活発に運動をする者とそうでない者の二極化の状況が見られる¹⁾ことや、学年が上がるにしたがって、体育の学習を経験すればするほど体育の楽しさや学ぶことの意味を見出せなくなっている²⁾ことなどが問題とされている。そのような中で、今回の学習指導要領改訂では、体育科教育では「心と体を一体としてとらえること」の重要性が指摘されていることを受け、小学校低学年・中学年・高学年の現状を把握するとともに、成長に伴う意識の変化を探ることにした。そのことにより、これからの学校体育の方向性を探る基礎資料としたい。

【目的】

学校体育に関する児童の意識の現状を把握するとともに、過去の調査と比較分析することにより意識の変化を明らかにし、これからの小学校体育の方向性を探るための基礎資料とする。

【内容及び方法】

1 研究の期間

平成17年4月1日～平成18年3月31日

2 研究の内容

児童の学校体育に関する意識調査及び学習状況等に関する実態の調査・分析

3 研究の方法

(1) 文献研究

(2) 調査

ア 調査期間

平成17年9月中旬～10月中旬

イ 調査の方法

質問紙によるアンケート調査

ウ 調査対象者及び標本構成

神奈川県内の四市教育委員会、七教育事務所管内より 県内各地区公立小学校各2校（合計20校）を推薦（2・4・6学年の児童、各2クラス）

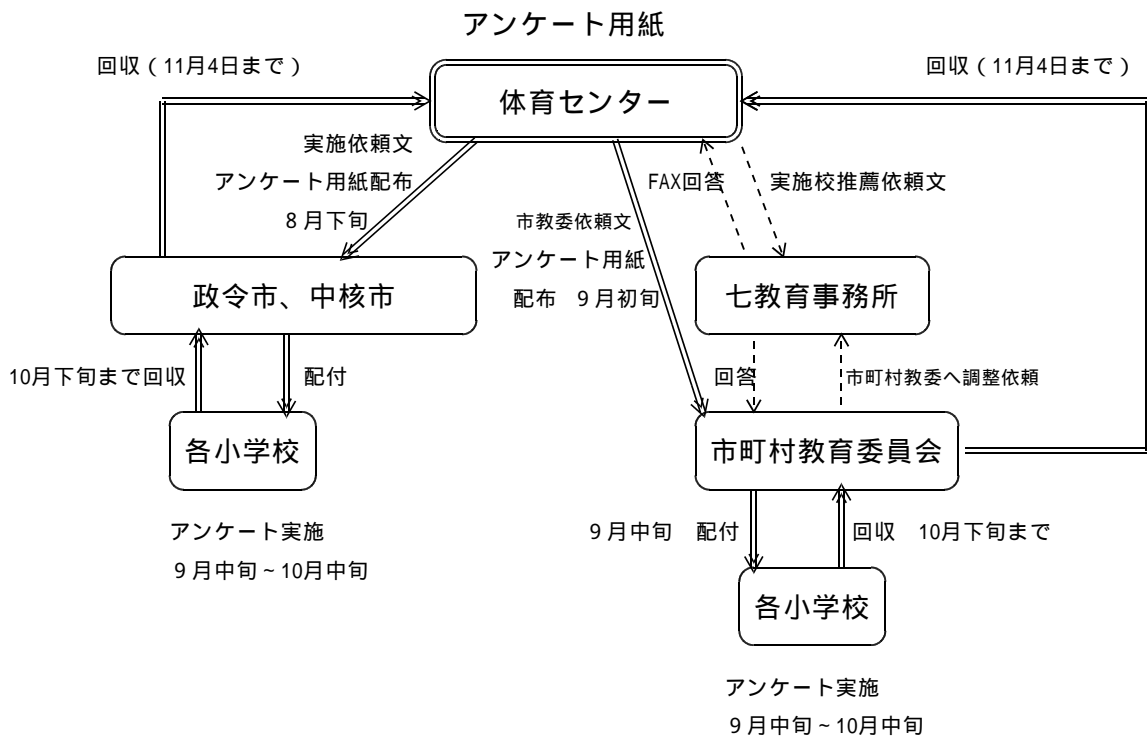
(ア) 調査人員 3,735名

	2年生	4年生	6年生	合計
男子	650	623	620	1,893
女子	608	630	604	1,842
合計	1,258	1,253	1,224	3,735

(1) 調査人員の内訳

	抽出小学校名	2年生			4年生			6年生			合計
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	
1	宮谷小(西区)	30	31	61	34	39	73	40	35	75	209
2	西柴小(金沢区)	30	32	62	30	30	60	30	30	60	182
3	小菅ヶ谷小(栄区)	31	32	63	33	30	63	37	29	66	192
4	南太田小(南区)	26	30	56	35	33	68	36	22	58	182
5	宮前小(川崎区)	30	30	60	30	30	60	30	30	60	180
6	久本小(高津区)	38	26	64	43	29	72	33	31	64	200
7	明浜小(横須賀市)	35	33	68	35	36	71	37	30	67	206
8	富士見小(横須賀市)	30	31	61	30	30	60	30	30	60	181
9	旭小(相模原市)	34	32	66	39	37	76	33	30	63	205
10	中央小(相模原市)	30	30	60	30	30	60	30	30	60	180
11	羽鳥小(藤沢市)	35	27	62	26	28	54	30	32	62	178
12	茅ヶ崎小(茅ヶ崎市)	34	35	69	35	35	70	33	35	68	207
13	杉本小(海老名市)	39	22	61	32	32	64	23	33	56	181
14	綾南小(綾瀬市)	36	35	71	27	28	55	21	29	50	176
15	松が丘小(平塚市)	36	39	75	25	37	62	35	29	64	201
16	大原小(平塚市)	30	25	55	22	30	52	26	25	51	158
17	上大井小(大井町)	37	24	61	21	25	46	26	28	54	161
18	下中小(小田原)	30	30	60	30	30	60	30	29	59	179
19	荻野小(厚木市)	29	34	63	32	30	62	33	33	66	191
20	中野小(津久井町)	30	30	60	34	31	65	27	34	61	186
計		650	608	1,258	623	630	1,253	620	604	1,224	3,735

(3) 調査の手順



(4) 調査内容 (調査項目一覧) 印が実施項目

調 査 項 目	2 年 生 (2)	4 年 生	6 年 生
運動や遊び、スポーツが好きかきらいかについて			
体育の学習が好きかきらいかについて			
----- 体育の学習が好きな理由			
----- 体育の学習がきらいな理由			
体育の学習で行う好きな運動内容 (領域) について (1)			
体育の学習の活動状況について			
体育の学習で自分のめあてをどう決めるか			
----- 体育の学習で自分のめあてがうまく達成できないときどうするか			
体育の学習が楽しいと感じたことがあるか			
----- 体育の学習で楽しいと感じたことはどんなときか			
体育の学習がつまらないと感じたことがあるか			
----- 体育の学習でつまらないと感じたことはどんなときか			
安全面で心がけていることについて			
体育の学習以外 (休み時間や放課後) の運動実践について			
----- なぜ体育の学習以外 (休み時間や放課後) に運動をしているのか			
----- なぜ体育の学習以外 (休み時間や放課後) に運動をしないのか			
スポーツクラブへの入部状況について			
学校以外 (学校から帰宅後や休日) での運動実践について			
----- なぜ学校以外 (学校から帰宅後や休日) で運動をしているのか			
----- なぜ学校以外 (学校から帰宅後や休日) で運動をしないのか			
学校以外 (学校から帰宅後や休日) での運動場所について			
学校以外 (学校から帰宅後や休日) での運動相手について			
好きな、行いたいスポーツ (運動) について			
体育を指導してくれる理想的な教師像について			

(1) 各学年の授業内容に合わせた質問内容とした。

(2) 2 年生については、4・6 年生との共通性を持たせつつ、児童の発育・発達段階等を考慮した。

4 集計方法等について

(1) 百分率について

ア 各グラフに示したnは回答者総数である。また、単数回答の設問にのみ、このnを母数として算出した百分率を示した。

イ 各グラフに示した百分率は、小数点以下第2位を四捨五入してるので、数値の合計が100.0%にならない場合がある。

(2) 集計について

本調査報告書は単純集計とクロス集計の結果とした。単純集計については、各対象者別(2・4・6年生)に結果を示すとともに、特徴を見るため男女別の集計も行っている。

クロス集計については、体育の学習が『好き群』『どちらでもない群』『嫌い群』の3群と他の項目との結果を示した。

(3) 統計的有意差について

本調査報告書におけるクロス集計の結果は、² 検定によって検定を行った。(3)

(3)

² (カイジジョウ) 検定とは、本調査のように対象者を抽出して行った場合に、得られた結果に妥当性があるか否かを統計的に確かめる方法である。

今回、² 検定を行った結果、有意差(0.1%、1%、5%水準)が認められたものについては以下のように示した。

***... $p < 0.001$ (0.1%水準) **... $p < 0.01$ (1%水準) *... $p < 0.05$ (5%水準)

例えば、0.1%水準の有意差とは、同様の調査を1,000回、異なる抽出者で行った場合においても、999回は、同じ傾向の調査結果を得られることを示している。

(4) その他

前回調査(平成6年:4・5・6年生)との比較調査(4・6年生のみ)も行っているが、学習指導要領の改訂に伴い単純に比較できない設問もあり、そのような設問については可能な範囲内での調査とした。

なお、2年生については前回調査を行っていないので比較調査は行わない。

【結果及び考察】

1 調査結果の概要について

今回の調査から、以下のとおりの特徴的な結果が得られた。根拠となる調査結果については、単純集計結果とクロス集計結果に分けて記述ページを示してあるので、参照していただきたい。

単は単純集計結果

クはクロス集計結果

多くの児童が運動やスポーツが好き 単：P 6 ~ P 7
運動やスポーツが好きな児童は体育も好き 単：P 7 ~ P 10 ク：P 53 ~ P 54
体育の学習で人気の領域はボール運動と水泳（水遊び） 単：P 11 ~ P 14 ク：P 54 ~ P 56
体育の学習の活動状況が全体的に向上 単：P 16 ~ P 25 ク：P 57 ~ P 67
体育の学習が楽しいは10年前より増加・つまらないは10年前より減少 単：P 27 ~ P 31 ク：P 67 ~ P 71
安全面で一番心がけていることは「準備運動や整理運動を十分すること」 単：P 31 ~ P 32 ク：P 72 ~ P 73
休み時間や放課後の運動実施率は10年前とほぼ変わらず 単：P 34 ~ P 37 ク：P 73 ~ P 77
多くの児童がスポーツクラブ等へ加入 単：P 37 ~ P 38 ク：P 77 ~ P 78
学校から帰宅後や休日での運動実施率は10年前より減少 単：P 38 ~ P 41 ク：P 78 ~ P 82
学校から帰宅後や休日での運動場所・運動相手は年齢差と男女差はつきり 単：P 41 ~ P 43 ク：P 83 ~ P 86
好きな、行いたいスポーツ（運動）は、球技や水泳が人気 単：P 46 ~ P 48
理想の教師像は「明るくておもしろい先生」 単：P 49 ~ P 51 ク：P 87 ~ P 89

2 単純集計結果について

調査内容については、調査項目一覧（3ページ）で示したとおり、2年生と4・6年生で異なる部分があるので、2年生と4・6年生のグラフを別々に示すことにした。

また、2年生の設問には平仮名やふりがなを使ったが、結果及び考察に関しては、4・6年生で示した言葉で記してある。

なお、前回調査（平成6年度）との比較については、学習指導要領の改訂に伴い、調査項目や調査内容が変わっているところがあるので、前回と同じもののみをコラム1～25で記述した。

（1）体育の学習について

ア あなたは、体をつかって遊んだりスポーツをしたりすることが好きですか？（全学年）

2年生については、3段階評価尺度、4・6年生については、5段階評価尺度で行ったが、解釈の段階においては4・6年生の「とても好き」「どちらかというときらい」を2年生の「好き」、4・6年生の「どちらかというときらい」「とてもきらい」を2年生の「きらい」と解釈し、2年生との統一を図った。

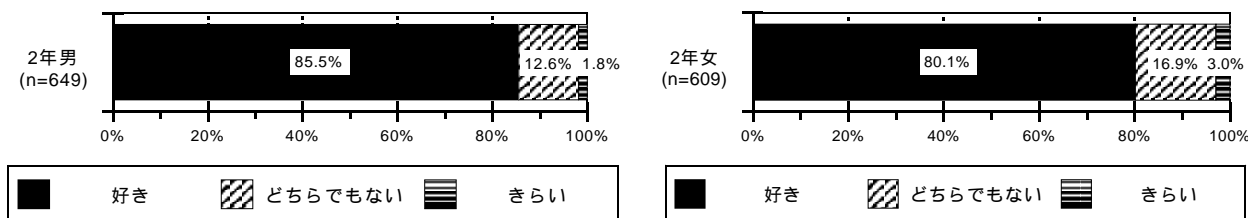


図1 運動やスポーツの好き・きらい（2年生）

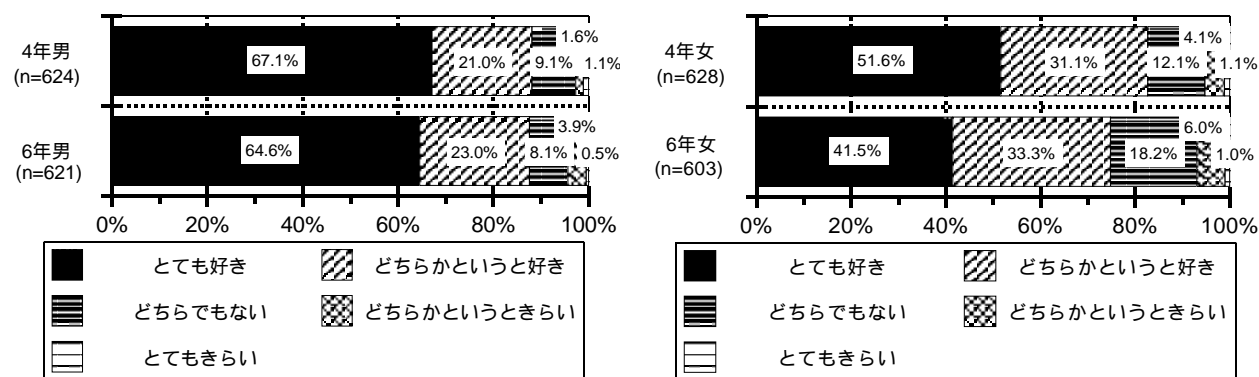


図2 運動やスポーツの好き・きらい（4・6年生男子）

図3 運動やスポーツの好き・きらい（4・6年生女子）

からだを使って遊んだり、スポーツをしたりすることが「好き」か尋ねたところ、2年生では、「好き」と答えた児童は、男子85.5%、女子80.1%であった。

また、「きらい」と答えた児童は、2年生では男子1.8%、女子3.0%であった。

4・6年生では、「とても好き」「どちらかというとき好き」と答えた児童が4年生では男子88.1%、女子82.7%で、6年生は男子87.6%、女子74.8%であり、男子の方が「好き」の割合が高かった。

4・6年生で「とてもきらい」「どちらかというとききらい」と答えた児童は4年生で男子2.7%、女子5.2%、6年生で男子4.4%、女子7.0%と学年進行に伴い、女子の方が「きらい」の割合が高くなった。

この結果から、男女ともに体をつかって遊んだりスポーツをしたりすることが「好き」だということがわかった。しかし、6年生女子は、他の学年や6年生男子と比べると、「とても好き」が減り「どちらでもない」が増えていることがわかった。

イ あなたは体育の学習が好きですか？（全学年）

アと同様に3段階に統一した。

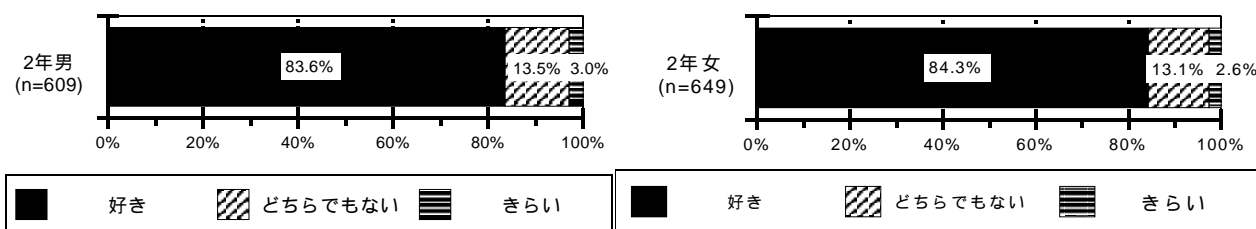


図4 体育の学習の好き・きらい(2年生)

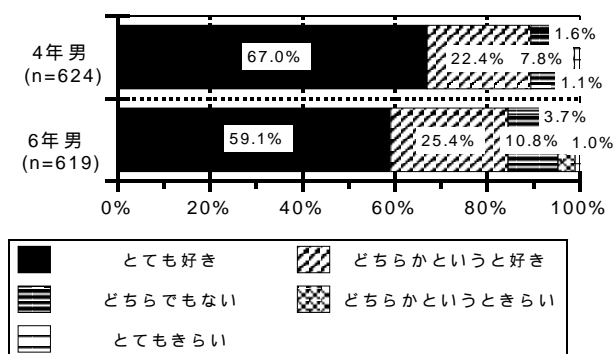


図5 体育の学習の好き・きらい(4・6年生男子)

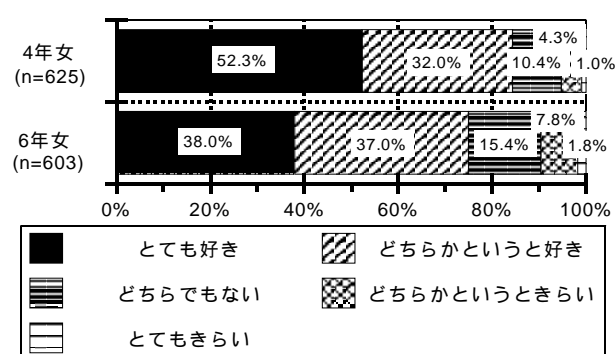


図6 体育の学習の好き・きらい(4・6年生女子)

体育の学習が「好き」か尋ねたところ、2年生で、「好き」と答えた児童は、男子83.6%、女子は84.3%であった。

また、「きらい」と答えた児童は、2年生では男子3.0%、女子2.6%であった。

4・6年生では、「とても好き」「どちらかという好き」と答えた児童は、4年生男子89.4%、女子84.3%、6年生男子84.5%、女子75.0%であり、男子の方が「好き」の割合が高かった。

また、4・6年生で「きらい」「どちらかというきらい」と答えた児童は4年生で男子2.7%、女子5.3%、6年生で男子4.7%、女子9.6%になった。このことから、女子で学年進行に伴い、「きらい」の割合が高くなっていくことがわかった。

この結果は男女ともに、アの「あなたは、体をつかって遊んだりスポーツをしたりすることが好きですか？」の集計結果とよく似たものとなった。

4・6年生の好きな理由としては、「いろいろな運動ができておもしろいから」、きらいな理由としては、「運動すると疲れたり、苦しくなったから」が男女ともに多かった。

コラム1 (前回調査との比較)

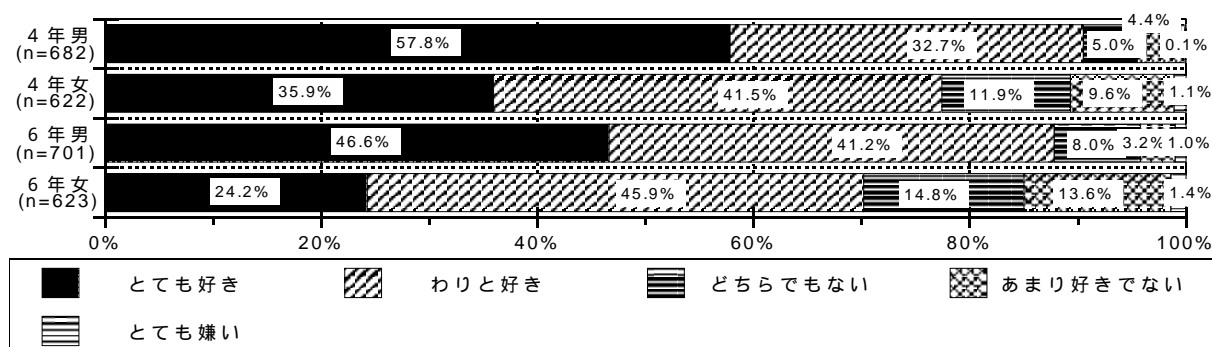


図 体育の学習の好き・きれい (前回調査)

前回調査と今回の結果を比較すると「とても好き」と「どちらかというとき好き(わりと好き)」を合わせた割合は、前回調査とほとんど変わらなかったが、体育の学習が「とても好き」な児童が増加していることがわかる。

なお、上段は「とても好き」「どちらかというとき好き(わりと好き)」を合わせた割合で、下段は「とても好き」の割合を示している。

()内は前回調査

4年生男子：89.4% (90.5) 4年生女子：84.3% (77.4)
67.0% (57.8) 52.3% (35.9)

6年生男子：84.5% (87.8) 6年生女子：75.0% (70.1)
59.1% (46.6) 38.0% (24.2)

「とてもきれい」と「どちらかというとききれい(あまり好きではない)」を合わせた割合は、6年生男子を除いて前回調査より減少していることがわかった。なかでも「どちらかというとききれい(あまり好きではない)」が減少したことがわかる。特に、女子の減少率が大きいことがわかった。

なお、上段は「とてもきれい」「どちらかというとききれい(あまり好きではない)」を合わせた割合で、下段は「どちらかというとききれい」の割合を示している。

()内は前回調査

4年生男子：2.7% (4.5) 4年生女子：5.3% (10.7)
1.6% (4.4) 4.3% (9.6)

6年生男子：4.7% (4.2) 6年生女子：9.6% (15.0)
3.7% (3.2) 7.8% (13.6)

ウ 体育の学習が好きな理由は何ですか？（2つ選択）

（体育の学習が好きと答えた4・6年生の児童のみ回答）

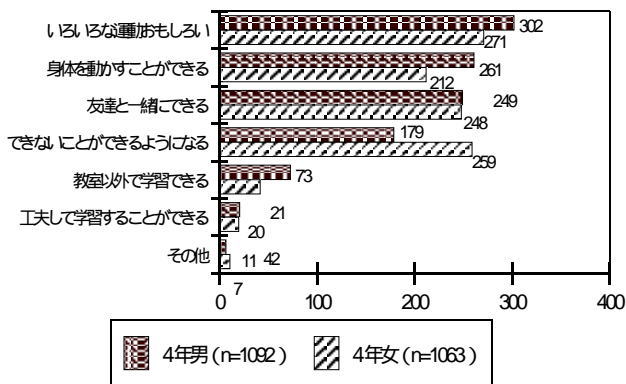


図7 体育の学習の好きな理由(4年生)

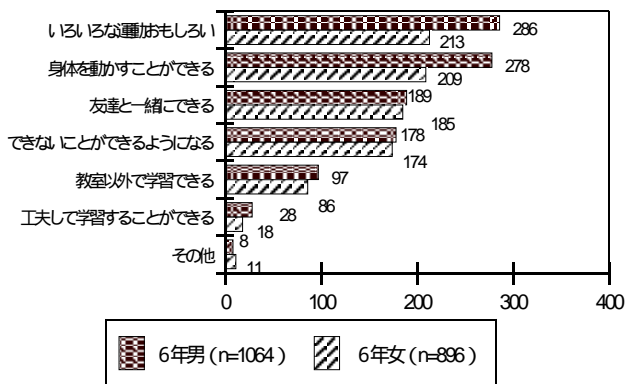


図8 体育の学習の好きな理由(6年生)

体育の学習が好きな理由を尋ねたところ、全学年の男女ともに「いろいろな運動ができておもしろいから」が一番多かった。

4年生男子は二番目が「思いきり身体を動かすことができるから」、わずかの差で「友だちと一緒に仲よく学習できる」が三番目であった。4年生女子は二番目が「できないことができるようになる」で、「友だちと一緒に仲よく学習できる」が三番目であった。

6年生男女は、わずかの差で「思いきり身体を動かすことができるから」が二番目で、「友だちと一緒に仲よく学習できる」が三番目であった。

エ 体育の学習がきらいな理由は何ですか？

（体育の学習がきらいと答えた4・6年生の児童のみ回答）

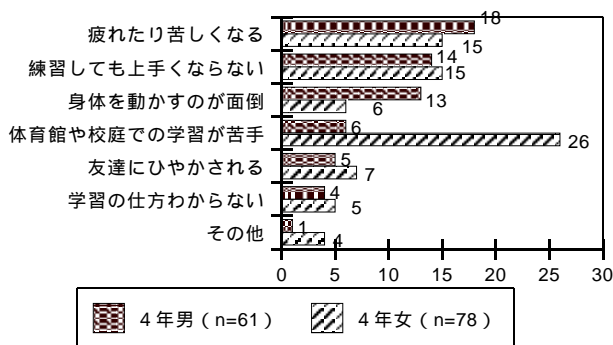


図9 体育の学習のきらいな理由(4年生)

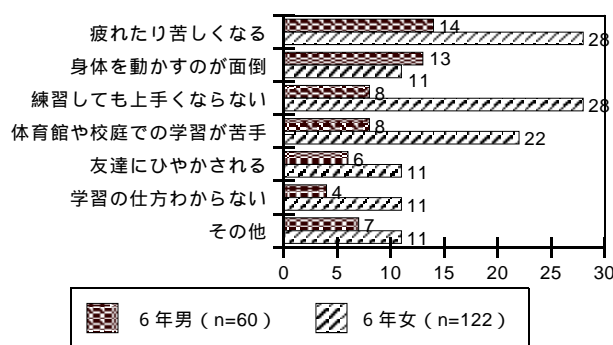


図10 体育の学習のきらいな理由(4年生)

体育の学習がきらいな理由を尋ねたところ、4年生男子は「運動すると疲れたり苦しくなったりするから」が一番多く、二番目が「いくら練習しても上手にならないから」で「身体を動かすのが好きでなく、めんどくさいから」が三番目となった。6年生男子は「運動すると疲れたり苦しい」が一番多く、二番目が「身体を動かすのが好きでなく、めんどくさいから」で「いくら練習しても上手にならないから」と「体育館や校庭での学習が苦手だから」であった。4年生女子は、「体育館や校庭での学習が苦手だから」が一番多く、二番目

が「運動すると疲れたり苦しくなったりするから」で「いくら練習してもうまくならない」が三番目となった。6年生女子は「運動すると疲れたり苦しくなったりするから」と「いくら練習してもうまくならないから」が一番多く、「体育館や校庭での学習が苦手」が三番目となった。

ア～エの設問から以下のような結果が得られた

運動やスポーツそして体育の学習に対して多くの児童が好意的な気持ちをもっていることがわかった。ただし、全体としては好評であっても、嫌いな児童が一定数いることは見逃せない。

ここで注目すべきことは、男女とも運動やスポーツの「好き」と「嫌い」の割合と体育の学習の「好き」と「嫌い」の割合がほぼ同じであったということである。

数年前に「運動好きの体育嫌い」という現象が話題にされたことがあるが、今回の結果では、後に示すクロス集計結果の53・54ページの「運動やスポーツ好き・嫌いとの集計結果」にあるとおり、「運動好き」の「体育嫌い」という傾向は非常に少なかった。

つまり、運動が好きな児童は体育の学習も好きであるということである。このことについては当初、体育の時間の方が嫌いな児童が多いのではないかと予想したが、意外な結果であった。学習指導要領がかわり、体育の授業方法の工夫や子どもにとって扱いやすい用具の導入などによって「運動好きの体育嫌い」のような現象は減っているといえる。

体力低下に関しては体力の二極化といわれているが、今回の調査から、運動の好き嫌いについてはその傾向が見られなかった。体力の二極化傾向が運動の嗜好に対しては影響が低いと捉えることができる。

体育の学習が好きな理由としては「いろいろな運動ができておもしろいから」や「思いきり体を動かすことができる」が上位にあり、体を動かすこと自体を楽しむ子どもらしい姿がみえる。

また、「友だちと一緒に仲よく学習ができる」「できないことができるようになる」をあげていることから、友だちと仲よく思いきり運動して、さらに運動が上手になる喜びも体育の学習における魅力であることがわかる。4年生女子ではこの傾向が強く見られる。

4年生男子と6年生男女は「いろいろな運動ができておもしろい」や「思いきり身体を動かすことができるから」という回答が上位にあり、個々の運動欲求が優先されていることがわかった。

体育の学習がきらいな理由として、男女とも多かったのは「運動すると疲れたり苦しいから」だということがわかった。このことは、運動することに慣れてこなかった様子を推測できる結果となった。まさに、体力の長期的低下傾向を象徴する回答であった。

また、男子は「身体を動かすのが好きでなく、めんどくさいから」と回答している児童が多くいたことから、体育学習に対する動機付けの必要性を感じ、女子は「体育館や校庭での学習が苦手だから」「いくら練習してもうまくならないから」と回答している児童が多いことから、丁寧な個別指導の必要性を感じる。

(2) 興味・関心のある運動領域について

オ 体育の学習で行っている運動の中で、あなたが好きなものを選んでください。

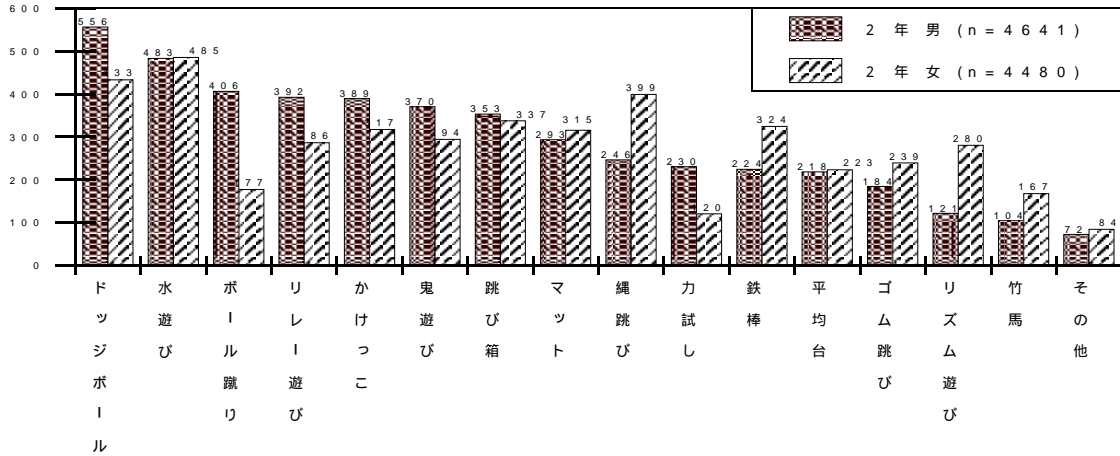


図11 体育の学習で好きな運動内容(2年生)

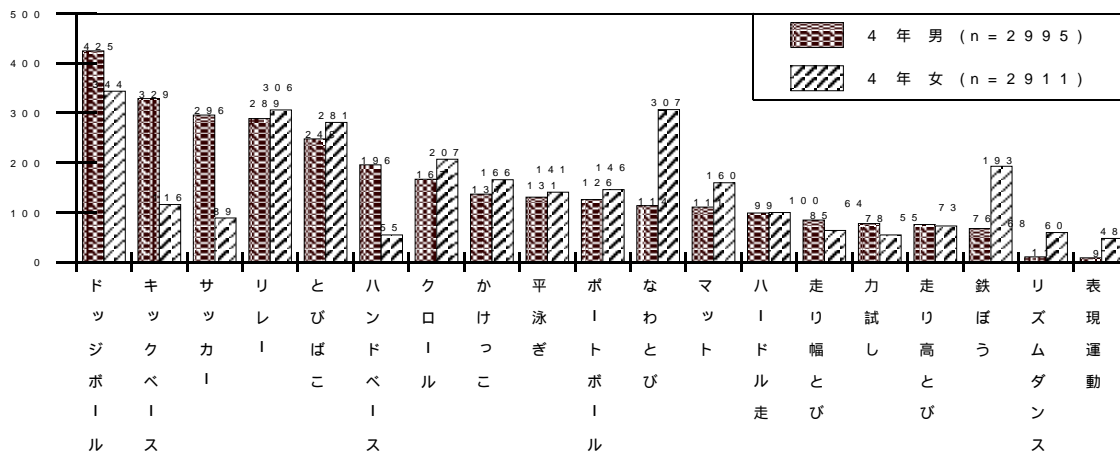


図12 体育の学習で好きな運動内容(4年生)

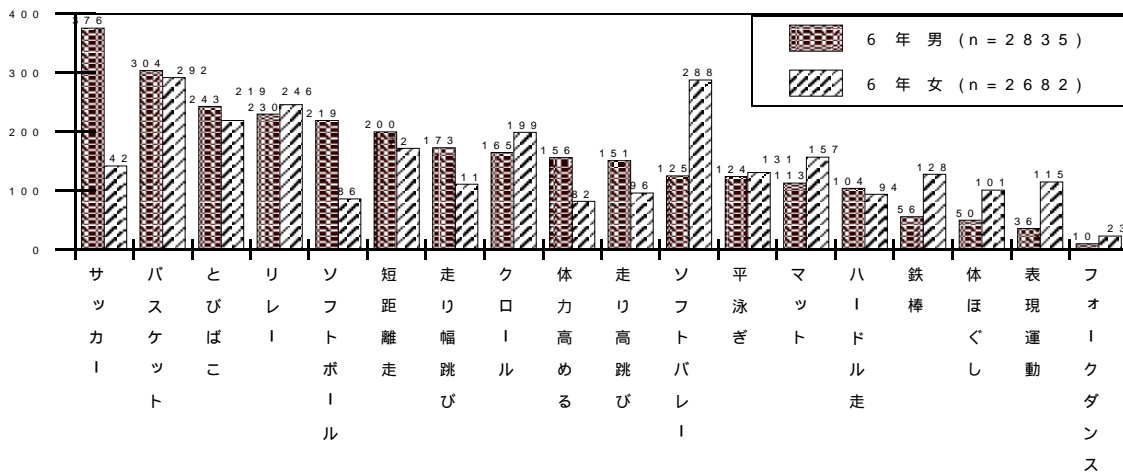


図13 体育の学習で好きな運動内容(6年生)

表1 体育科の領域構成と運動の内容

学 年	1 ・ 2	3 ・ 4	5 ・ 6
領 域	基本の運動 「力試しの運動遊び」		体 つ くり 運 動 「体ほぐし運動」 「体力を高める運動」
	「用具を操作する運動遊び」 「器械・器具を使って の運動遊び」	「器械・器具を 使ったの運動」	器 械 運 動 「マット運動」「鉄棒運動」 「跳び箱運動」
	「走・跳の運動遊び」	「走・跳の運動」	陸 上 運 動 「短距離走・リレー」 「ハードル走」 「走り幅・高跳び」
	「水遊び」	「泳ぐ・浮く 運動」	水 泳 「クロール」「平泳ぎ」（「背泳ぎ」）
	ゲーム 「ボールゲーム」	「バスケットボール型ゲーム」 「サッカー型ゲーム」 「ベースボール型ゲーム」 （「バレーボール型ゲーム」）	ボ ー ル 運 動 「バスケットボール」 「サッカー」 「ソフトボール」 「ソフトバレーボール」 （「ハンドボール」）
	「鬼遊び」		
	基本の運動 「表現リズム遊び」		表 現 運 動 「表現」と「リズムダンス」「表現」と「フォークダンス」
		保 健	

体育の学習で好きな運動内容（図11～図13）と表1を基に、運動の内容から領域を構成してみると、図14～図16のようになる。

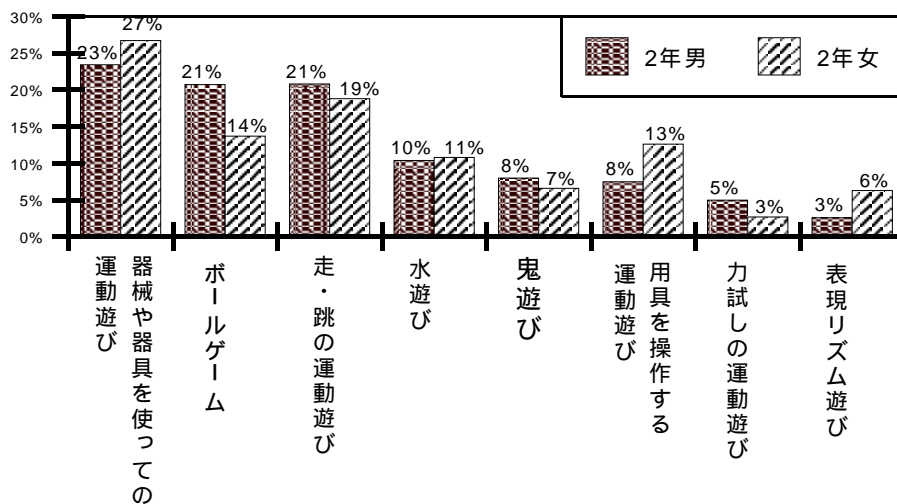


図14 体育の学習で好きな運動領域(2年生)

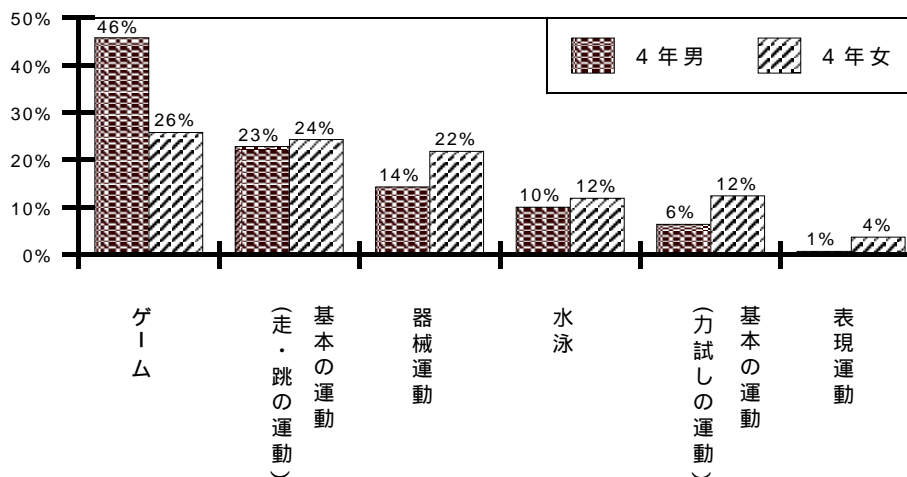


図15 体育の学習で好きな運動領域(4年生)

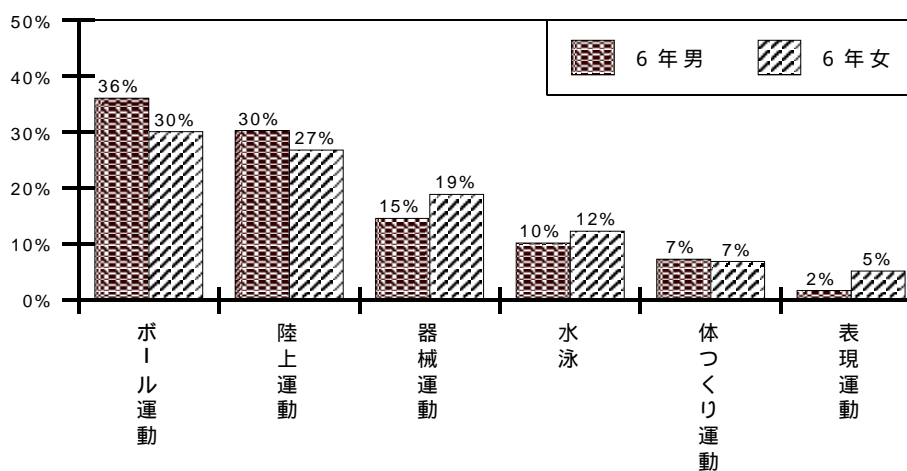


図16 体育の学習で好きな運動領域(6年生)

2年生男子で『好きな内容』は「ドッジボール」「水遊び」「ボール蹴り」の順であった。女子では「水遊び」「ドッジボール」「なわとび」の順であった。

また、『好まれない内容』を見てみると、男子は「リズム遊び」や「竹馬」、女子は「力試し」や「竹馬」であった。

これを領域で分けしてみると、2年生は男女ともに「器械・器具を使った運動遊び」が1位であった。男子の2位は「ボールゲーム」と「走・跳の運動遊び」、女子2位は「走・跳の運動遊び」で、3位は「ボールゲーム」、男子の4位は「水遊び」、女子は「用具を操作する運動遊び」であった。

4年生男子で『好きな内容』は「ドッジボール」「キックベースボール」「サッカー」の順であった。女子では「ドッジボール」「なわとび」「リレー」の順であった。

また、『好まれない内容』を見てみると、男子が「リズムダンス」女子は「表現運動」だった。

以上の内容を領域で分けしてみると、4年生は男女ともに「ゲーム（ボール運動）」が1位であった。2位は「走・跳の運動」、3位は「器械運動」であった。4位は男子が「水泳」、女子は「水泳」と「力試しの運動」で、5位は男子が「力試しの運動」、女子は「水泳」であった。6位は男女ともに「表現運動」であった。

6年生男子で『好きな内容』は「サッカー」「バスケットボール」「とびばこ」の順であった。女子では「バスケットボール」「ソフトバレーボール」「リレー」の順であった。

また、『好まれない内容』を見てみると、男女とも「フォークダンス」であった。領域別でみると、6年生は男女ともに「ボール運動」が1位であった。2位は「陸上運動」、3位は「器械運動」、4位は「水泳」、5位は「体づくりの運動」、6位は「表現運動」であった。

コラム2（前回調査との比較）

前回調査は、学習指導要領で示された領域の「好き」「きれい」に関して調査したため、グラフでの比較はできないが、今回と前回の一番好きな領域で比較してみると以下のようなになる。

表2 好きな運動領域

	4年生男子	4年生女子	6年生男子	6年生女子
前回調査	ゲ - ム	水 泳	ボール運動	水 泳
今回調査	ゲ - ム	ゲ - ム	ボール運動	ボール運動

オの設問から以下のような結果が得られた

2年生が一番好きな内容の「器械・器具を使つての運動遊び」は、固定遊具、マット、鉄棒、跳び箱などを使った遊びで、中・高学年の器械運動につながるものである。この運動は、ときに運動嫌いをつくる原因といわれるが、今回の結果からは、児童に好意的にとられていることがわかった。

その要因として、授業などで個別の到達目標の設定や、個別の指導が工夫されていることや、動作的にも相手に合わせる必要が少なく、自分自身のペースやリズムで運動できることなどが影響していえそうである。

4年生と6年生は、男女ともに「ボール運動」が一番好きな領域であった。前回調査でも、男子にとっては一番好きな領域であったが、女子は前回「水泳」が一番好きで「ボール運動」が2番目であった。今回、「ボール運動」が一番好きな領域になった理由として、人から攻撃を受けたり力量の差が現れやすいなどの女子がボール運動を嫌う原因となる負の要素があるが、チーム編成やゲーム方法の工夫によって、女子にも活躍の機会が与えられ、男女ともに楽しむことができるようになったからと考えることができる。

また、表現運動が男女ともに人気のない領域になっている理由としては、表現運動を扱う題材として難しいことと、他の領域に比べ、扱われている時間が少ないことが原因になっているようである。

学習内容を工夫し、体を動かし表現する楽しさを味わうことができれば、改善されると考える。

(3) 体育の学習の活動状況について

あなたは体育の時間、どのように活動していますか？

カ - 1 うまくなったり記録を伸ばすために、自分なりの目標やめあてをもって活動している(4・6年生)

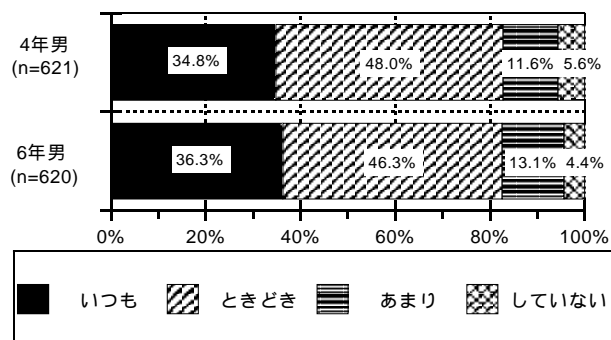


図17 目標やめあてをもつての活動(4・6年生男子)

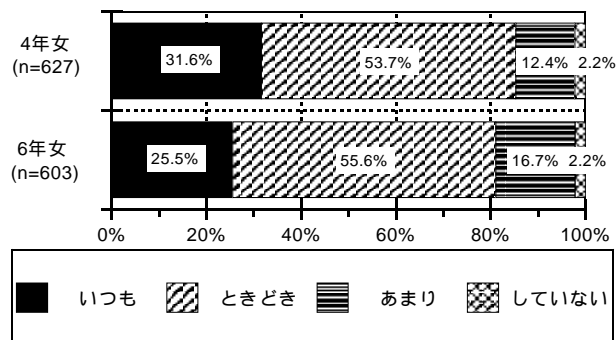


図18 目標やめあてをもつての活動(4・6年生女子)

目標やめあてをもつて活動しているか尋ねたところ、「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答を合わせると、4・6年生ともに80%以上の児童が、各自の目標やめあてを持って活動していると回答している。

なお、4年生は回答に男女差がほとんどみられないが、6年生になると「いつもそうしている」の割合が男子に比べ、女子の方が減少していることがわかった。

また、「まったくしない」という児童を比較してみると、両学年ともに男子の方がやや多い傾向が見られた。

コラム3 (前回調査との比較)

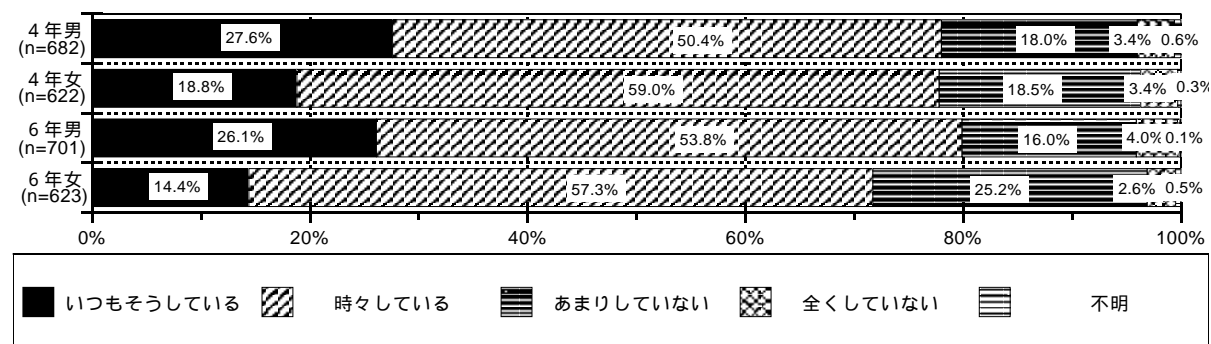


図 目標やめあてをもつての活動(前回調査)

前回調査と今回の結果を比較すると「いつもそうしている」「ときどきしている」を合わせた割合は、男女ともに増加した。増加率は女子の方が高かった。

()内は前回調査

4年生男子：82.8% (78.0) 4年生女子：85.4% (77.8)

6年生男子：82.6% (79.9) 6年生女子：81.1% (71.7)

カ - 2 めあてが自分に合っているか、考えながら活動している（4・6年生）

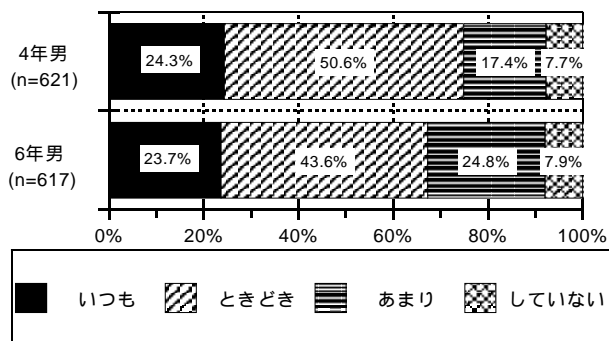


図19 めあてが合っているか考えての活動
(4年・6生男子)

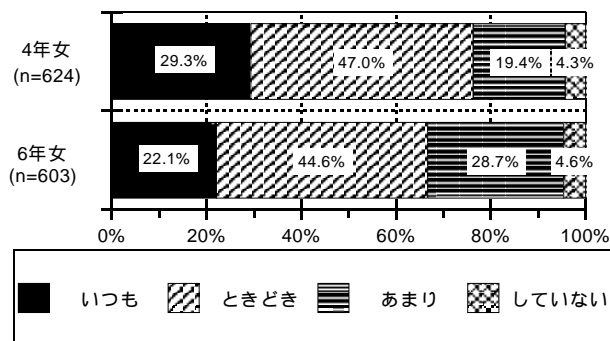


図20 めあてが合っているか考えての活動
(4年・6生女子)

めあてが自分に合っている、考えながら活動してか尋ねたところ、「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答を合わせると、4年生男子74.9%、4年生女子76.3%、6年生男子67.3%、6年生女子66.7%の児童が、めあてが自分に合っているか、考えながら活動していると回答しており、この設問については、学年差がはっきり現れた。

しかし、「まったくしていない」をしてみると、4年生男子7.7%、6年生男子7.9%、4年生女子4.3%、6年生女子4.6%と、学年差よりも男女差が大きいという結果になった。

コラム4 (前回調査との比較)

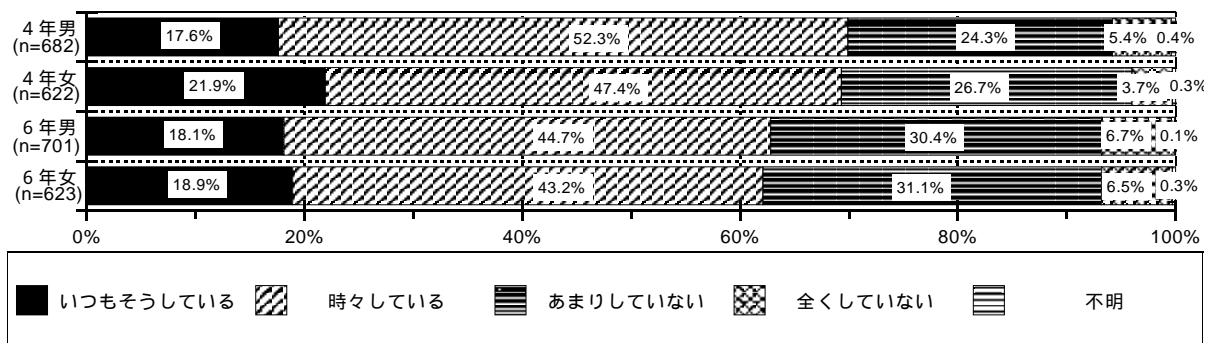


図 めあてが合っているか、考えての活動 (前回調査)

前回調査と今回の結果を比較すると「いつもそうしている」「ときどきしている」を合わせた割合は、男女ともに増加した。

()内は前回調査

4年生男子：74.9% (69.9%) 4年生女子：76.3% (69.3%)
6年生男子：67.3% (62.8%) 6年生女子：66.7% (62.1%)

カ - 3 練習の場所や仕方など、いろいろ工夫して活動している（４・６年生）

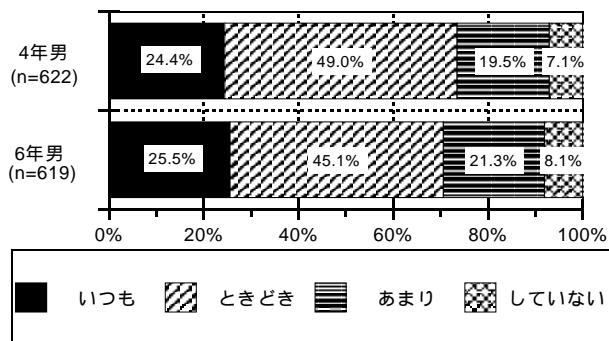


図21 練習場所や仕方を工夫しての活動
(４・６年生男子)

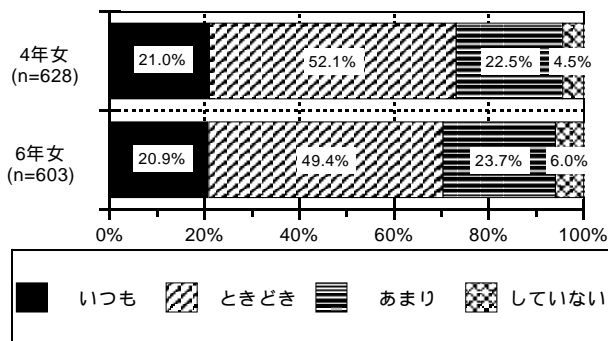


図22 練習場所や仕方を工夫しての活動
(４・６年生女子)

練習の場所や仕方など、いろいろ工夫しているか尋ねたところ、「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答を合わせると、４年生男子73.4%、６年生男子70.6%、４年生女子73.1%、６年生女子70.3%の児童が、いろいろ工夫して活動しているという回答であった。

また、「あまりしていない」「まったくしていない」の回答を合わせると、４年生男子26.6%、６年生男子29.4%、４年生女子27.0%、６年生女子29.7%であった。この結果から、男女とも、学年や男女差に関係なく、工夫しながら学習していることがわかった。

なお、「まったくしていない」だけを見ると、女子より男子の方が割合が高い。

コラム5 (前回調査との比較)

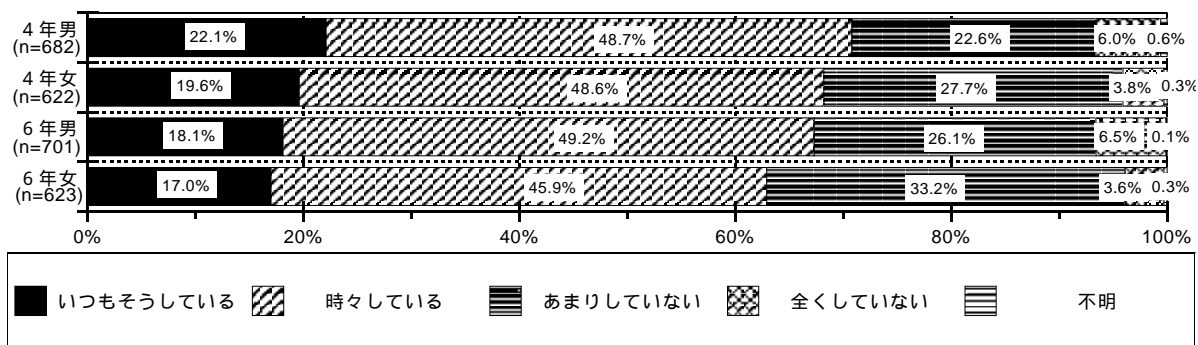


図 練習場所や仕方を工夫しての活動 (前回調査)

前回調査と今回の結果を比較すると「いつもそうしている」「ときどきしている」を合わせた割合は、男女ともに増加した。

()内は前回調査

４年生男子：73.4% (70.8) ４年生女子：73.1% (68.2)

６年生男子：70.6% (67.3) ６年生女子：70.3% (62.9)

カ - 4 友だちとお互いに教え合ったり、協力し合って活動している（全学年）

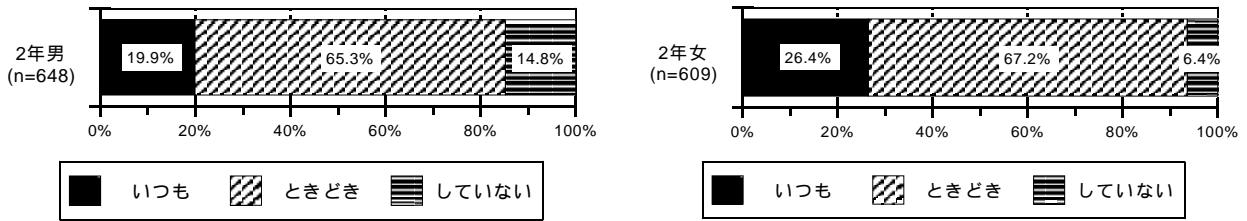


図23 教え合ったり協力し合ったりの活動(2年生)

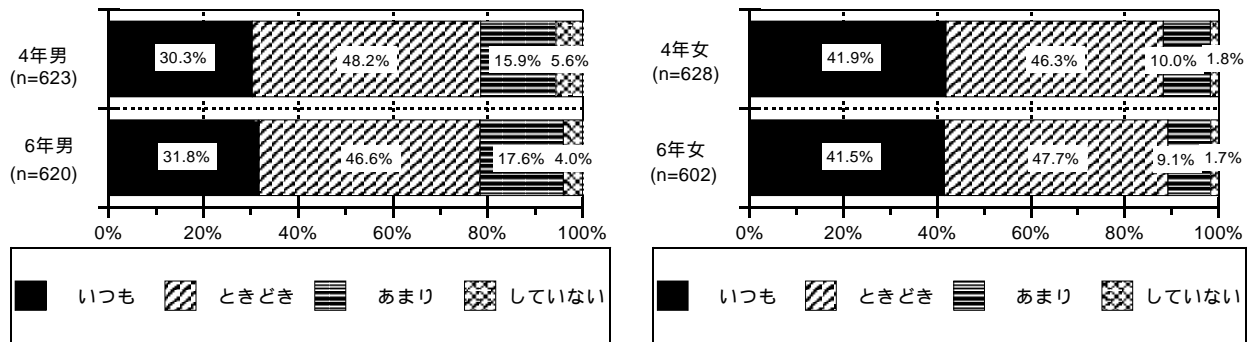


図24 教え合ったり協力し合ったりの活動 (4・6年生男子)

図25 教え合ったり協力し合ったりの活動 (4・6年生女子)

2年生に友だちとお互いに教え合ったりしているか尋ねたところ、「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答を合わせると、男子85.2%、女子93.6%であった。また、「まったくしていない」の回答は、男子14.8%、女子6.4%であった。

同じく4・6年生では、「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答を合わせると、4年生男子78.5%、6年生男子78.4%、4年生女子88.2%、6年生女子89.2%であり、全学年で女子の方が高い割合になった。

また、「あまりしていない」「まったくしていない」の回答を合わせると、4年生男子21.5%、6年生男子21.6%、4年生女子11.8%、6年生女子10.8%と女子に比べ、全学年で男子の方が多く、学年差より男女差が大きく現れた。

コラム6 (前回調査との比較)

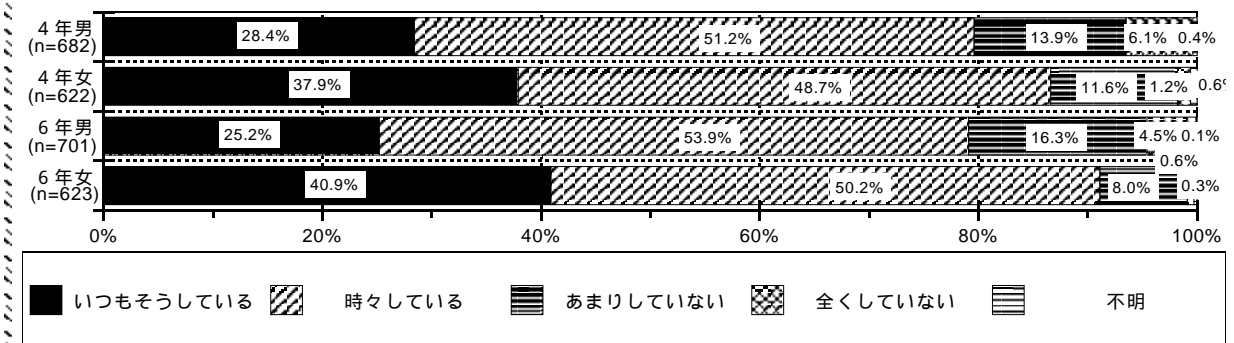


図 教え合ったり協力し合ったりの活動(前回調査)

前回調査と今回の結果を比較すると「いつもそうしている」「ときどきしている」を合わせた割合は、男女ともに大きな変化はなかった。

()内は前回調査

4年生男子：78.5% (79.6) 4年生女子：88.2% (86.6)
6年生男子：78.4% (79.1) 6年生女子：89.2% (91.1)

カ - 5 学習を反省したり、できたかどうか確かめながら活動している (4・6年生)

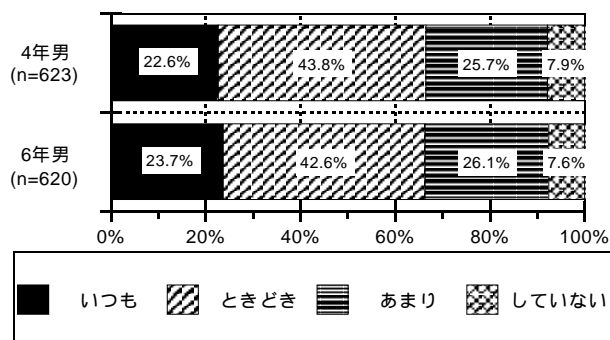


図26 反省や確かめの活動 (4・6年生男子)

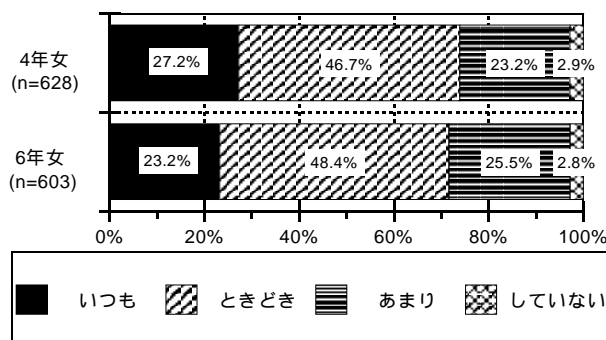


図27 反省や確かめの活動 (4・6年生女子)

学習を反省したり、できたかどうか確かめながら活動しているか尋ねたところ、「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答を合わせると、4年生男子66.4%、6年生男子66.3%、4年生女子73.9%、6年生女子71.6%の児童が、学習を反省したり、できたかどうか確かめながら活動していると回答している。

また、「まったくしていない」に注目してみると、4年生男子7.9%、6年生男子7.6%、4年生女子2.9%、6年生女子2.8%と女子に比べ男子の方が多かった。

コラム7 (前回調査との比較)

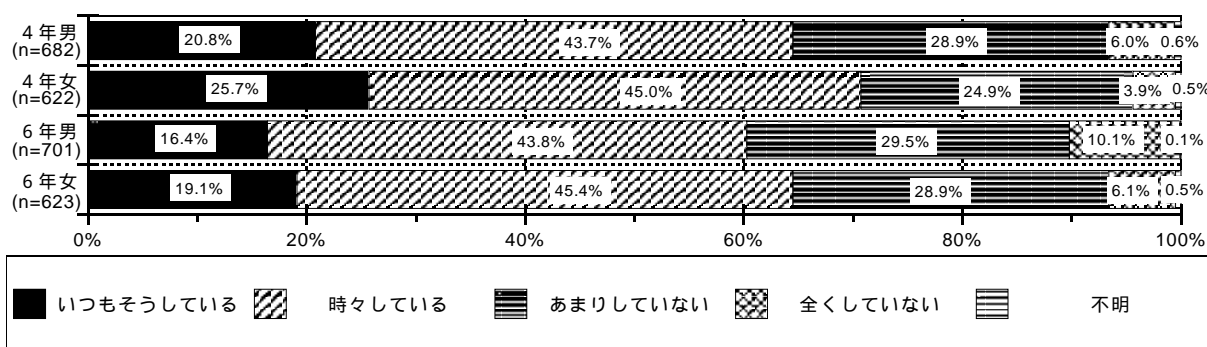


図 反省や確かめの活動 (前回調査)

前回調査と今回の結果を比較すると「いつもそうしている」「ときどきしている」を合わせた割合は、男女とも増加していた。増加率が6年生の方が高かった。

()内は前回調査

4年生男子：66.4% (64.5) 4年生女子：73.9% (70.7)
6年生男子：66.3% (60.2) 6年生女子：71.6% (64.5)

カ - 6 精一杯最後まで全力を尽くして活動している（全学年）

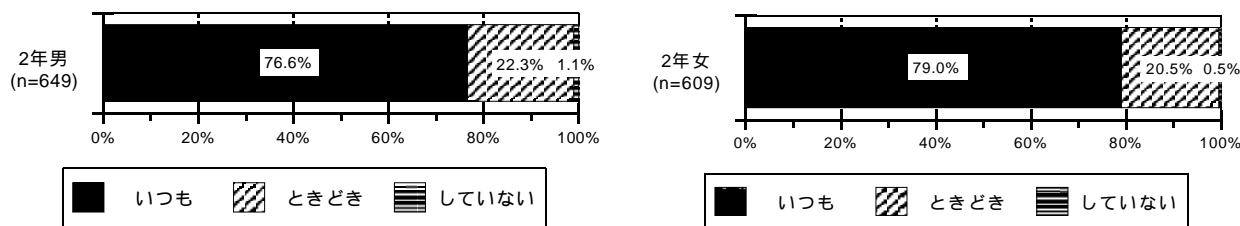


図28 最後まで全力を尽くしての活動(2年生)

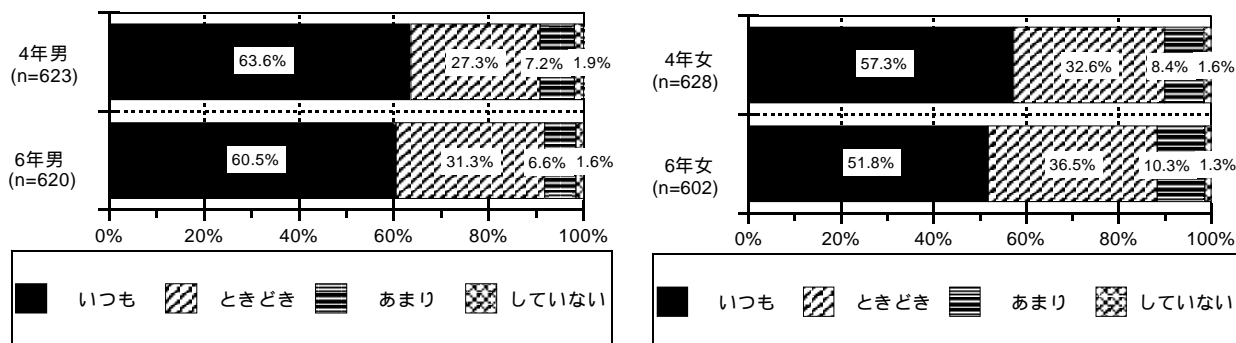


図29 最後まで全力を尽くしての活動
(4・6年生男子)

図30 最後まで全力を尽くしての活動
(4・6年生女子)

精一杯最後まで全力を尽くして活動しているか尋ねたところ、「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答を合わせると、2年生男子98.9%、2年生女子99.5%であった。「まったくしていない」と回答した2年生は、男女ともにほとんどいなかった。

4・6年生では、「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答を合わせると、4年生男子90.9%、6年生男子91.8%、4年生女子89.9%、6年生女子88.3%の児童が、精一杯最後まで全力を尽くして活動していると回答している。

しかし、「いつもそうしている」に注目してみると、学年進行に伴い、若干減少していることがわかった。

また、「あまりしていない」「まったくしていない」の回答を合わせると、4年生男子9.1%、6年生男子8.2%、4年生女子10.0%、6年生女子11.6%であった。2年生に比べ、4・6年生では、精一杯最後まで全力を尽くして活動していない児童が増加していることがわかった。

コラム 8 (前回調査との比較)

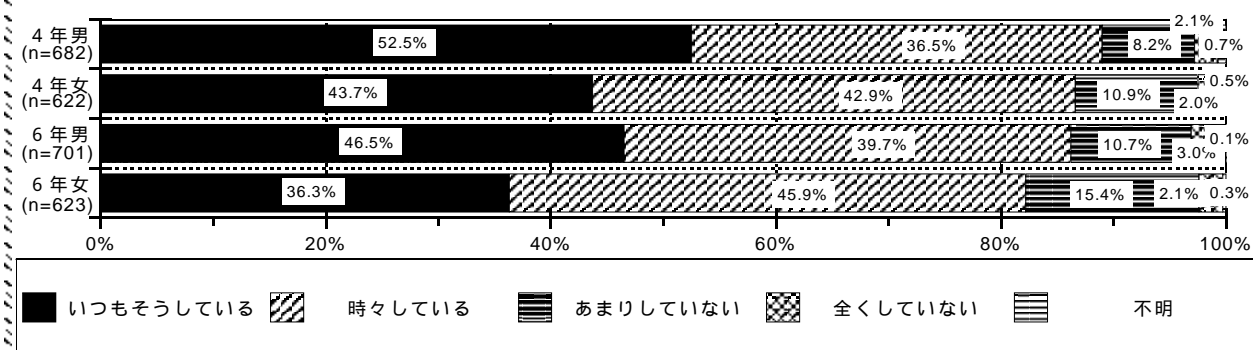


図 最後まで全力を尽くしての活動 (前回調査)

前回調査と今回の結果を比較すると「いつもそうしている」「ときどきしている」を合わせた割合は、男女とも増加した。増加率は6年生の方が高かった。

() 内は前回調査

4年生男子：90.9% (89.0) 4年生女子：89.9% (86.6)

6年生男子：91.8% (86.2) 6年生女子：88.3% (82.2)

カ - 7 準備や片づけに進んで取り組んだり、自分の役割を果たそうと活動している (全学年)

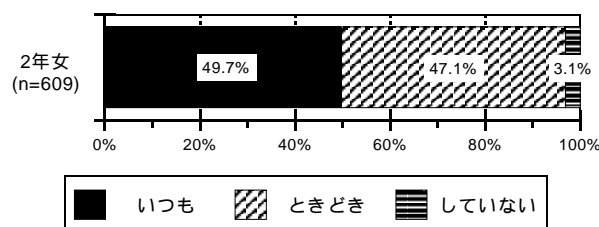
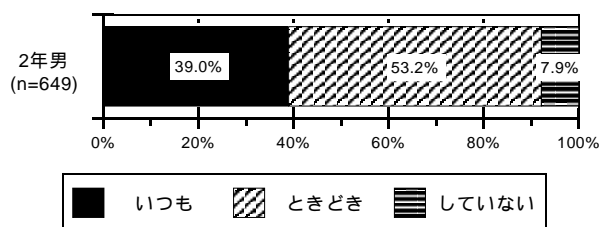


図31 準備や片付けに進んで取り組む活動 (2年生)

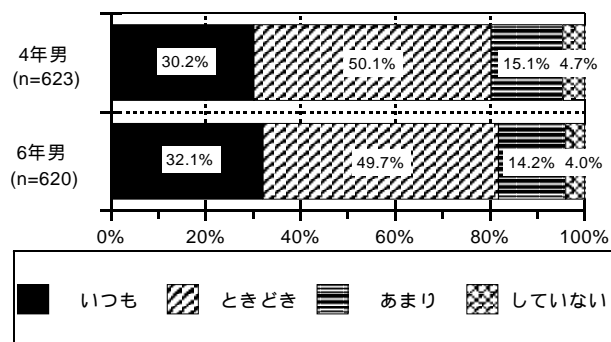


図32 準備や片付けに進んで取り組む活動 (4・6年男子)

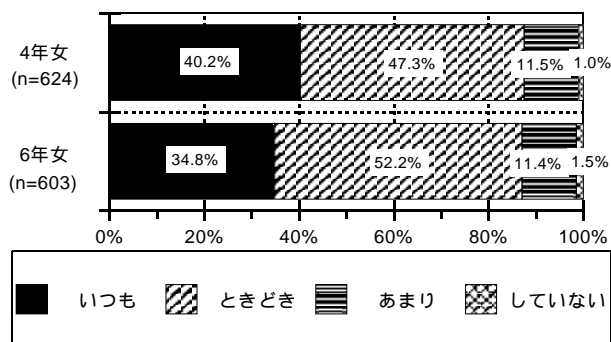


図33 準備や片付けに進んで取り組む活動 (4・6年女子)

2年生に準備や片づけに進んで取り組んだり、自分の役割を果たそうと活動しているか尋ねたところ、「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答を合わせると、男子92.2%女子は96.9%の児童が準備や片づけに進んで取り組んだり、自分の役割を果たそうと活動していると回答している。

また、「まったくしていない」と回答した2年生は男子7.9%、女子3.1%であった。

同じく4・6年生では、「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答を合わせると、4年生男子80.3%、6年生男子81.8%、4年生女子87.5%、6年生女子87.0%の児童が、準備や片づけに進んで取り組んだり、自分の役割を果たそうと活動していると回答している。

なお、「いつもそうしている」に注目してみると、男子に比べ女子の方が取り組んでいる割合が高いが、学年進行に伴い、減少しているのがわかる。反対に男子は、4年生から6年生に学年進行してもほとんど変化がないことがわかった。

また、「あまりしていない」「まったくしていない」の回答を合わせると、4年生男子19.8%、6年生男子18.2%、4年生女子12.5%、6年生女子12.9%で女子に比べ男子の方が多いいことがわかった。

コラム9 (前回調査との比較)

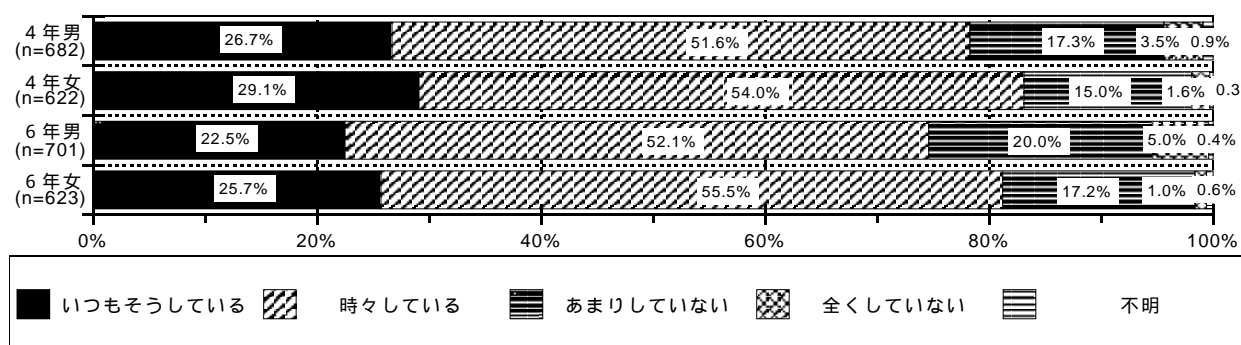


図 準備や片づけに進んで取り組む活動 (前回調査)

前回調査と今回の結果を比較すると「いつもそうしている」「ときどきしている」を合わせた割合は、男女とも増加した。

()内は前回調査

4年生男子：80.3% (78.3) 4年生女子：87.5% (83.1)

6年生男子：81.8% (74.6) 6年生女子：87.0% (81.2)

キ - 1 あなたは体育の学習で自分のめあてをどのようにして決めますか？（4・6年生）

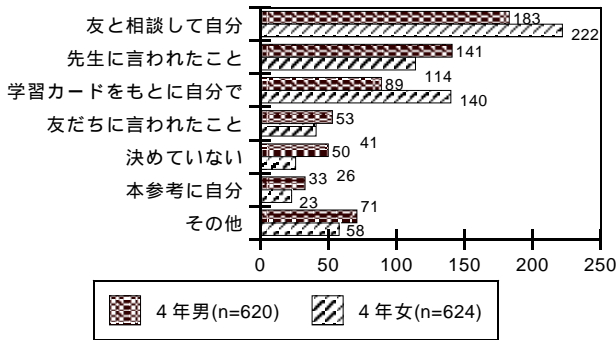


図34 自分のめあての決め方(4年生)

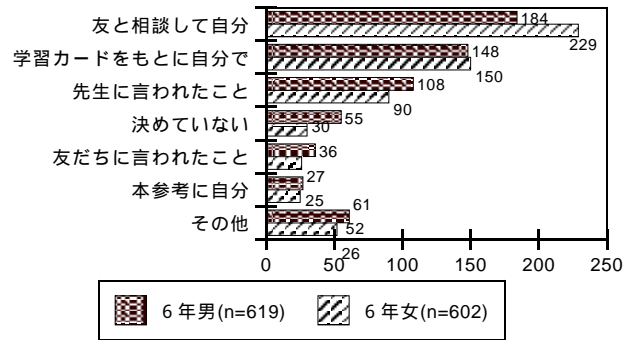


図35 自分のめあての決め方(6年生)

あなたは体育の学習で自分のめあてをどのようにして決めますかと尋ねたところ、4・6年生の男女ともに「友だちと相談して自分で決める」と回答した児童が一番多く、二番目に4年生女子と6年生男女は「学習カードで学習を振り返り、その反省をもとに自分で決める」と回答しており、三番目に「先生にいわれたことをめあてにしている」と回答している。4年生男子だけ、二番目と三番目が入れ替わっている。

なお、「友だちと相談して自分で決める」と「学習カードで学習を振り返り、その反省をもとに自分で決める」と回答を合わせると、男子に比べ女子の方が割合が多いことがわかった。

また、「わからないのできめていない」と回答した児童は女子より男子に多かった。

学年進行に伴って、「先生にいわれたことをめあてにしている」と回答した児童の割合が減り「学習カードで学習を振り返り、その反省をもとに自分で決める」と回答した児童の割合が増加する傾向が見られた。

コラム10 (前回調査との比較)

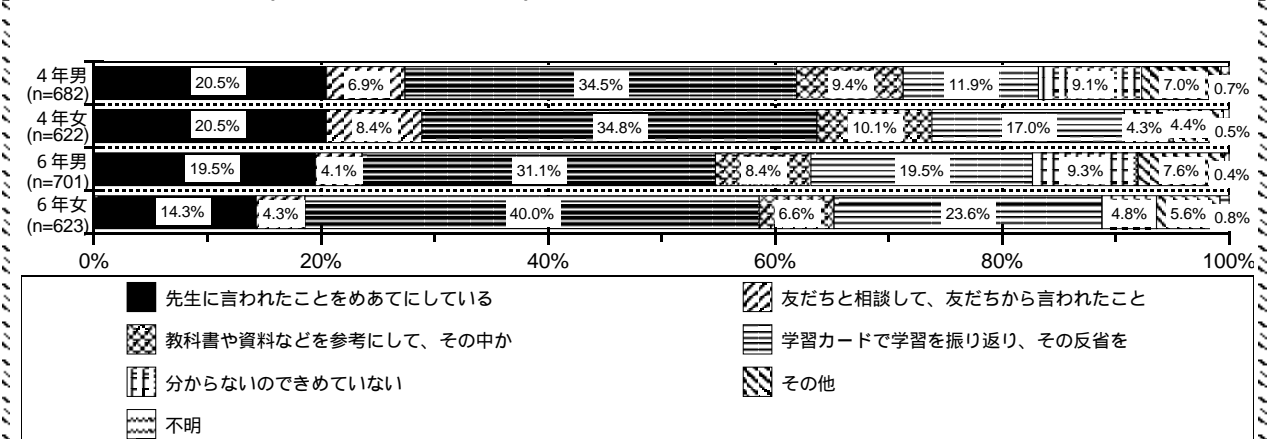


図 自分のめあての決め方(前回調査)

前回調査では、「友だちと相談して、自分で決める」「学習カードで学習を振り返り、その反省をもとに自分で決める」「先生にいわれたことをめあてにしている」などの回答が多く、今回の結果と自分のめあての決め方について、ほとんど変わらないことがわかった。

キ - 2 あなたは体育の学習において、めあてがうまく達成できないとき
どうしますか？（4・6年生）

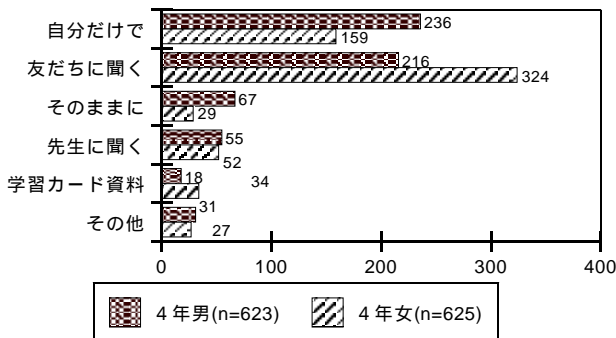


図36 めあてがうまく達成できないときの行動
(4年生)

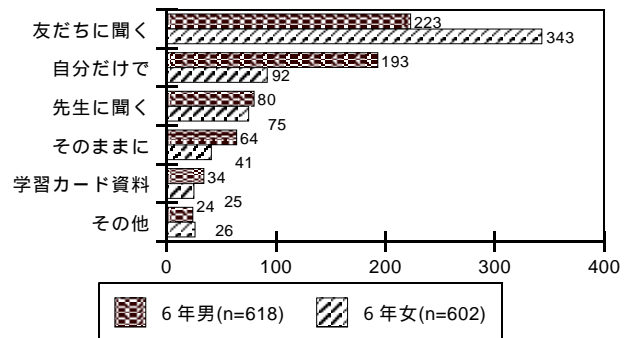


図37 めあてがうまく達成できないときの行動
(6年生)

4年生女子と6年生男女は「友だちに聞く」と回答した児童が最も多く、二番目に「自分だけでがんばる」と回答している。4年生男子だけ、一番目と二番目が入れ替わっている。「先生に聞く」は三番目であった。「わからないのでだいたいそのままにしておく」と回答した児童は女子より男子に多かった。

また、男女ともに学年進行に伴って「自分だけでがんばる」と回答した児童の割合が減り「友だちに聞く」と回答した児童の割合が増加している。そして、その傾向は女子の方が強い。

コラム11 (前回調査との比較)

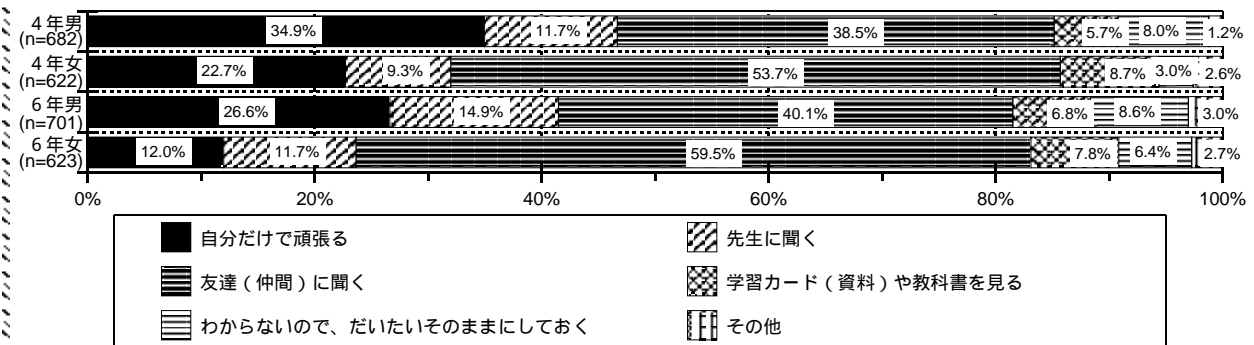


図 めあてがうまく達成できないときの行動(前回調査)

前回調査では、「友だち(仲間)に聞く」「自分だけでがんばる」「先生に聞く」などの回答が多く、今回の結果と自分のめあてがうまく達成できないときについて、前回調査とほとんど変わらないことがわかった。

カ - 1 ~ カ - 7 と キ - 1、2 の設問から以下のような結果が得られた

上記のカ - 1 ~ カ - 7 の設問は、体育の時間の活動状況について指導要録が示す観点との関連を考慮して、「関心・意欲・態度」についてはカ - 1、カ - 4、カ - 6、カ - 7 で「思考・判断」については、カ - 2、カ - 3、カ - 5 で尋ねた結果である。

体育の学習について、全体として自分の目標や「めあて」を持ち、練習の仕方や場の工夫を行い、友だちと協力して最後まで意欲的取り組んでいる様子が見られた。

つまり、体育の学習から楽しさを味わい、仲間とのかかわりを重視し、「めあて」を明らかにした課題解決的な学習形態で授業が展開されているということである。

また、「めあて」の確かめや反省も60%~70%の児童が行っていることから、課題解決型学習（PDCA サイクル）の形態が確立される方向にあるといえそうである。

しかし学年が進むに従い「めあて」を持つことや確かめ、反省を行わなくなる傾向にあった。これは体育を好まなくなる傾向と関連し高学年の体育学習に対する意欲の低下と考えられる。

「関心・意欲・態度」に関しては、学年差はなく大変高いことがわかった。このことから、低学年の段階から学習に対して強い興味・関心を持つとともに学習への取り組む姿勢が身に付いてきていると判断できる。

また、男子は学習に対して「全力で活動する」に、女子は「友だちと協力し合って活動する」や「自分の役割を果たす」などに強く現れるなど、それぞれの特徴が見られた。

「思考・判断」の学び方の面では、学年が進むにつれ、女子に若干の低下傾向は見られたが、男女の大きな違いはみられなかった。全体的にみると、60%~70%の児童が何らかの形で、発達段階に応じた自己の課題を持って活動し、工夫していることがわかった。

学習指導要領の体育科について「自分の力に合った運動の課題をもち、その課題の解決をめざして活動を考えたり工夫したりすることができる」と明記されている。

この点から「めあて」の設定の仕方について考えてみると、「友だちと相談して自分で決める」や「学習カードで学習を振り返り、その反省をもとに自分で決める」と回答した児童が学年進行に伴って増加し、「先生にいわれたことをめあてにしている」が減少していることから、学習に対して子どもたちが自ら進んで取り組む自発性が身に付いてきているように思われる。このことは、「めあて」がうまく達成できないとき、学年が進むにしたがって「自分だけでがんばる」と回答した児童の割合が減り「友だちに聞く」と回答した児童の割合が増加していることでより明確になっている。

ただし、「めあて」に対して考えながら活動したり、工夫したりしていないと回答した児童も20%~30%いることも事実である。児童一人ひとりが自分の「めあて」を決め、練習の仕方や場の工夫をしながら「めあて」の達成をめざし、確かめるといった学習形態は徐々に浸透してきているが、すべての児童への定着には至っていないということである。

しかしながら、「めあて」が「わからないのできめていない」や、うまく達成できないとき「わからないのでだいたいそのままにしておく」と回答した児童は、学年が進行しても大幅な増加は見られない。

つまり、低・中学年のうちに学習の「学び方」をきちんと理解していれば、学年が進行しても「学び方」や「自発性」が身に付いていることを示していると考えられる。

したがって、児童一人ひとりの発達段階を考慮し、個に応じたきめ細かい指導の必要性が再確認されたといえる。

ク - 1 あなたは体育の学習が「楽しい」と感じたことはありますか？（４・６年生）

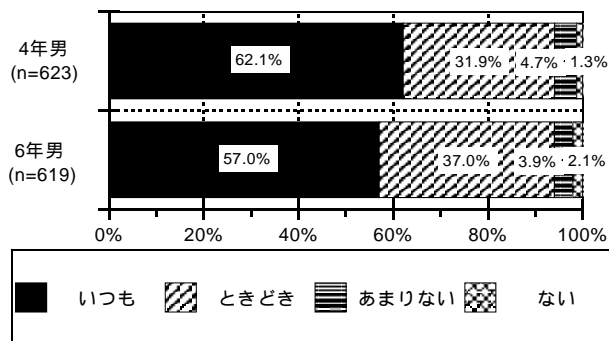


図38 体育の学習が楽しいと感じたことがあるか (4・6年生男子)

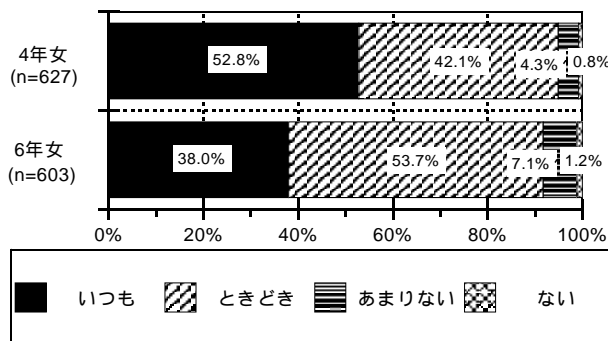


図39 体育の学習が楽しいと感じたことがあるか (4・6年生女子)

あなたは体育の学習が「楽しい」と感じたことはありますかと尋ねたところ、「いつも感じる」と「ときどき感じる」の回答を合わせると、4年生男子94.0%、6年生男子94.0%、4年生女子94.9%、6年生女子91.7%であった。

「いつも感じる」に注目してみると、4年生男子62.1%、6年生男子57.0%、4年生女子52.8%、6年生女子38.0%と、男女とも学年進行に伴い減少し、減少率は女子の方が大きい。

「あまり感じない」と「あまり感じたことがない」の回答を合わせると、4年生男子6.0%、6年生男子6.0%、4年生女子5.1%、6年生女子8.3%であった。

この結果は、「体育の学習が好きですか」に対する回答結果とほぼ同じになった。

90%以上の児童が体育の学習が「楽しい」と感じているが、男女別にみると男子は4年生と6年生で、ほとんど割合が変わらないのに対し、女子は、4年生に比べ6年生で減少している。また、女子では「楽しい」と感じない児童の増加傾向もみられた。

コラム12 (前回調査との比較)

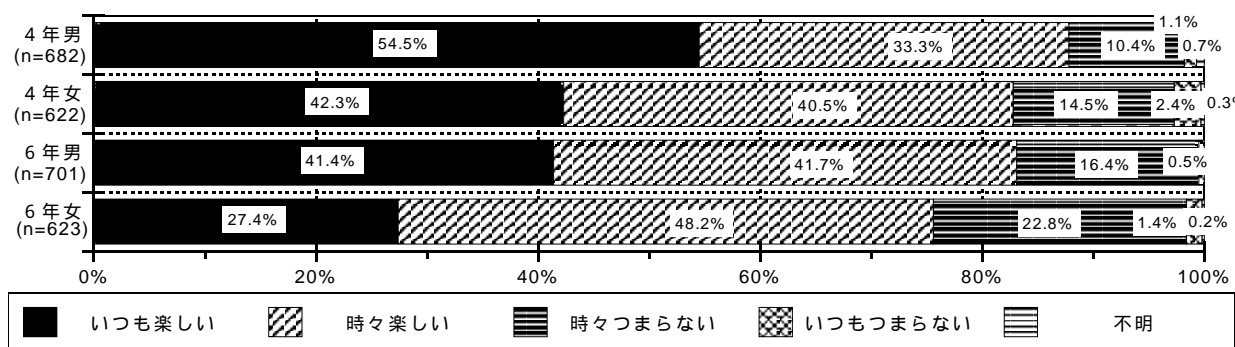


図 体育の学習が楽しいと感じたことがあるか (前回調査)

前回調査と今回の結果を比較すると「いつも感じる(いつも楽しい)」「ときどき感じる(ときどき楽しい)」を合わせた割合は、男女ともに大きく増加した。増加率は6年生の方が高かった。

()内は前回調査

4年生男子：94.0%（87.8） 4年生女子：94.9%（82.8）
 6年生男子：94.0%（83.1） 6年生女子：91.7%（75.6）

ク - 2 あなたは体育の学習が「楽しい」と感じたときはどんなときですか？
 （4・6年生複数回答）

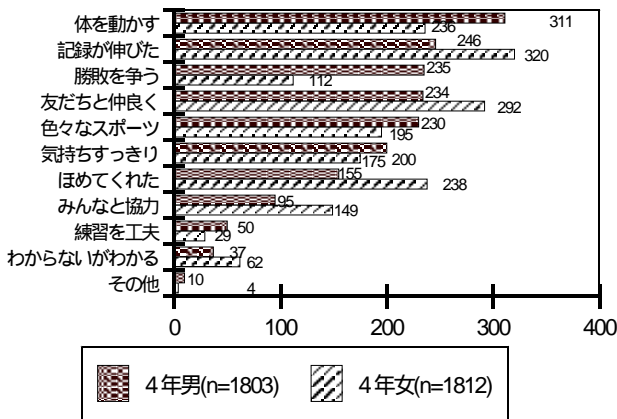


図40 どんな時に体育の学習が楽しいと感じるか
 （4年生）

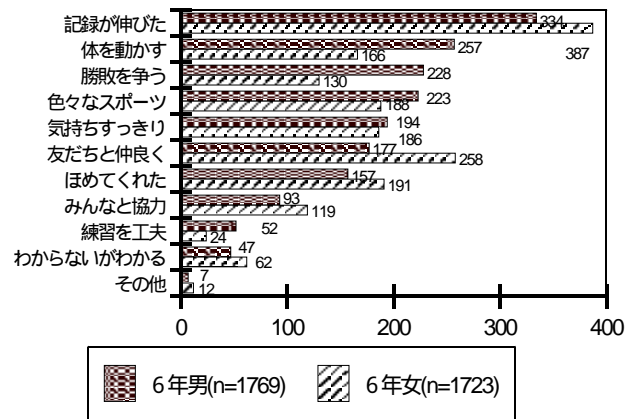
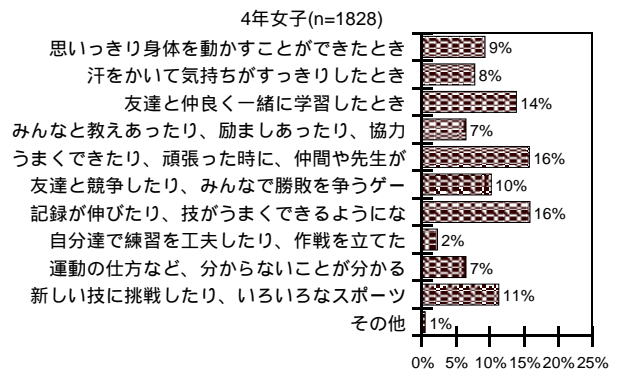
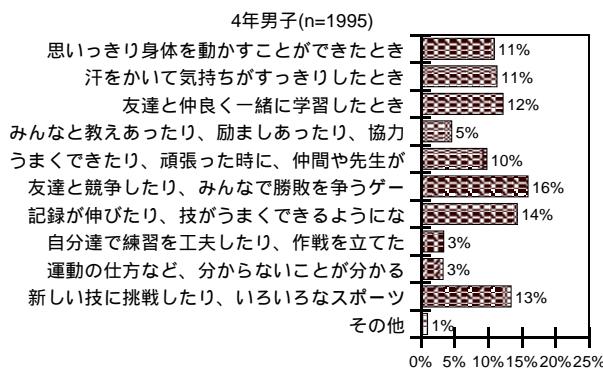


図41 どんな時に体育の学習が楽しいと感じるか
 （6年生）

この結果からみると、体育の学習でもっとも多くの児童が「楽しい」と感じるのは、4年生男子で「思いきり身体を動かすことができたとき」、4年生女子と6年生男女は「記録が伸びたりできなかつたことができるようになったとき」であった。次に4年生男子は「記録が伸びたりできなかつたことができるようになったとき」で6年生男子は「思いきり身体を動かすことができたとき」だった。女子は、4・6年生ともに「友だちと仲よく一緒に学習できたとき」「うまくできたり、がんばったときに仲間や先生がほめてくれたとき」の順であった。このことから男女ともに、仲間と一緒に学習し、達成感を感じることが「楽しい」と感じていることがわかった。

「楽しさ」の感じ方には学年差より、男女差がはっきり現れていた。

コラム13（前回調査との比較）



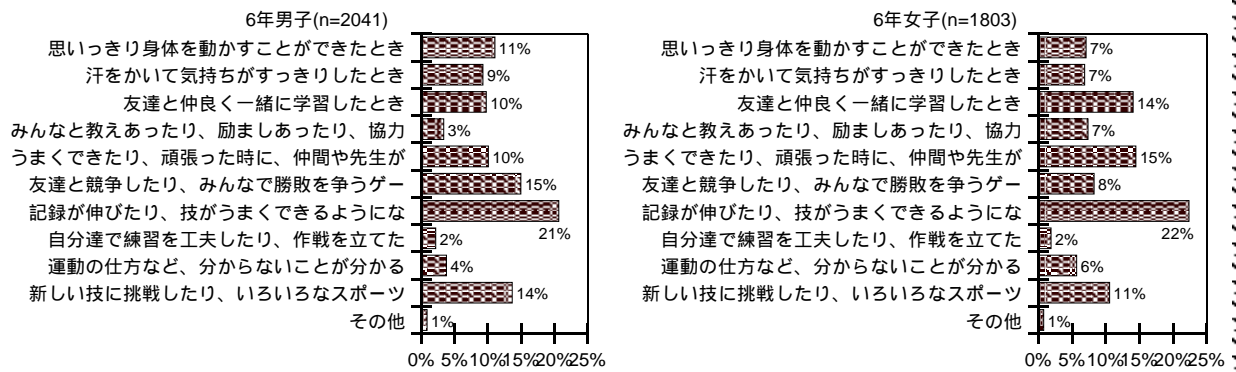


図 2 どんな時に体育の学習が楽しいと感じるか（前回調査）

前回調査と今回の結果を比較するとほぼ同じ結果となった。男女ともに目標を達成できたときに楽しさを感じる。男子は他と競争したり、いろいろなことに挑戦したりすること。女子は仲間と一緒に学習できること。これらのことは、10年前の児童の姿と変わらない。ただし、男子で「思いっきり身体を動かすことができたとき」が増加し、女子の「うまくなったり、がんばったときに仲間や先生がほめてくれたとき」は減少した。

ケ - 1 あなたは体育の学習が「つまらない」と感じたことはありますか？（全学年）

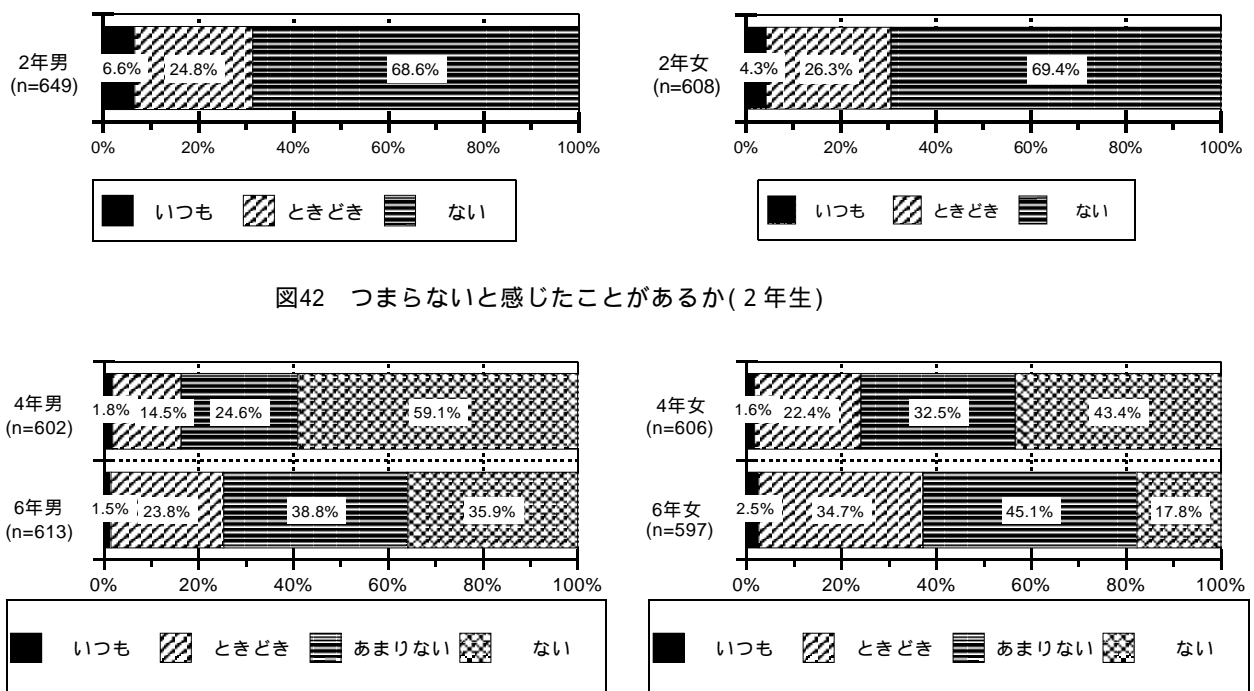


図42 つまらなと感じたことがあるか(2年生)

図43 体育の学習がつまらなと感じたことがあるか (4・6年生男子)

図44 体育の学習がつまらなと感じたことがあるか (4・6年生女子)

2年生にあなたは体育の学習が「つまらない」と感じたことはありますかと尋ねたところ、「感じたことがない」と回答した男子は68.6%、女子は69.4%であり、「いつも感じる」と回答した男子は6.6%、女子は4.3%であった。

4・6年生にあなたは体育の学習が「つまらない」と感じたことはありますかと尋ねたところ、「感じたことがない」と「あまり感じない」の回答を合わせると、4年生男子83.7%、6年生男子74.7%、4年生女子75.9%、6年生62.9%であった。

「感じたことがない」に注目してみると4年生男子59.1%、6年生男子35.9%、4年生女子43.4%、6年生女子17.8%と、男女ともに学年進行に伴い減少し、減少率は女子の方が大きい。

また、「ときどき感じる」と「いつも感じる」の回答を合わせると、4年生男子16.3%、6年生男子25.3%、4年生女子24.0%、6年生女子37.2%であった。4・6年生については、学年進行に伴い、「いつも感じる」の割合がほとんど変化がないことから、「ときどき感じる」の割合が大きく増加していることがわかる。

コラム14 (前回調査との比較)

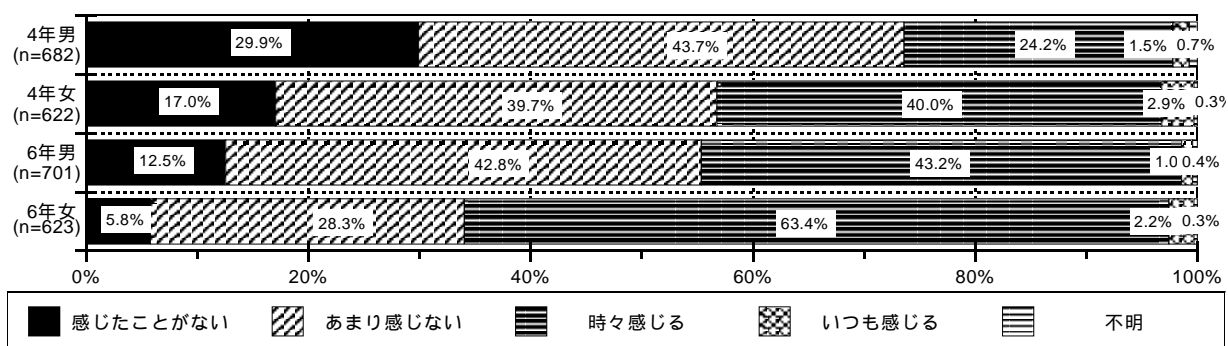


図 体育の学習がつまらなさと感じたことがあるか (前回調査)

前回調査と今回の結果を比較すると「感じたことがない」「あまり感じない」を合わせた割合は、男女ともに大きく増加した。増加率は6年生の方が高く、女子においては特に顕著であった。

()内は前回調査

4年生男子：83.7% (73.6) 4年生女子：75.9% (56.7)
 6年生男子：74.7% (55.3) 6年生女子：62.9% (34.1)

ケ - 2 あなたは体育の学習が「つまらない」と感じたときはどんなときですか？

(「いつも感じる」「ときどき感じる」「あまり感じない」と答えた4・6年生の児童 複数回答)

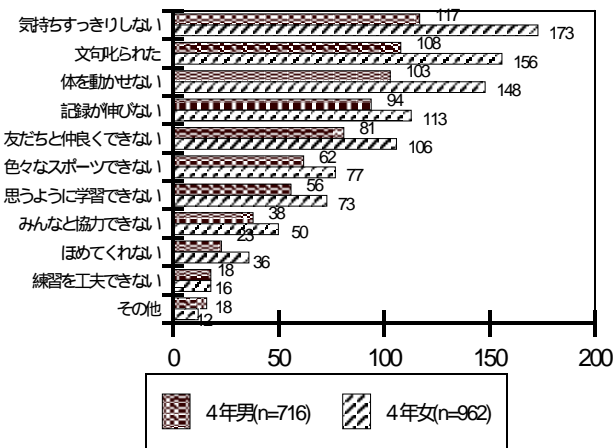


図45 どんなときにつまらないと感じるか(4年生)

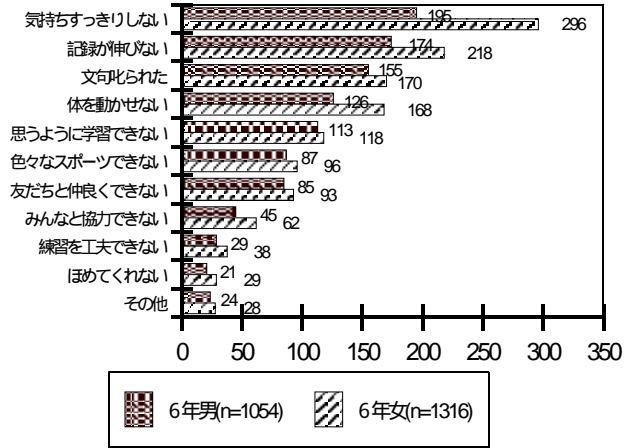


図46 どんなときにつまらないと感じるか(6年生)

体育の学習で「つまらない」と感じるのは、4年生は男女とも「気持ちがすっきりせず、疲れたとき」「うまくできなかったときなどに友だちから文句を言われたり、先生から叱られたとき」の順であった。6年生は男女とも「気持ちがすっきりせず、疲れたとき」「練習しても記録が伸びなかったり練習してもうまくならなかったとき」の順であった。

このことから男女ともに、ストレスを解消できなかったときや目標達成ができなかったとき、そして、他人から中傷されたときに「つまらない」と感じていることがわかった。

コ あなたは体育の学習で、けがをしないためにどんなことを心がけていますか？

(4・6年生 複数回答)

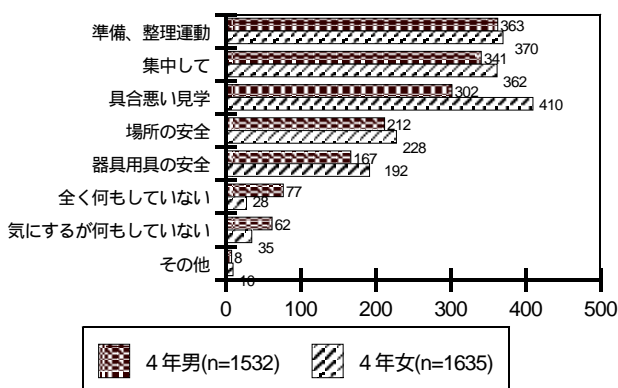


図47 けがをしないために心がけること(4年生)

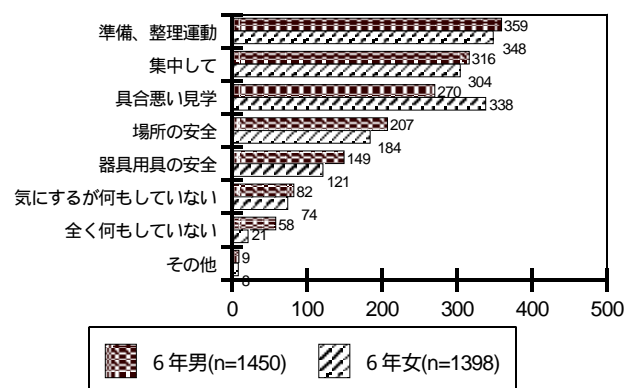


図48 けがをしないために心がけること(6年生)

あなたは体育の学習で、けがをしないためにどんなことを心がけていますかと尋ねたところ、4・6年生男子は、「準備運動や整理運動を十分にしている」が最も多く、次に「気を

抜かないで集中して取り組むようにしている」「具合が悪かったり病気やけがのときは見学するようにしている」の順であった。

4年生女子は、「具合が悪かったり病気やけがのときは見学するようにしている」が最も多く、次に「準備運動や整理運動を十分にしている」「気を抜かないで集中して取り組むようにしている」の順であった。

6年生女子は、「準備運動や整理運動を十分にしている」が最も多く、次に「具合が悪かったり病気やけがのときは見学するようにしている」「気を抜かないで集中して取り組むようにしている」の順であった。

男女の差は多少みられるが、けがをしないために心がけていることは、この3項目が中心となっていることがわかった。

コラム15 (前回調査との比較)

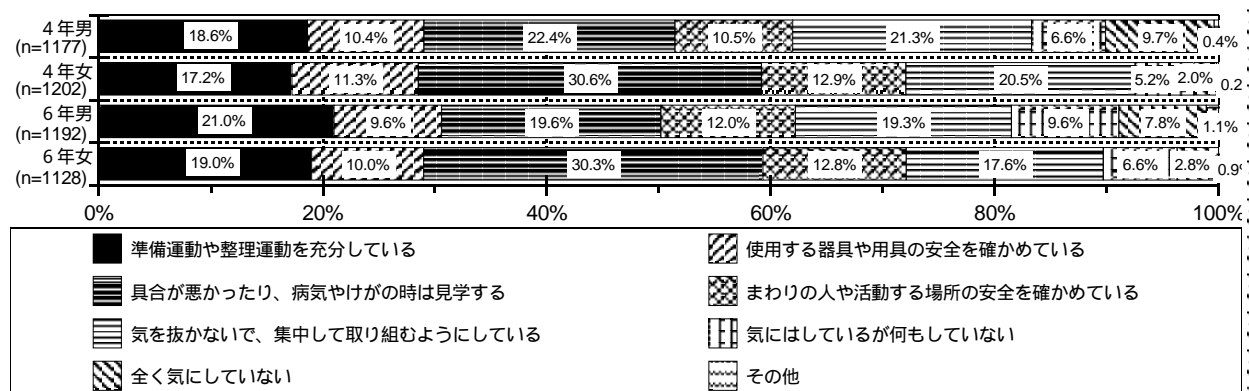


図 けがをしないために心がけること (前回調査)

前回調査の上位三項目は、「具合が悪かったり病気やけがのときは見学するようにしている」「気を抜かないで集中して取り組む」「準備運動や整理運動を充分している」だった。今回の結果と順位の入れ替わりはあるが、同じ内容となった。

ク - 1・2、ケ - 1・2、コの設問から以下のような結果が得られた

「体育の学習が楽しいと感じたことがあるか」と「体育の学習が好き」の回答がほぼ同様となった。つまり、「楽しい」と感じる学習であれば、「体育の学習が好き」になるということである。

男女ともに体育の学習が「楽しい」と感じる要素として、「達成感」が大きな要因であることがわかった。このことより「めあて学習」が定着してきているといえる。

今後は、目標が持てなかったり、達成感が持てない児童にどう対応してしていくかが大きな課題といえそうである。

体育の学習が「楽しい」と感じる理由として、「記録が伸びたりできなかったことができるようになったとき」が一番多かった。このことから、このような経験を積むことにより、体育好きが増えることになると考えられる。このほか、2番目以降の回答に男女の違いがみられた。男子は、「思いきり身体を動かすこと」や「勝敗を競うこと」を上げ、女子は「友だちと仲よく一緒に学習できたとき」や「うなくできたり、がんばったときに仲間や先生がほめてくれたとき」を上げている。このような違いは生活体験や運動体験だけではなく、男女の発育・発達段階の違いが大きな原因になっているのではないかと思われる。

このことから、全体としては、すべての児童に記録や技能の向上に関する達成感を確実に味わせた上で、男女それぞれの特性を生かすことが大切となる。男子に対しては、学習時間の中で運動量を確保することや競争の場面をつくること、女子に対しては、グループで協力して活動する場面をつくり、うまくできたときは誉めて向上心を高めるような支援が必要となろう。

体育の学習の楽しさ、つまらなさは表裏の関係である。このことは多くの児童が「記録が伸びたりできなかったことができるようになったとき」は楽しく、「記録が伸びなかったり、練習してもうまくならなかったりしたとき」はつまらないと回答したことから明確である。

体育の学習がつまらない理由としては「気持ちですっきりせず疲れたとき」という回答が多かった。本来、運動やスポーツ活動にはストレス解消をして、気分がすっきりするという利点があるが、子どもたちが現在抱えている心身の問題がこのような現象を引き起こしているとも考えられる。

また、「うまくできなかったときに友だちから文句を言われたり先生にしかられたとき」とも関連性があると考えられる。

したがって、個人差や失敗を非難しないような、逆に励まし合えるような環境づくりや部分的な能力差を絶対的な能力差のように感じさせることのない、体を動かすこと自体に親しみ、楽しむことをねらいとした指導内容が重要になると考える。

体育の学習で、けがをしないために心がけていることとして、4・6年生の男女とも上位三つに「準備運動や整理運動をじゅうぶんしている」「具合が悪くなったり、病気やけがの時は見学するようにしている」「気を抜かないで、集中して取り組むようにしている」をあげている。このことから、けがを防止するため、自分自身の身体や心理状態に気をつけていることがわかる。一方、活動場所や使用器具などに注意する児童は多いとはいえない。学習環境を中心とした安全管理については教員が十分配慮する必要があると考えられる。

サ - 1 あなたは学校で、休み時間や放課後に、運動をしていますか？（全学年）

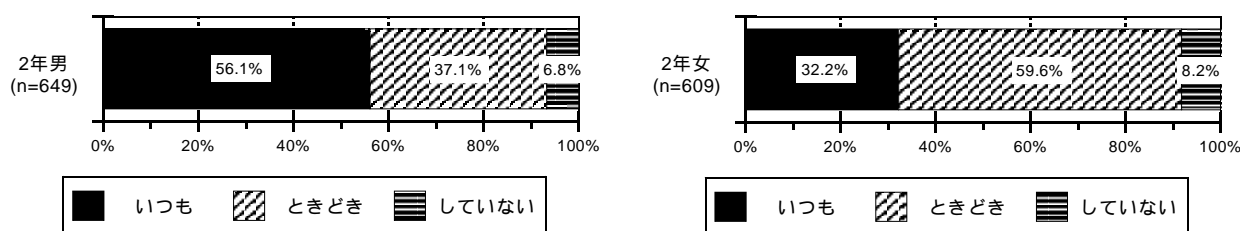


図49 休み時間や放課後に運動しているか(2年生)

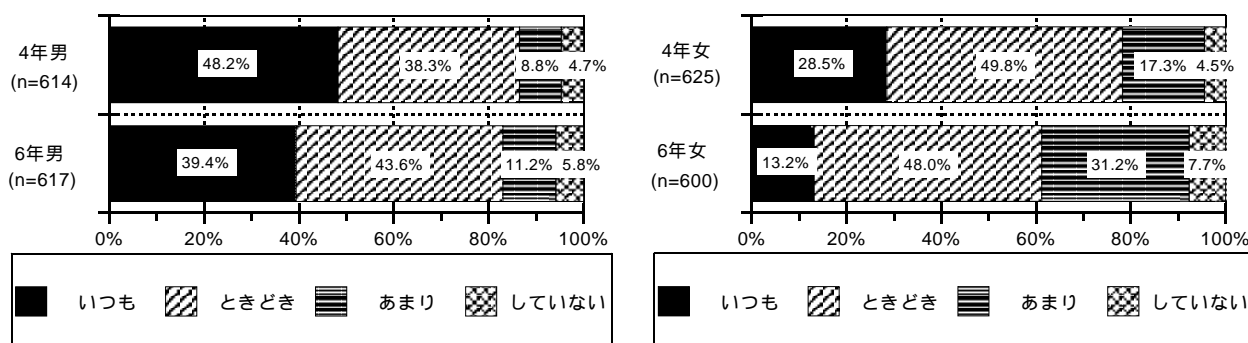


図50 休み時間や放課後に運動しているか
(4・6年生男子)

図51 休み時間や放課後に運動しているか
(4・6年生女子)

2年生にあなたは学校で、休み時間や放課後に、運動をしているか尋ねたところ、「いつもしている」「ときどきしている」の回答を合わせると、男子が93.2%で女子が91.8%だった。また、「いつもしている」に注目してみると、男子が56.1%、女子が32.2%で女子の方の減少率が大きかった。

なお、「まったくしていない」と回答した男子は6.8%で女子8.2%だった。

4・6年生にあなたは学校で、休み時間や放課後に、運動をしているか尋ねたところ、「いつもしている」「ときどきしている」の回答を合わせると、男子は4年生86.5%、6年生83.0%、女子は4年生78.3%、6年生61.2%の児童が、学校で休み時間や放課後に、運動をしていると回答している。

また、「いつもしている」に注目してみると、男子は4年生48.2%、6年生39.4%、女子は4年生28.5%、6年生13.2%と男女とも減少しているが、女子の方の減少率が大きかった。

なお、学年進行に伴い、休み時間や放課後に運動やスポーツを行わない児童が増えている。特に、女子においてはその状況が顕著である。「あまりしていない」「まったくしていない」の回答を合わせると、男子は4年生13.5%、6年生17.0%、女子は4年生21.8%、6年生38.9%と、女子の方が増加傾向が強い。

コラム16 (前回調査との比較)

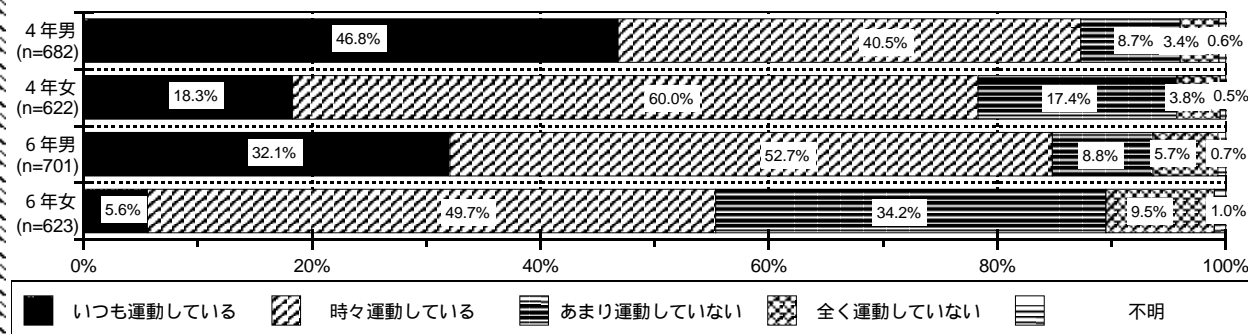


図 休み時間や放課後に運動しているか (前回調査)

前回調査と今回の結果を比較すると「いつもしている (いつも運動している)」「ときどきしている (時々運動している)」を合わせた割合は、6年生女子で増加したが、全体としては変化はなかった。

() 内は前回調査

4年生男子 : 86.5% (87.3) 4年生女子 : 78.3% (78.3)
 6年生男子 : 83.0% (84.8) 6年生女子 : 61.2% (55.3)

サ - 2 あなたは、なぜ休み時間や放課後に運動をするのですか？

(「いつもしている」「ときどきしている」と答えた4・6年生の児童 複数回答)

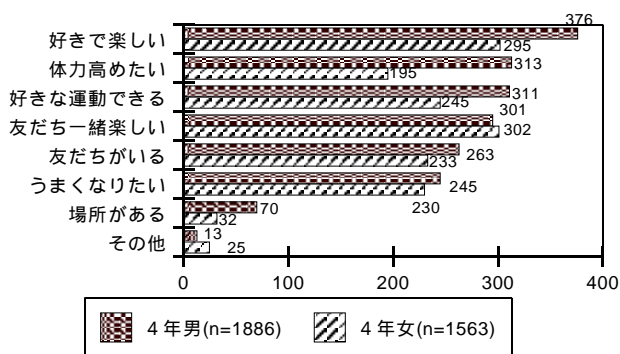


図52 休み時間や放課後に運動する理由 (4年生)

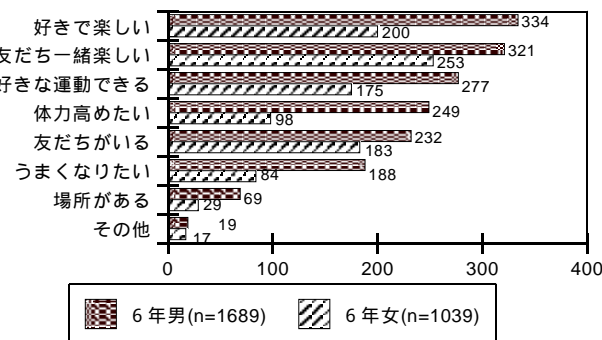


図53 休み時間や放課後に運動する理由 (6年生)

あなたは、なぜ休み時間や放課後に運動をするのか尋ねたところ、4・6年生男子は「運動することが好きで楽しいから」が最も多かった。4・6年生女子は「友だちと一緒にゲームや運動をすると楽しいから」であった。次に、4年生男子は「もっと体力をつけたいから」「好きな運動ができるから」という回答であった。4年生女子は「運動することが好きで楽しいから」「好きな運動ができるから」で6年生男子は「友だちと一緒にゲームや運動をすると楽しいから」「好きな運動ができるから」、6年生女子は「運動することが好きで楽しいから」「運動をする仲間や友だちがいるから」という回答であった。

このことから、男女ともに気の合う仲間 (友だち) と一緒に自由に体を動かすことが楽しいと素直に感じて運動していることがわかった。

また、「もっと体力をつけたいから」という項目で男子の回答が多く、女子が少ないとい

う結果となった。

コラム17 (前回調査との比較)

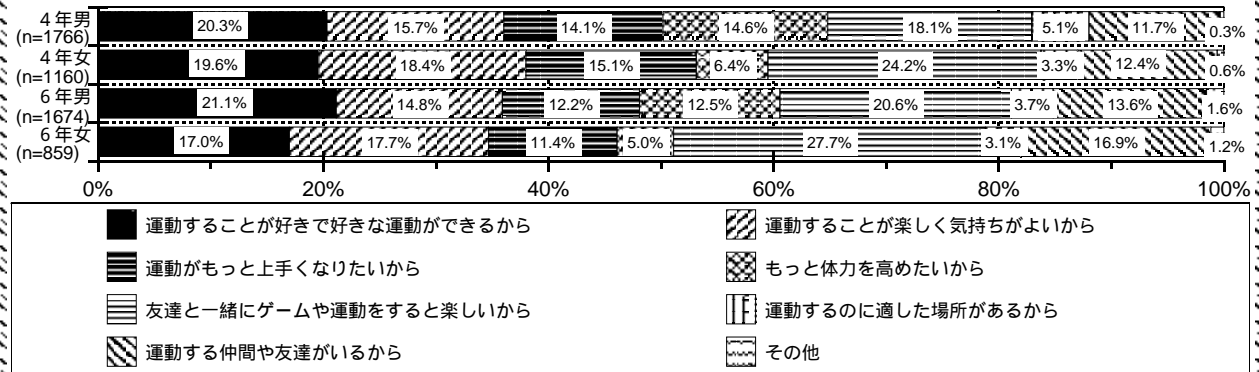


図 休み時間や放課後に運動する理由 (前回調査)

前回調査では、男子が「運動することが好きで、好きな運動ができるから」で、女子が「友だちと一緒にゲームや運動をすると楽しいから」が一番の理由であった。今回も男女ともに同じ結果となった。

サ - 3 あなたは、なぜ休み時間や放課後に運動をしないのですか？

(「あまりしていない」「まったくしていない」と答えた4・6年生の児童 複数回答)

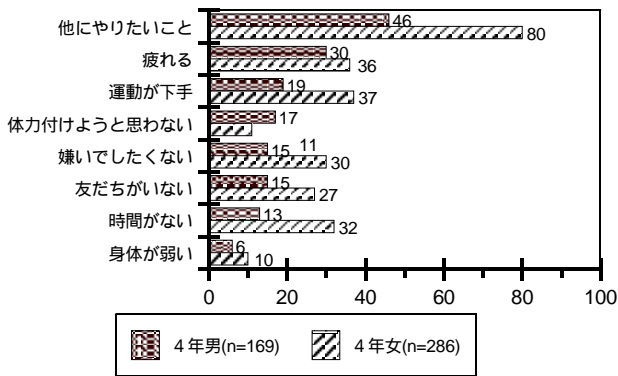


図54 休み時間や放課後に運動しない理由 (4年生)

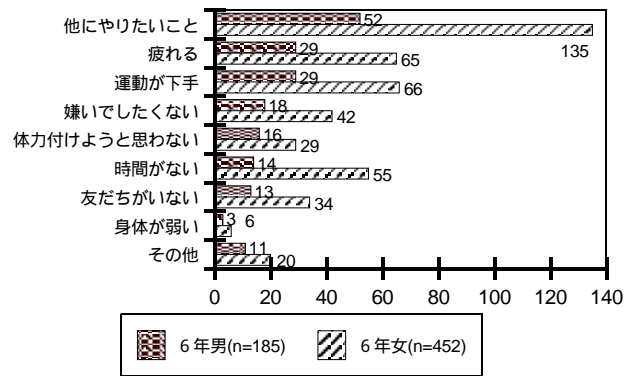


図55 休み時間や放課後に運動しない理由 (6年生)

あなたは、なぜ休み時間や放課後に運動をしないのですかと尋ねたところ、最も多かった回答は、男女ともに「他にやりたいことがあるから」で、次に「運動をすると疲れるから」「運動が下手でうまくできないから」であった。

その他の理由も含め、学年が進行してもほとんど変化がなく、学年差や男女差はみられなかった。

コラム18 (前回調査との比較)

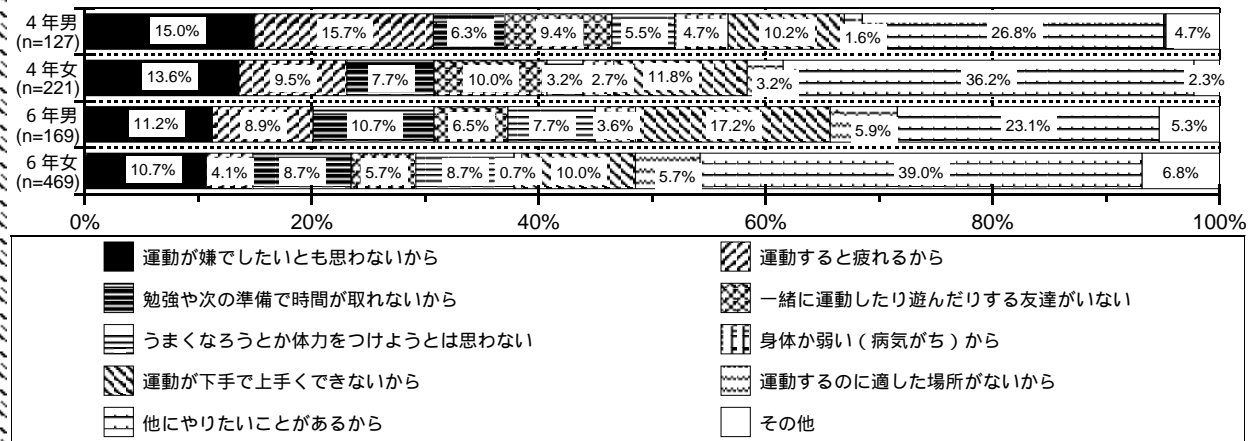


図 休み時間や放課後に運動しない理由 (前回調査)

前回調査では、男女ともに「他にやりたいことがあるから」が一番多く「運動が下手で上手くできないから」「運動すると疲れるから」も高い値を示した。今回の調査でも同じような結果がみられた。

シ あなたは学校以外のスポーツクラブなどに入っていますか？ (全学年)

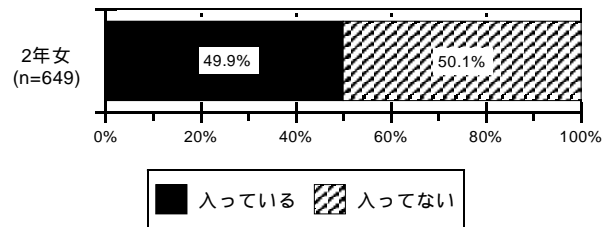
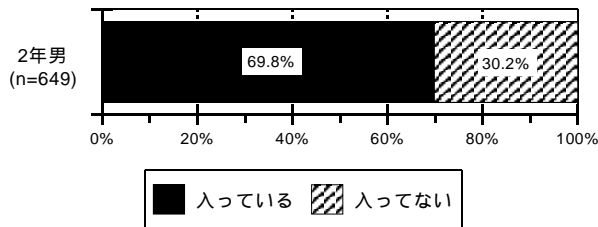


図56 スポーツクラブに入っているか (2年生)

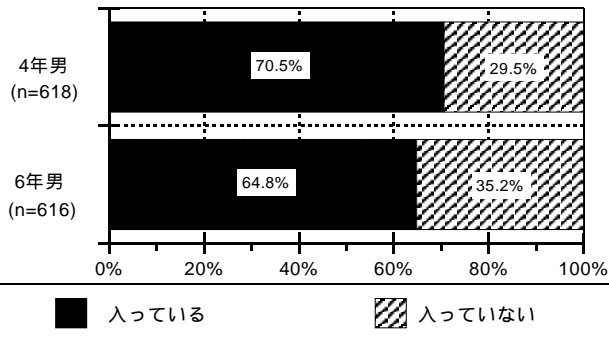


図57 スポーツクラブに入っているか (4 . 6年生男子)

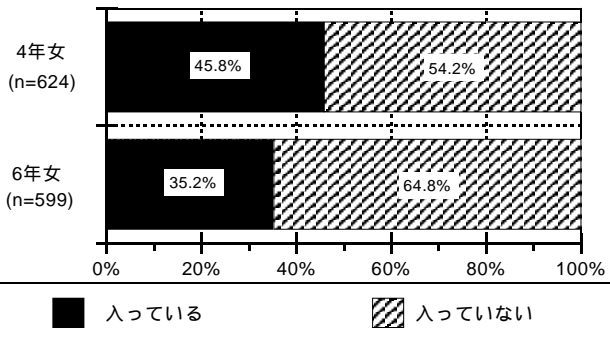


図58 スポーツクラブに入っているか (4 . 6年生女子)

2年生にあなたは学校以外のスポーツクラブなどに入っていますかと尋ねたところ、「入

っている」と回答した男子は69.8%、女子は49.9%だった。

4・6年生にあなたは学校以外のスポーツクラブなどに入っていますかと尋ねたところ、「入っている」と答えた児童は、男子の4年生70.5%、6年生64.8%で、女子は4年生45.8%、6年生35.2%であった。

このことから、男子は女子に比べ加入率が高く学年が上がっても加入率に大きな変化はみられないが、女子は学年進行に伴い、減少していくことがわかった。

ス - 1 あなたは学校から家に帰った後や休みの日に運動をしていますか？（全学年）

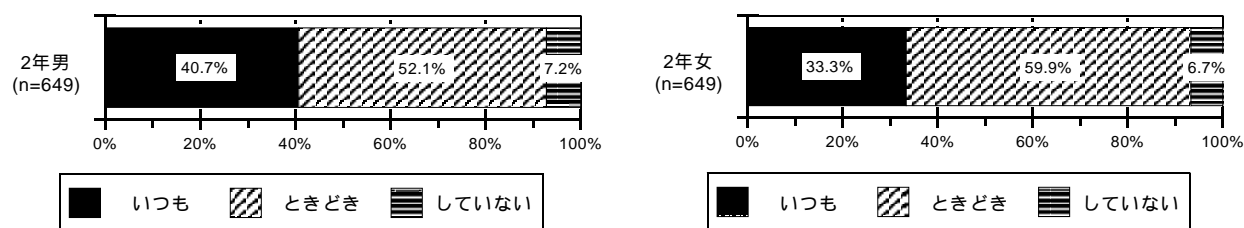


図59 帰宅後や休みの日に運動しているか(2年生)

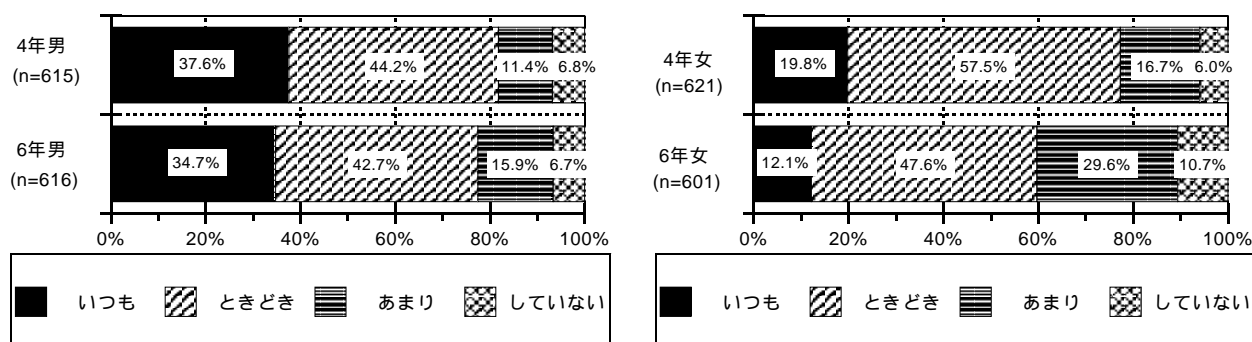


図60 帰宅後や休みの日に運動しているか
(4・6年生男子)

図61 帰宅後や休みの日に運動しているか
(4・6年生女子)

2年生にあなたは学校から家に帰った後や休みの日に運動をしていますかと尋ねたところ、「いつもしている」と「ときどきしている」の回答を合わせると、男子は92.8%、女子は93.2%だった。「いつもしている」に注目してみると、男子は40.7%、女子は33.3%だった。また、「まったくしていない」と回答した男子は7.2%、女子は6.7%であった。

あなたは学校から家に帰った後や休みの日に運動をしていますかと尋ねたところ、「いつもしている」と「ときどきしている」の回答を合わせると、男子の4年生81.8%、6年生77.4%で、女子は4年生77.3%、6年生59.7%であった。

「いつもしている」に注目してみると、4年生男子37.6%、6年生男子34.7%、4年生女子19.8%、6年生女子12.1%と男女とも減少傾向にあるが、女子の方が減少率が高かった。

また、「いつもしている」の割合は女子に比べ、男子の方が高かった。

「あまりしていない」「まったくしていない」の回答を合わせると、4年生男子18.2%、6年生

生男子22.6%、4年生女子22.7%、6年生女子40.3%と、学年差がはっきり現れ、女子の方が増加傾向が強い。

この結果から、2年生は男女ともによく運動していることがわかる。運動する頻度をみると、男子は4年生から6年生にかけて緩やかに減少しているが、女子は大きく減少していることがわかった。

コラム19 (前回調査との比較)

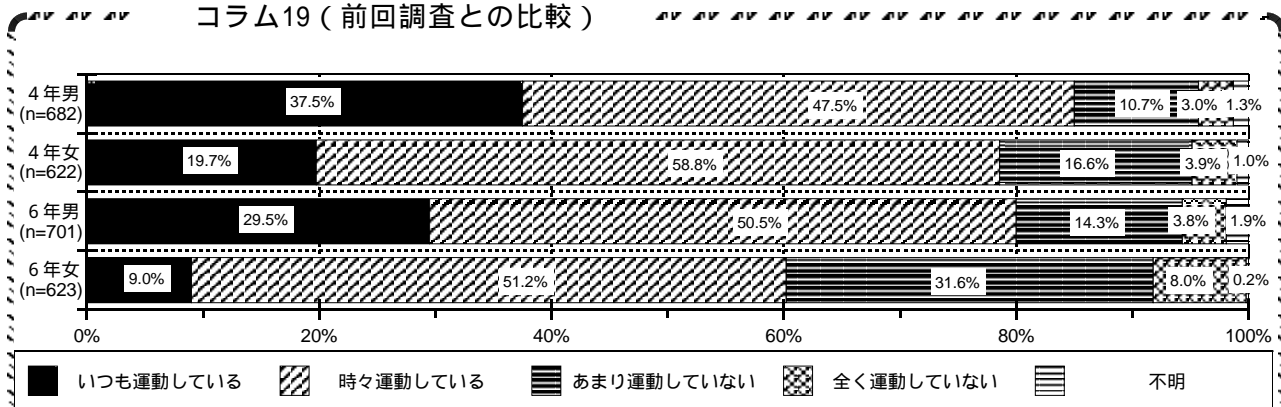


図 帰宅後や休みの日に運動しているか (前回調査)

前回調査と比較すると「いつもしている(いつも運動している)」「ときどきしている(ときどき運動している)」を合わせた割合は、全体としてやや減少した。

()内は前回調査

4年生男子：81.8% (85.0) 4年生女子：77.3% (78.5)

6年生男子：77.4% (80.0) 6年生女子：59.7% (60.2)

ス - 2 あなたは、なぜ学校から家に帰った後や休みの日に運動をするのですか？
(「いつもしている」「ときどきしている」と答えた4・6年生の児童 複数回答)

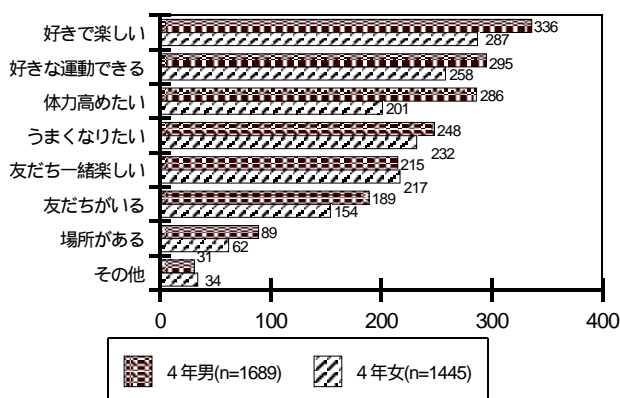


図62 帰宅後や休みの日に運動する理由(4年生)

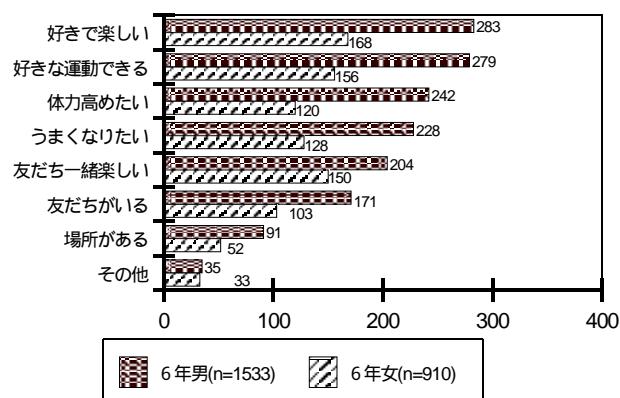


図63 帰宅後や休みの日に運動する理由(6年生)

あなたは、なぜ学校から家に帰った後や休みの日に運動をするのかと尋ねたところ、4・6年生の男女ともに「運動することが好きで楽しいから」が最も多く、次に「好きな運動が

できるから」としている。3番目の理由として、男子は「もっと体力をつけたいから」、4年生女子は「運動がもっと上手になりたいから」、6年生女子は「友だちと一緒にゲームや運動をすると楽しいから」と回答している。

このことから、気の合う仲間や友だちの存在を重要と考えながら、自ら進んで運動やスポーツに取り組んでいる様子が見えてくる。

コラム20 (前回調査との比較)

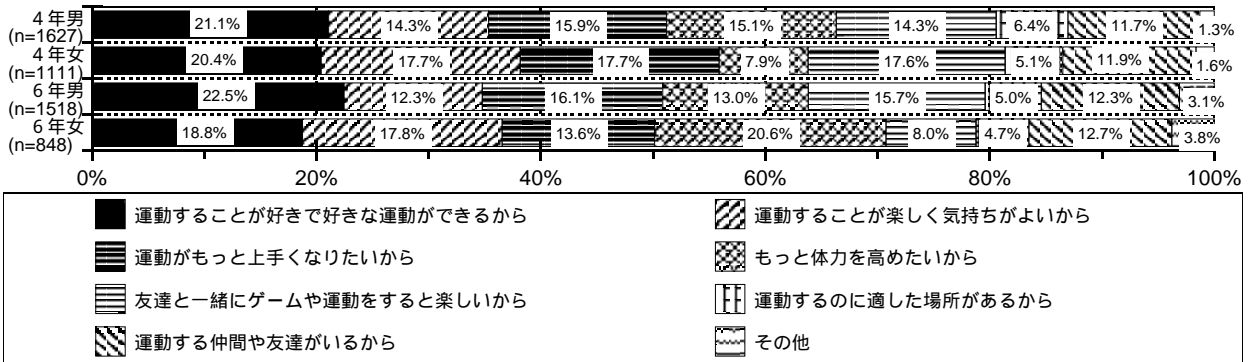


図 帰宅後や休みの日に運動する理由 (前回調査)

前回調査では、男女とも「運動することが好きで好きな運動ができるから」が高い値を示した。今回の結果からも同じような傾向がみられた。

ス - 3 あなたは、なぜ学校から家に帰った後や休みの日に、運動をしないのですか？
(「あまりしていない」「まったくしていない」と答えた4・6年生の児童 複数回答)

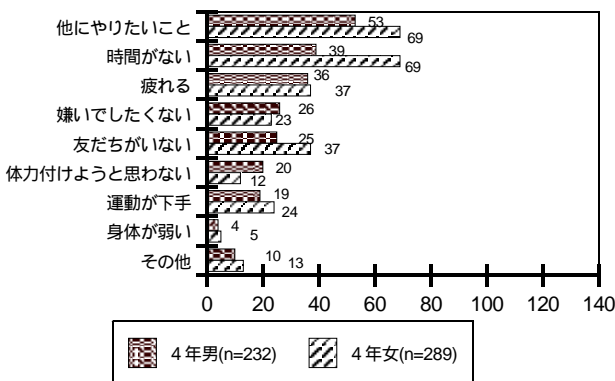


図64 帰宅後や休みの日に運動しない理由 (4年生)

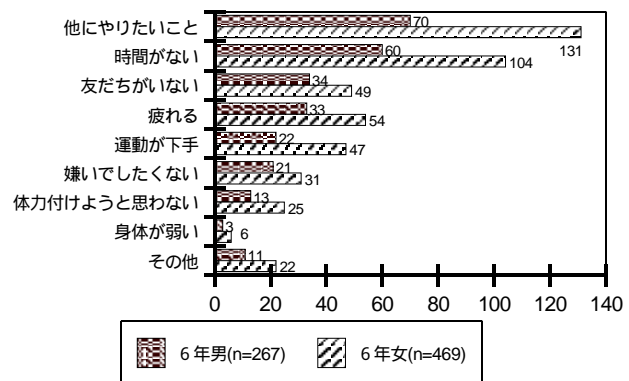


図65 帰宅後や休みの日に運動しない理由 (6年生)

あなたは、なぜ学校から家に帰った後や休みの日に、運動をしないのですかと尋ねたところ、最も多かった回答は、4・6年生の男女ともに「他にやりたいことがあるから」で、次に「塾や勉強、習い事で時間がとれないから」「運動をすると疲れるから」「一緒に運動したり遊んだりする友だちがいないから」であった。

男女とも、学年進行に伴い「他にやりたいことがあるから」が増えてくるのがわかった。

コラム21 (前回調査との比較)

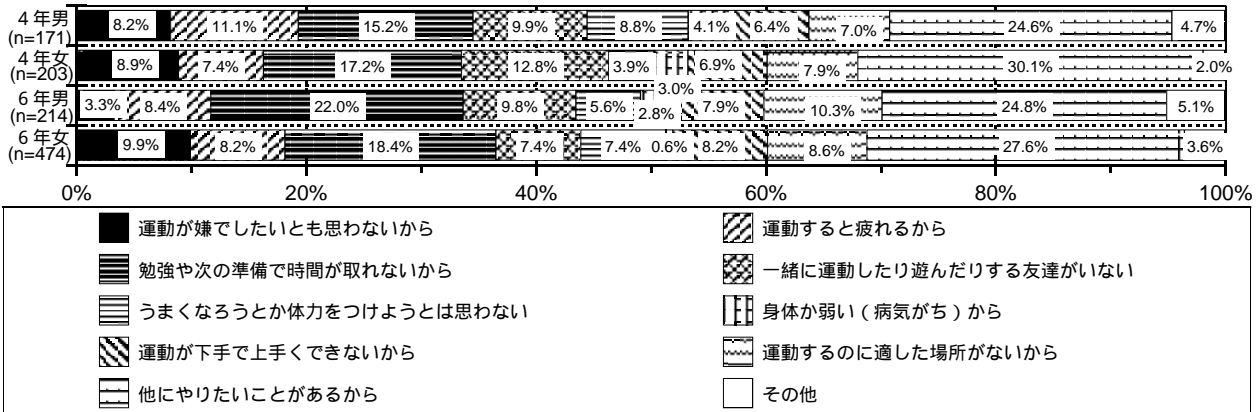


図 帰宅後や休みの日に運動しない理由 (前回調査)

前回調査では、男女ともに「他にやりたいことがあるから」が一番多く、次に「塾や勉強、習い事で時間が取れないから」が多かった。前回調査と今回の結果を比べるとほぼ同じような結果であるといえる。

ス - 4 あなたは、学校から家に帰った後や休みの日におもにどんなところで運動を行っていますか？
(「いつもしている」「ときどきしている」「あまりしていない」と答えた全学年の児童 複数回答)

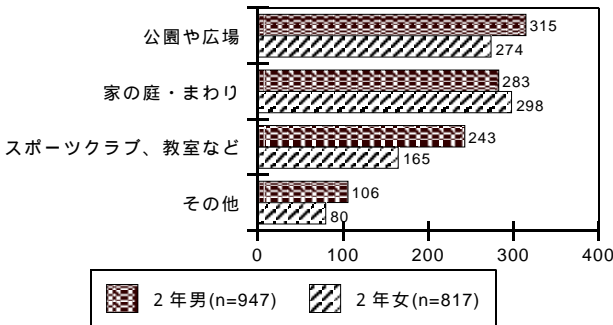


図66 帰宅後や休みの日に運動する場所 (2年生)

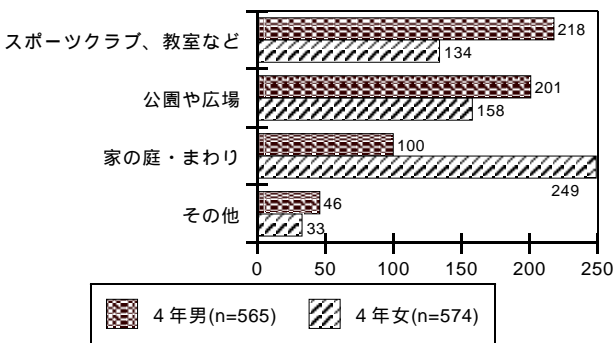


図67 帰宅後や休みの日に運動する場所 (4年生)

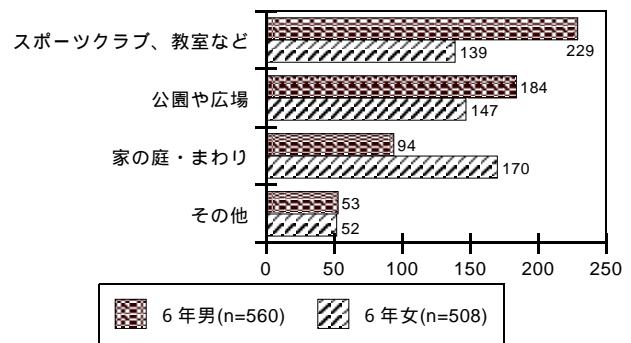


図68 帰宅後や休みの日に運動する場所 (6年生)

2年生にあなたは、学校から家に帰った後や休みの日におもにどんなところで運動を行っていますかと尋ねたところ、男子で最も多かった回答は「公園や広場」、次に「家の庭や家のまわり」であった。女子で最も多かった回答は「家の庭や家のまわり」、次に「公園や広場」だった。

このことから、2年生は男女ともに、地域での活動が中心となっていることがわかった。

4・6年生にあなたは、学校から家に帰った後や休みの日におもにどんなところで運動を行っていますかと尋ねたところ、4・6年生男子で最も多かった回答は「スポーツクラブ、スポーツ教室など」、次に「公園や広場」であった。女子で最も多かった回答は「家の庭や家のまわり」、次に「公園や広場」で全学年で同じ結果となった。

このことから、活動範囲、運動の相手、運動の内容の違いにより活動場所に男女差・年齢差がみられた。

コラム22 (前回調査との比較)

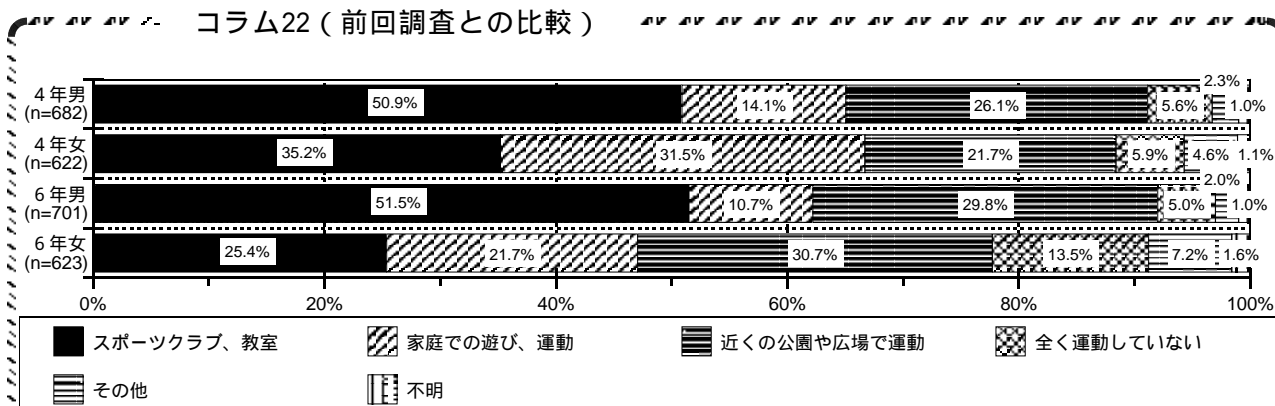


図 帰宅後や休みの日に運動する場所 (前回調査)

前回調査では、男子が「スポーツクラブ、スポーツ教室など」「公園や広場」、4年生女子が「スポーツクラブ、スポーツ教室など」「家の庭や家のまわり」、6年生女子が「公園や広場」「スポーツクラブ、スポーツ教室など」の順であった。

この結果から、男子は大きな変化はなかったが、女子は前回上位だった「スポーツクラブ、スポーツ教室など」が三番目に下がったことがわかった。

ス - 5 あなたは、学校から家に帰った後や休みの日におもに誰と運動を行っていますか？
(「いつもしている」「ときどきしている」「あまりしていない」と答えた全学年の児童 複数回答)

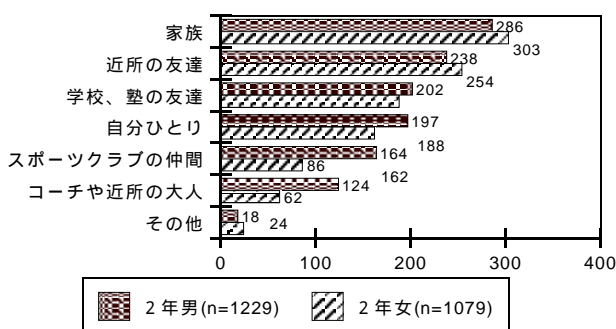


図69 帰宅後や休みの日に運動する相手(2年生)

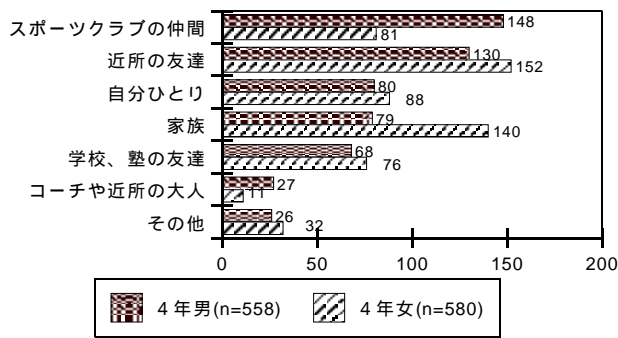


図70 帰宅後や休みの日に運動する相手(4年生)

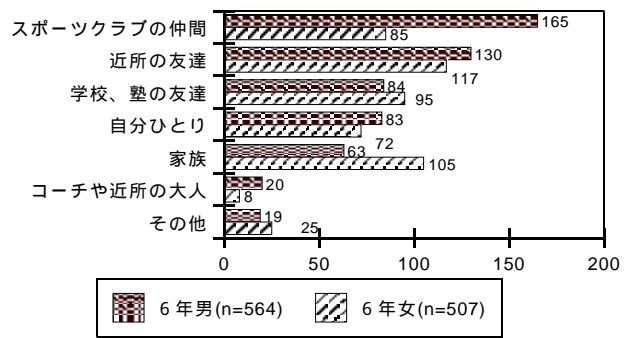


図71 帰宅後や休みの日に運動する相手(6年生)

あなたは、学校から家に帰った後や休みの日におもに誰と運動を行っていますかと尋ねたところ、2年生で男女ともに最も多かった回答は「家族」、次に「近所の友だち」「学校や塾の仲間」となった。4・6年生男子で最も多かった回答は「スポーツクラブの仲間」、次に「近所の友だち」であった。4・6年生女子で最も多かった回答は「近所の友だち」、次に「家族」であった。

このことから、2年生は運動相手に男女差はみられなかったが、4・6年生では男女差がはっきり現れた。

コラム23 (前回調査との比較)

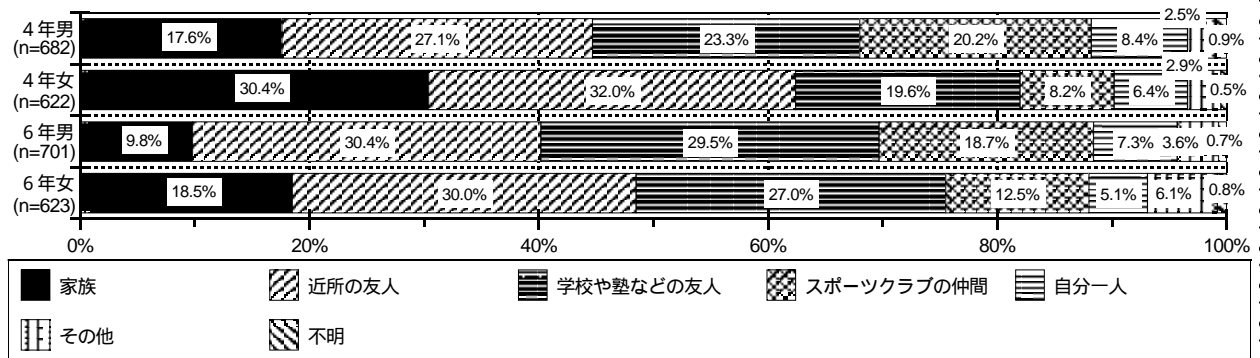


図 帰宅後や休みの日に運動する相手(前回調査)

前回調査では、男女ともに「近所の友だち」が一番多く、次に4・6年生男子は「学校や塾などの友人」、4年生女子は「家族」、6年生女子が「学校や塾などの友人」であった。

この結果から、女子は大きな変化はなかったが、男子は、前回三番目であった「スポーツクラブの仲間」が一番多くなったことがわかった。

サ - 1 ~ 3、シ、ス - 1 ~ 5 の設問から以下のような結果が得られた

休み時間や放課後の過ごし方については、多くの児童が仲間とともに運動を通して交流を深めている様子がうかがえる。特に、男子は女子に比べ活発に運動しているといえる。

しかし、学年進行に伴って運動する割合が減少している。運動をしない主な理由は「ほかにやりたいことがあるから」である。女子は休み時間の過ごし方で「友だちとのおしゃべり」が最も多いという調査結果⁵⁾もあることから、楽しみ方の違いが男女差として現れたといえる。

休み時間や放課後に運動しない理由として問題となるのは「運動をすると疲れるから」「運動が下手でうまくできないから」と回答した児童が2番目と3番目に多いことである。このように運動をすると疲れるということは、それこそ体力の低下傾向を象徴していることであり、悪循環に陥らないためにも、体力の低い児童にこそ運動習慣の定着を図るための取り組みの必要性を感じる。

また、多くの児童が運動をする際、仲間の存在を求めていることから、運動が下手なことが原因で仲間に入れず、一緒に運動ができないということがあったならば、何らかの対応が必要となろう。指導者としては、運動する機会を作ったり、場所を提供するなどして全体を巻き込むような指導が必要となるであろう。さらに、運動が得意でないことが「いじめ」などの原因にならないよう配慮する必要もある。

スポーツクラブへの加入率は、男子の2・4年生で約70%、6年生で約65%と非常に高いといえる。女子に比べ、スポーツや運動に対する興味・関心の高まりを感じる。

また、本人の希望もあると思うが、年少の頃から運動やスポーツに親しませたいという家庭の姿勢もうかがえる。

一方、女子の場合、加入率が学年進行に伴って減少している。このことは、運動やスポーツ以外の習い事をするようになるからだ⁵⁾と考えられる。

帰宅後や休日に運動する割合は男子の方が高く、「運動すると楽しい」「好きな運動ができる」や「友だちと一緒に運動できる」が運動する大きな理由である。女子も同じ理由で運動していることがわかった。

また、男子は女子に比べ「もっと体力をつけたい」という具体的な目標を強く持っており、このことは、スポーツクラブへの加入状況にも影響していそうである。

なお、「休み時間や放課後」と「帰宅後や休日」の運動状況を比較してみると、ほぼ同じ傾向を示した。

帰宅後や休日に運動を「あまりしていない」「まったくしていない」の回答を合わせると、学年の進行に伴って大きく増加している。その大きな要因として、男女ともに「ほかにやりたいことがあるから」や「塾や習い事で時間がとれないから」があげられる。

このことから、帰宅後や休日に運動しない児童を「運動以外に興味・関心が高い児童」と「運動はしたいけど、塾や習い事で時間がとれないという児童」の二つに分けることができる。

また、「運動をすると疲れるから」「一緒に遊んだり運動したりする友だちがいないから」と回答した児童も多数おり、子どもたちの生活実態が浮き彫りになる結果となった。

このことから、学校・地域・家庭がどう連携をとりながら、体力向上のための方策を具現化し、真剣に行っていく必要があると考える。学校では「子どもキラキラタイム」等の実践を、家庭では、子どもの生活習慣の見直しを行い、地域では個人単位でも子どもが集まって、手軽にかつ安全にスポーツや外遊びができる「スポーツふれあい広場」を各地で設けるなどの取り組みが必要である。

帰宅後や休日に運動する場所は、2年生男子は「公園や広場」「家の庭や家のまわり」が多く、4・6年生男子は「スポーツクラブ、スポーツ教室など」「公園や広場」だった。女子は「家の庭や家のまわり」「公園や広場」で全学年で同じ結果となり、男女の違いがみられた。

このことから、4・6年生の男子は、好きな運動ができ、技術や体力の向上が望める「スポーツクラブやスポーツ教室」で活動していることが多く、一方、2年生や4・6年生女子は、「家庭内や家のまわり」で活動している児童が多いことがわかった。

また、運動相手は2年生は男女ともに「家族」「近所の友だち」「学校や塾の仲間」が多く、4・6年生男子は「スポーツクラブの仲間」「近所の友だち」であった。4・6年生女子は「近所の友だち」「家族」となり、低学年と中・高学年、そして男女差による違いもみられた。

このことから、多くの児童が家に帰った後や休日に主体的に運動やスポーツをしていることがわかった。また、同時に友だちや共通の趣味を持った仲間の存在も大きな要素であり、低学年や女子に関しては「家族」の存在も見逃すことはできない。

また、「自分ひとり」と回答した児童もいたことも事実である。仲間と一緒に運動やスポーツを行いたくないのか、行いたいけど一緒に行く仲間がいないのかなど、今後もう少し細かい理由を探っていくことにより、現状が浮かび上がってくると考える。

なお、運動場所は前回調査と比較しても大きな差はなかったが、運動相手については前回調査が男女ともに「近所の友だち」が一番多かったが、今回は「スポーツクラブの仲間」が男子で一番多くなった。

セ あなたが好きな、または行いたい(つづきたい)運動やスポーツを3つ選んでください。(全学年)

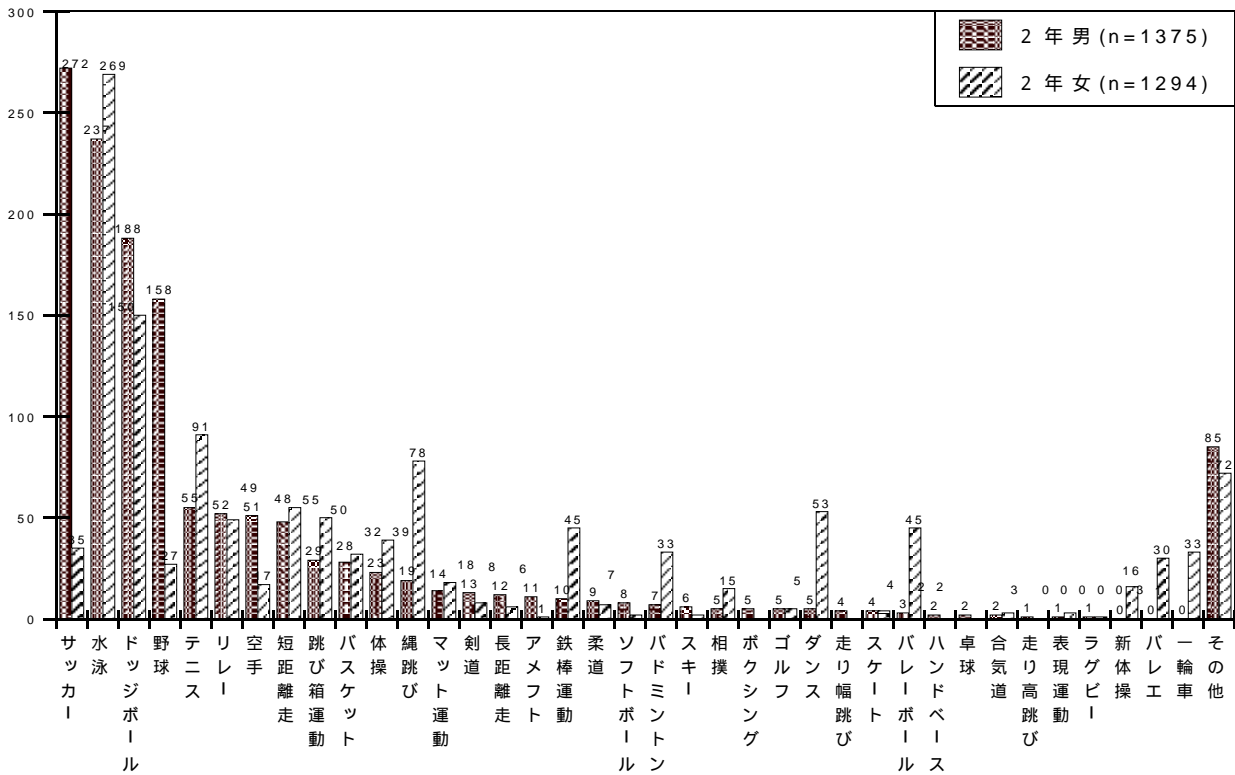


図72 好きな、行いたい運動やスポーツ(2年生)

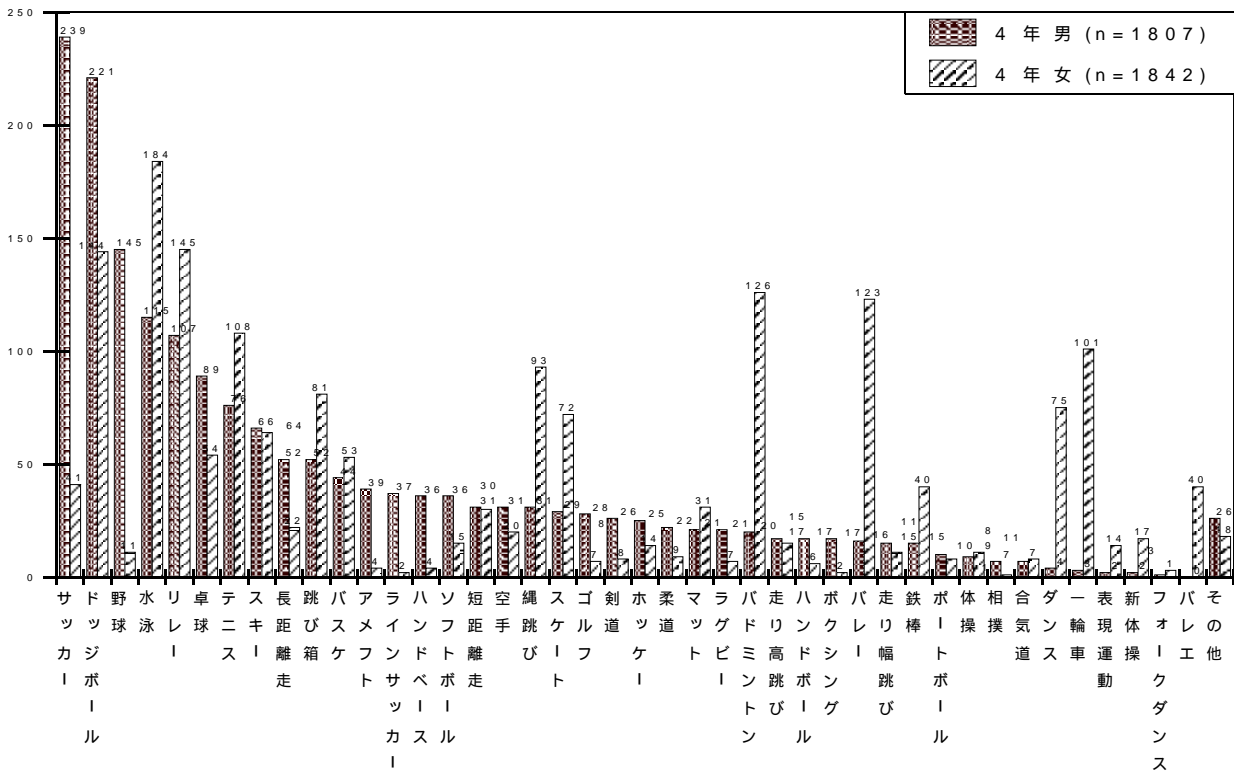


図73 好きな、行いたい運動やスポーツ(4年生)

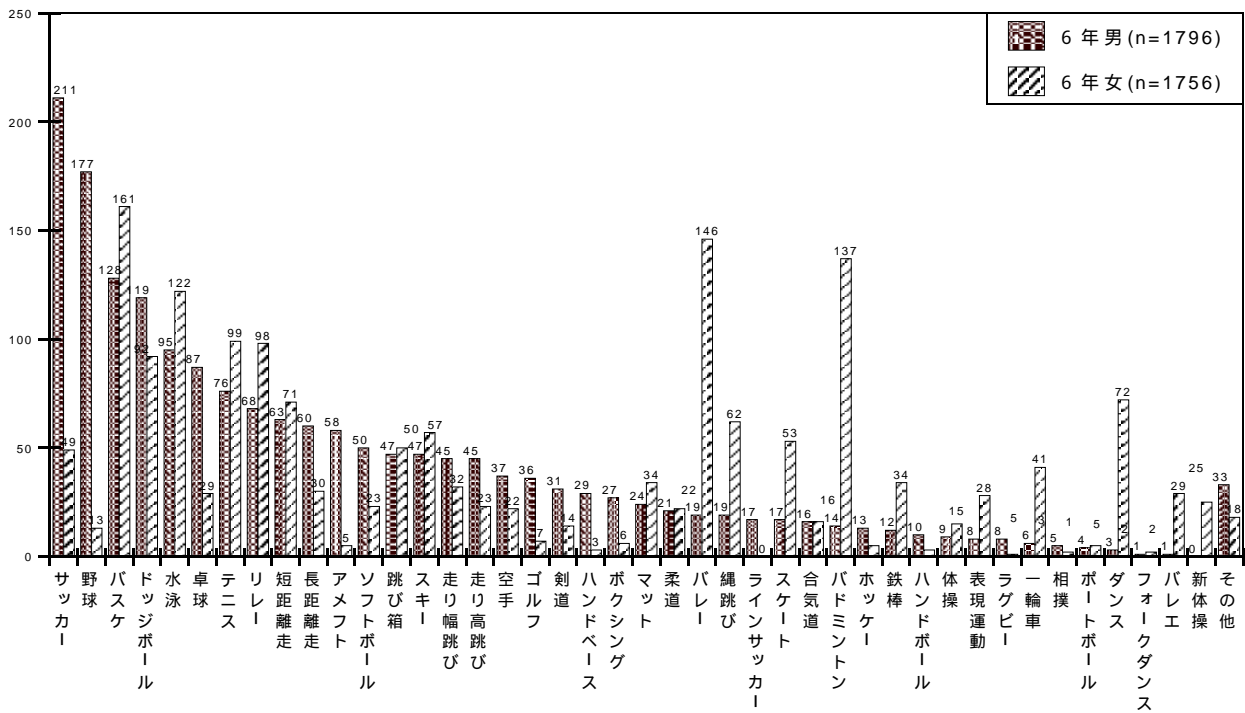


図74 好きな、行いたい運動やスポーツ(6年生)

あなたが好きな、または行いたい(つづけたい)運動やスポーツについて尋ねたところ、2年生男子は、「サッカー」「水泳」「ドッジボール」「野球」の順で回答しており、2年生女子は、「水泳」「ドッジボール」「テニス」「なわとび」の順であった。4年生男子は、「サッカー」「ドッジボール」「野球」「水泳」の順で回答しており、4年生女子は、「水泳」「リレー」「ドッジボール」「バドミントン」の順であった。6年生男子は、「サッカー」「野球」「バスケットボール」「ドッジボール」の順であり、6年生女子は、「バスケットボール」「バレーボール」「バドミントン」「水泳」の順であった。

男女ともに人気の高いものは、「ドッジボール」「水泳」で、男子に人気の高いものは、「サッカー」「野球」、女子に人気の高いものは「バドミントン」「テニス」であった。この結果から学年や男女差により違いがでているといえる。反対に、人気の低いものは、実際に運動体験のないものといえそうである。

コラム24 (前回調査との比較)

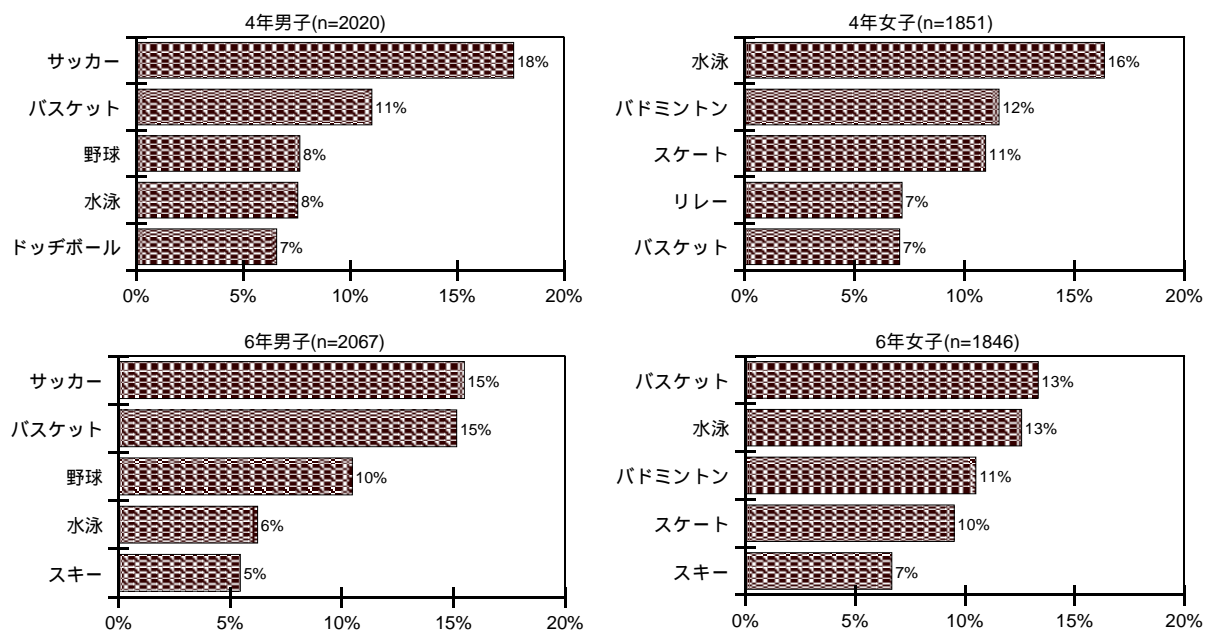


図 好きな、行きたい運動やスポーツ (上位5項目 : 前回調査)

上位二つをみていると、前回調査では、4・6年生男子が「サッカー」「バスケットボール」の順で、4年生女子は「水泳」「バドミントン」の順で、6年生女子は「バスケットボール」「水泳」の順であった。

今回は、4年生男子は、「サッカー」「ドッジボール」の順、4年生女子は、「水泳」「リレー」の順、6年生男子は、「サッカー」「野球」の順、6年生女子は、「バスケットボール」「バレーボール」の順であった。

この結果から、前回一番人気は「サッカー」「水泳」「バスケットボール」は10年経っても変化がなかった。

一方、二番目以降で前回選ばれていた「スキー」「スケート」は大幅に減少していることがわかった。

ソ あなたは体育の学習を、どんな先生に教えてもらいたいですか。(全学年 複数回答)

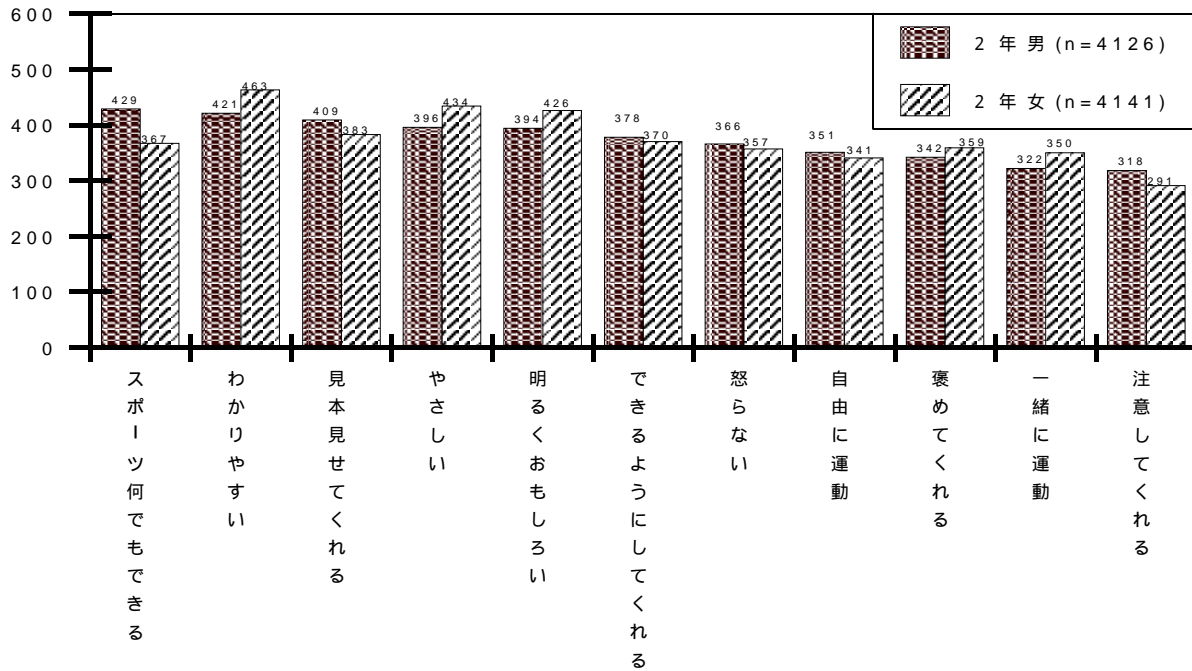


図75 どんな先生に教えてもらいたいか(2年生)

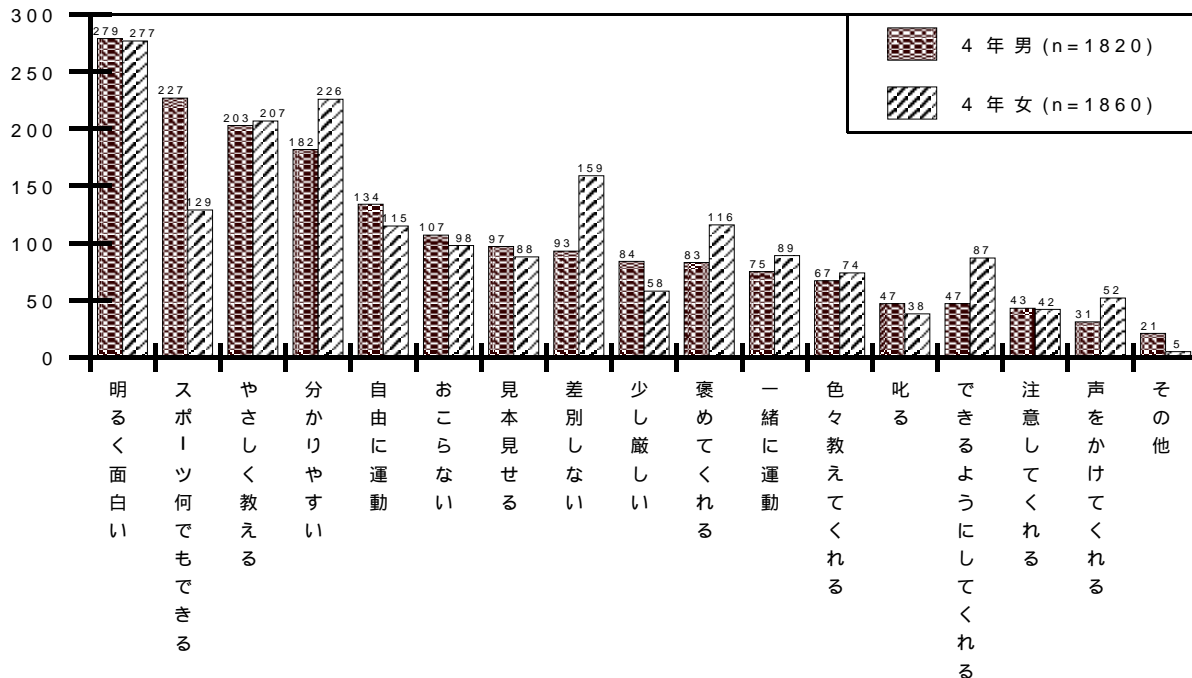


図76 どんな先生に教えてもらいたいか(4年生)

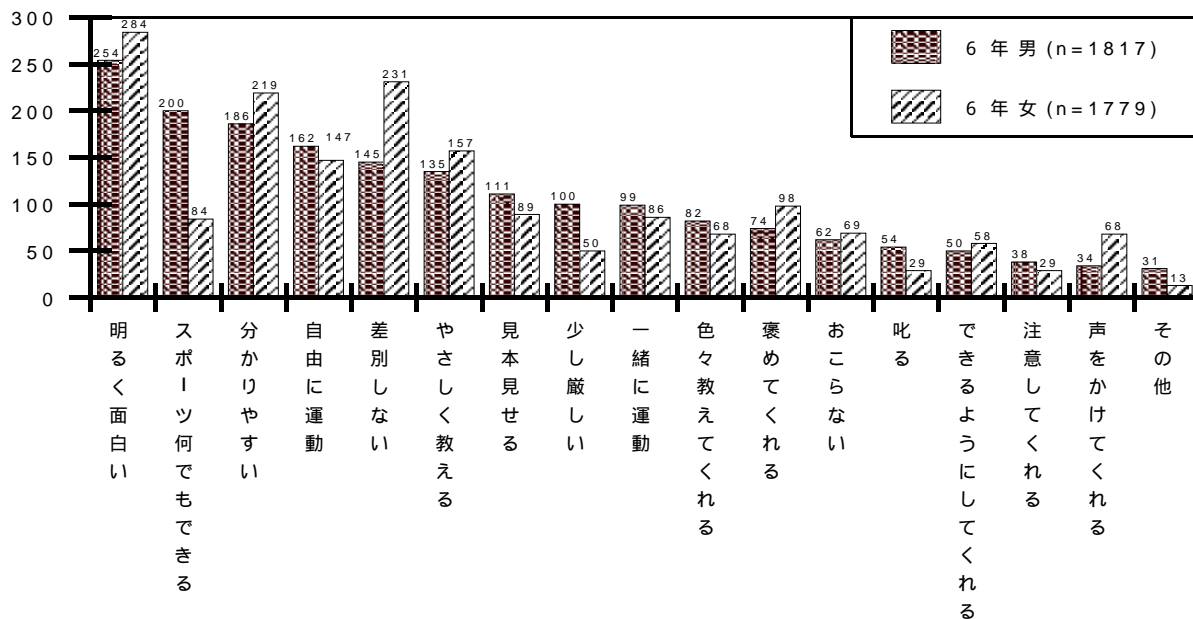


図77 どんな先生に教えてもらいたい(6年生)

体育の学習を、どんな先生に教えてもらいたいと尋ねたところ、4・6年生の男女ともに「明るくておもしろい先生」と回答した児童が最も多かった。

その次に、4年生男子は、「スポーツが何でもできる先生」「やさしく教えてくれる先生」の順で回答しており、4年生女子は、「わかりやすい教え方をする先生」「やさしく教えてくれる先生」の順であった。6年生男子は、「スポーツが何でもできる先生」「わかりやすい教え方をする先生」の順であり、6年生女子は、「できる人とできない人を差別しない先生」「わかりやすい教え方をする先生」の順であった。

2年生男子は、「スポーツが何でもできる先生」「わかりやすい教え方をする先生」「見本を見せてくれる先生」の順で回答しており、2年生女子は、「わかりやすい教え方をする先生」が最も多く、次いで「やさしく教えてくれる先生」「明るくておもしろい先生」の順であった。

男女ともに教えてもらいたい理想の先生は、「明るくておもしろい先生」「わかりやすい教え方をする先生」であった。男子に人気の高い先生は、「スポーツが何でもできる先生」、女子に人気の高い先生は、「やさしく教えてくれる先生」であった。

反対に、男女ともに人気の低い先生は、「悪いことはしかる先生」「みんなによく声をかけてくれる先生」、男子に人気の低い先生は、「決まりを守らなかったときに注意してくれる先生」、女子に人気の低い先生は、「少し厳しいところがある先生」であった。

コラム25 (前回調査との比較)

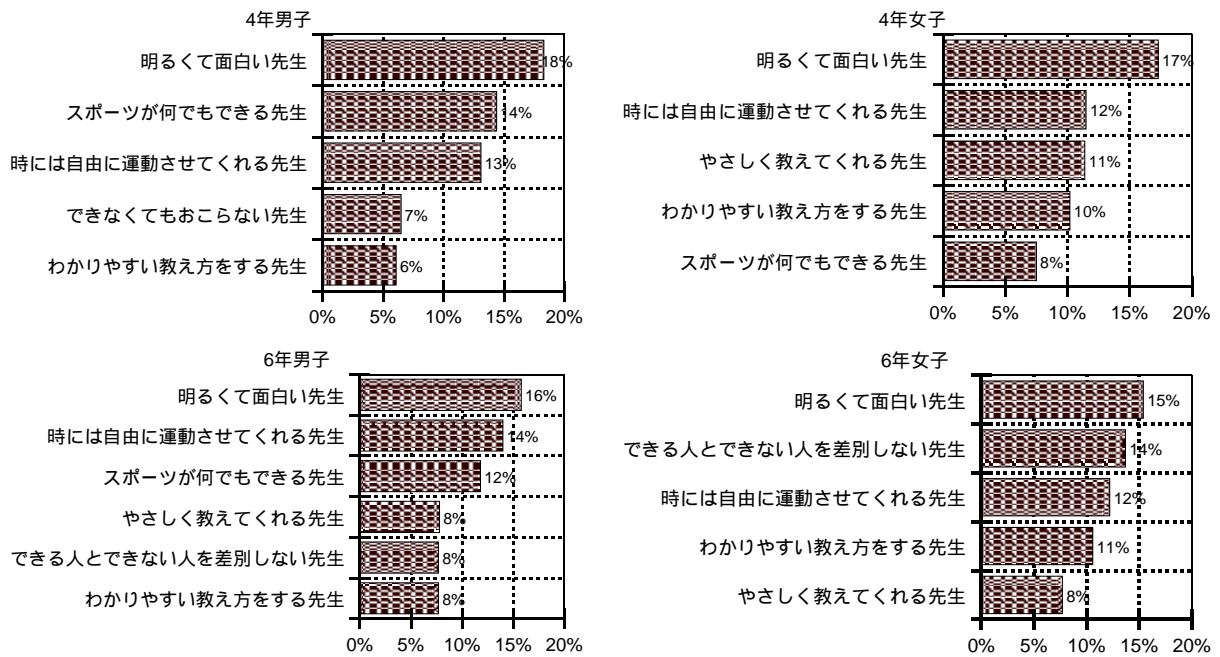


図 どの先生に教えてもらいたいのか (上位5項目 : 前回調査)

前回調査では、男女とも「明るくておもしろい先生」が最も多く、また、男子に人気の高い先生は、「スポーツが何でもできる先生」「時には自由に運動させてくれる先生」、女子に人気の高い先生は、4年生女子は「時には自由に運動させてくれる先生」「やさしく教えてくれる先生」で、6年生女子は「できる人とできない人を差別しない先生」「時には自由に運動させてくれる先生」であった。

このことから、「明るくておもしろい先生」が最も多い点、男子の「スポーツが何でもできる先生」、4年生女子の「やさしく教えてくれる先生」、6年生女子は「できる人とできない人を差別しない先生」が人気があったことは今回の調査と同じであった。

相違点としては、「時には自由に運動させてくれる先生」の割合が減り、「わかりやすい教え方をする先生」が増加したことである。

セ、ソの設問から以下のような結果が得られた

好きな、または行いたい(つづけたい)運動やスポーツについては、男子は球技を女子は水泳や気軽に楽しめるスポーツを行っていきたいと考えていることがわかった。

また、低学年の子どもたちにとっては、運動(体をつかったり動かしたり)することはすなわち遊びの要素が強いようである。

これに対し、中・高学年の男子では学年進行に伴い競技性が高く、動きが激しいある程度ルールに基づいたスポーツを好むようになり、女子では勝敗にこだわらないスポーツを友だちと仲よく行っていきたいと考えるようになるのではないかと考える。

このことは、学年や男女の違いによって運動やスポーツに求める志向性が変わってくるからだともいえる。

しかし、この結果だけで児童の男女差として捉えてしまうのは、少し無理がある。「ドッジボール」は男女に関係なく好まれるし、6年生女子では「バスケットボール」「バレーボール」などの球技が好まれている。今回の調査からは、詳しいことまで考察できないが、単に運動経験が少ないことが男女の差とも考えられる。

したがって、この項目についてさらに深めるためには、年少時からの生活体験や遊び体験、本人の志向や両親の姿勢、さらには学校生活や仲間関係における体験などについても調査をすることも視野に入れていく必要があると考える。

小学校低学年においても、学校体育で扱う種目から学校体育では扱わないものまで幅広く選んでおり、子どもたちがいろいろな運動をいろいろなジャンルのスポーツクラブ等で体験している結果であるといえる。また、家族の影響を受けたり、メディアを通じてスポーツ等の情報を得ているからだともいえる。こちらが考えるより、子どもたちは多種多様な運動やスポーツを知っていたり、行っていたりしているということである。

どんな先生に教えてもらいたいかについては、明るくおもしろく、バイタリティーに溢れ児童たちにわかりやすく教えてくれる先生を望んでいることがわかった。

また、2年生はやさしくて、包容力があり、一人ひとりに対し、きめ細かにわかりやすく指導してくれる先生が理想であることがわかった。

男女別に見てみると、男子ははつらつとして運動が得意な先生を、女子はやさしくて誰に対しても分け隔てのない先生を理想としている。

2年生はしっかり指導してもらおうというより、一緒に遊んでくれる先生を理想とする感覚が強いのかもしれない。4・6年生は一緒に運動してくれるより、できないところをわかりやすく指導して欲しいと望んでいることもわかった。

反面、悪いことはしかったり、決まりを守らなかったときに注意してくれる、少し厳しい先生は人気がないことがわかった。

今回の調査から、児童が考える体育を教えてくれる先生の理想像は、個々の特性を生かし、一人ひとりの持つ目標に向かってやさしくかつ適切な指導をしてくれるとともに、仲間とともに楽しく活動できる場を提供できる先生ということになるだろう。このことは、今まさに各教育現場で実践されている心と体を一体とした学習や個に応じた指導、課題を設定し解決していく活動をめざしている教師像そのものの姿といえる。

3 クロス集計結果について

体育の学習が好きですか？と聞いた設問で、2年生は3段階の選択肢、4・6年生は5段階の選択肢なので、3段階に統一することとし、「とても好き」「どちらかという好き」と答えた児童を『好き群』、「どちらでもない」と答えた児童を『どちらでもない群』、「どちらかというときらい」「とてもときらい」と答えた児童を『嫌い群』とした。詳しい内訳は下の表3で示したとおりである。この『好き群』『どちらでもない群』『嫌い群』と3ページで示したそれぞれの調査項目とのクロス集計を行い、結果をグラフに表すとともに有意差のみられたものについて、特徴的な点を記述した。

なお、図の表示は【体育の学習が『好き群』『どちらでもない群』『嫌い群』】を3群で表すことにする。

表3 学年・男女別のクロス集計データ

		好き群	どちらでもない	嫌い群	計(横)
2年	男子	547(84.3%)	85(13.1%)	17(2.6%)	649(100.0%)
	女子	509(83.6%)	82(13.5%)	18(3.0%)	609(100.0%)
4年	男子	559(89.4%)	49(7.8%)	17(2.7%)	625(100.0%)
	女子	527(84.3%)	65(10.4%)	33(5.3%)	625(100.0%)
6年	男子	523(84.5%)	67(10.8%)	29(4.7%)	619(100.0%)
	女子	452(75.0%)	93(15.4%)	58(9.6%)	603(100.0%)
合計	男子	1629(86.1%)	201(10.6%)	63(3.3%)	1893(100.0%)
	女子	1488(81.0%)	240(13.1%)	109(5.9%)	1837(100.0%)

(1) 運動やスポーツの好き・きらい

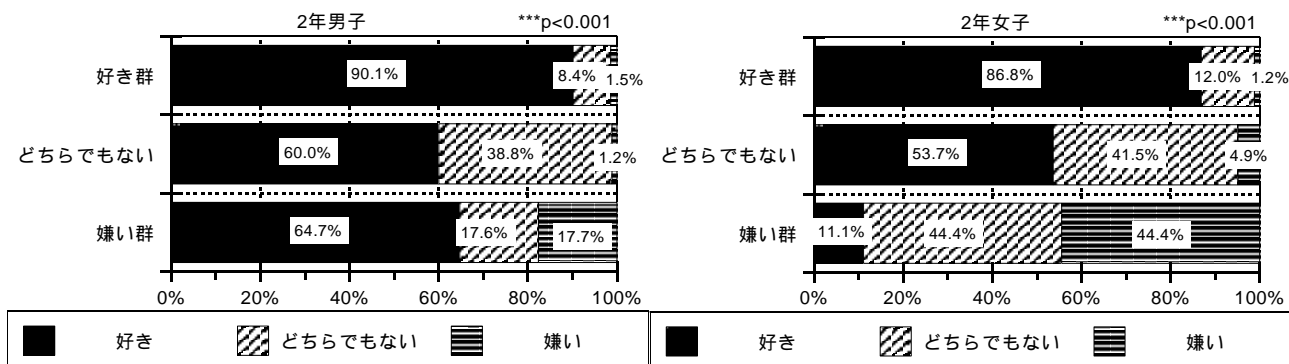


図78 3群×運動やスポーツの好き・きらい(2年生)

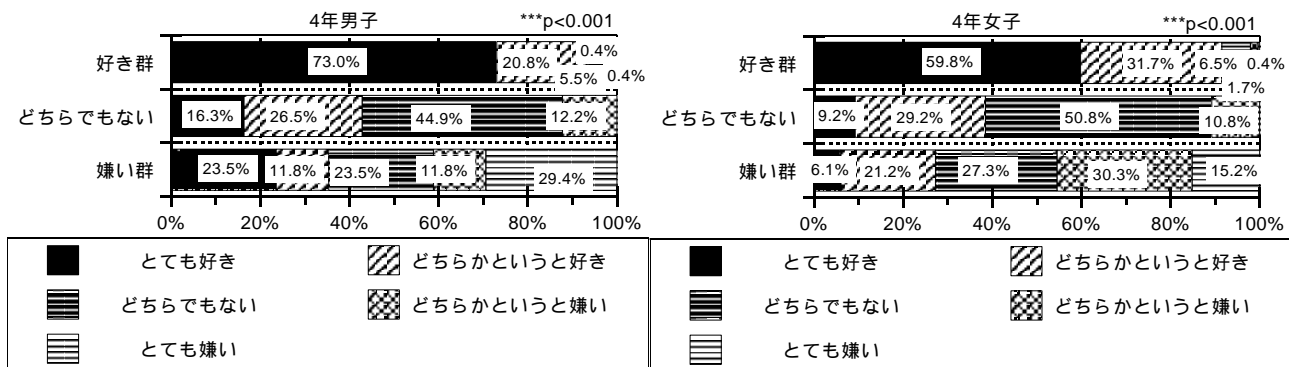


図79 3群×運動やスポーツの好き・きらい(4年生)

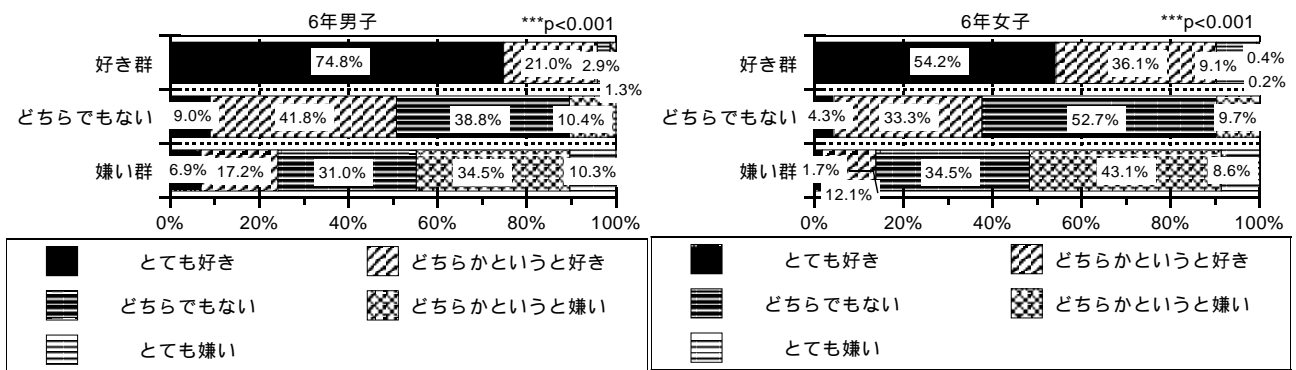


図80 3群×運動やスポーツの好き・きらい(6年生)

運動やスポーツの好き・きらいとのクロス集計結果

今回の結果から、すべての学年で体育の好き嫌いと「運動やスポーツの好き・きらい」との関連性があることがわかった。

特徴的な傾向がみられたのは2年生で、男子は体育嫌いでも運動好きで、女子は体育嫌いは運動嫌いが多いことがわかった。その他の学年でも同様の傾向がみられ、その傾向は女子に強く現れた。

このことから、体育好きは運動やスポーツが好きで、体育嫌いは運動やスポーツが嫌いである傾向がみられた。特に、その傾向は女子に強かった。

また、2年生男子には体育嫌いでも運動やスポーツが好きで、多く含まれていることがわかった。このように、2年生男子に限らず運動が嫌いと答えた児童の中にも、体育の学習が好きと答えた児童もいることも事実である。この結果からは「運動嫌い」の中にも「体育好き」がいることがわかった。

つまり、先生の指導によっては、たとえ、運動が嫌いであっても、体育は好きになることを意味しているといえるのであろう。

全体的な傾向をみると、体育が好きで運動も好きという児童の割合は、男女ともに非常に高かった。

(2) 体育の学習で好きな運動領域

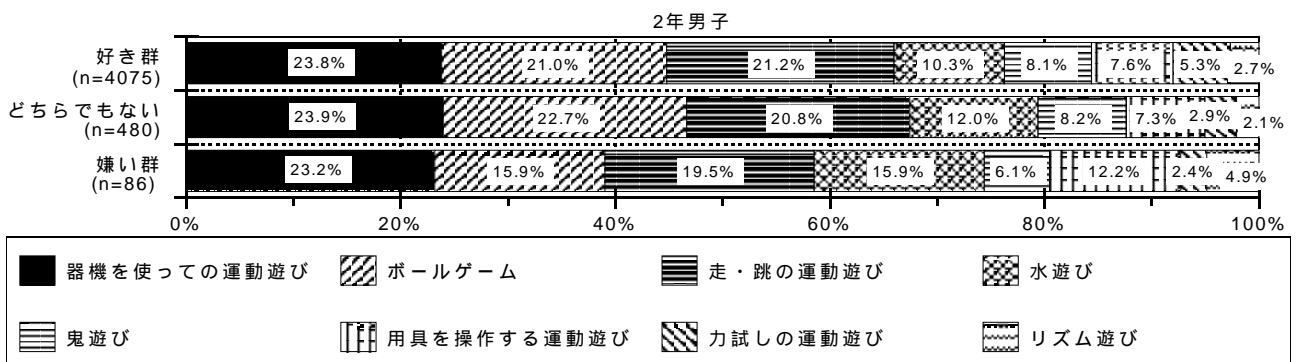


図81 3群×好きな運動領域(2年男子)

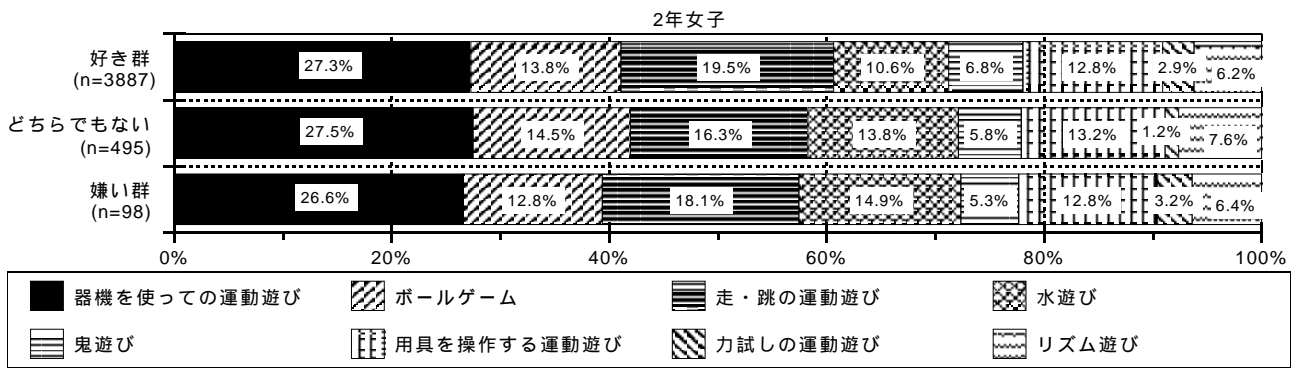


図82 3群 × 好きな運動領域 (2年女子)

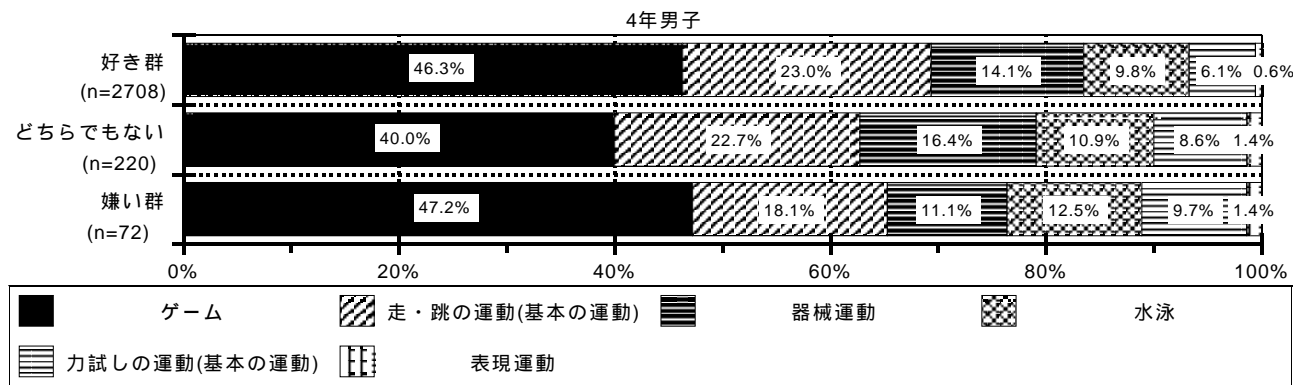


図83 3群 × 好きな運動領域 (4年男子)

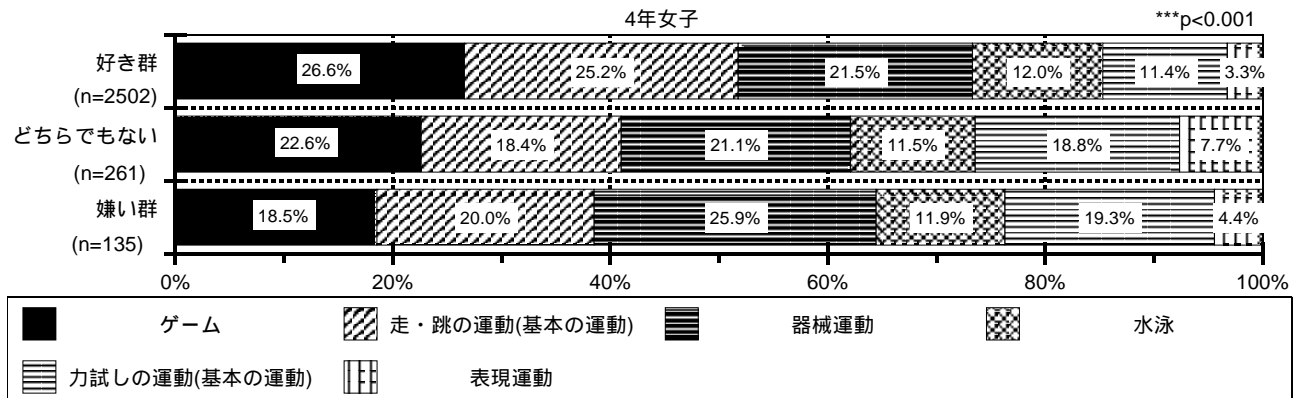


図84 3群 × 好きな運動領域 (4年女子)

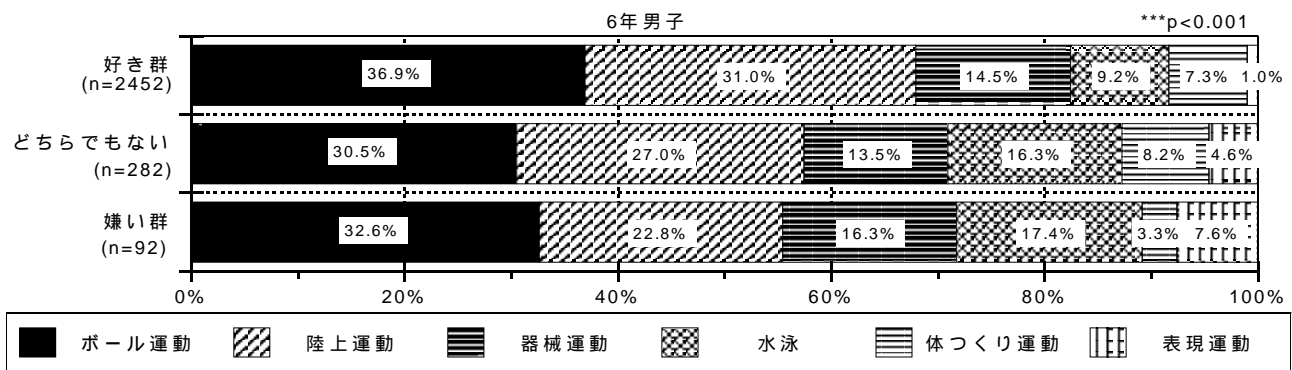


図85 3群×好きな運動領域（6年男子）

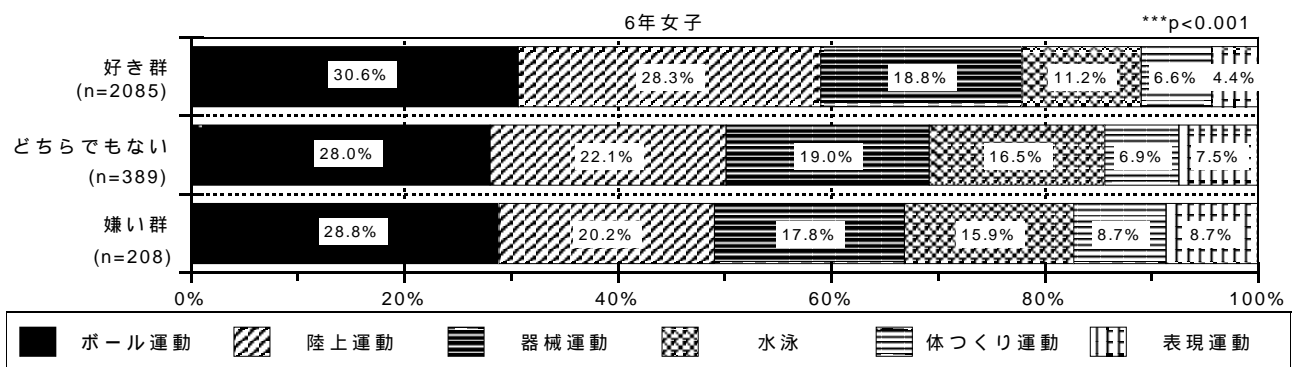


図86 3群×好きな運動領域（6年女子）

体育の学習で好きな運動領域とのクロス集計結果

今回の結果から、4年生女子と6年生男女で体育の好き嫌いとの関連性はみられたが、2年生男女と4年生男子ではみられなかった。

このことから、男女とも低学年では体育の好き嫌いが好きな運動領域に影響を及ぼさないが、高学年になるにしたがい、影響が現れるようになり、特にそれは女子に早いと考えられる。

4年生の女子では、体育好きは「ゲーム」を好むようになり、体育嫌いは「器械運動」好むといった傾向がみられた。

6年生については、男女ともに体育の好き嫌いに関わらず、「ボール運動」を好む傾向があるが、体育嫌いは体育好きに比べ「水泳」を好む傾向があることがわかった。

このことから、体育好きは自分と関わる運動領域や他人と関わる運動領域の両方を好むが、体育嫌いは自分と関わる運動領域のみを好む傾向がみられたため、他者との関わりを築く学習が高学年には重要だと考える。

(3) 体育の学習の活動状況

うまくなったり記録を伸ばすために、自分なりの目標やめあてをもって活動しているか？
(4・6年生)

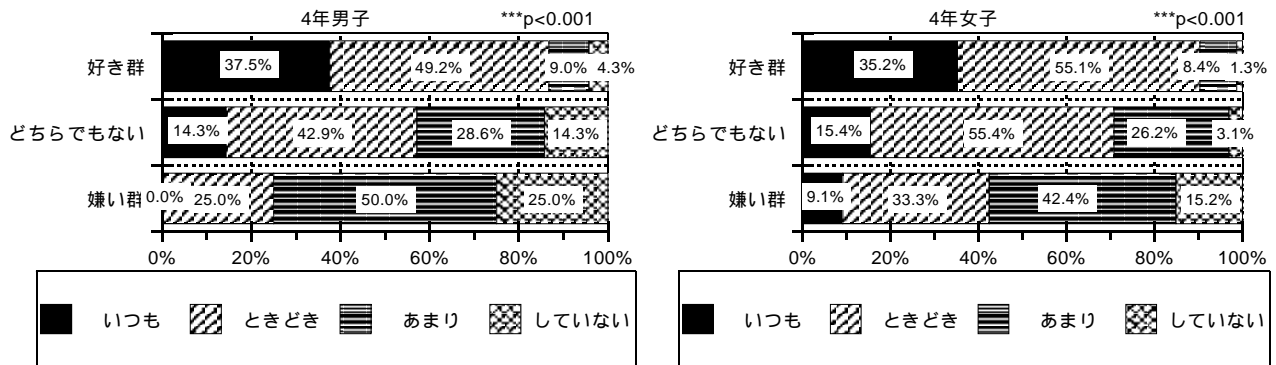


図87 3群×目標をもって活動している(4年生)

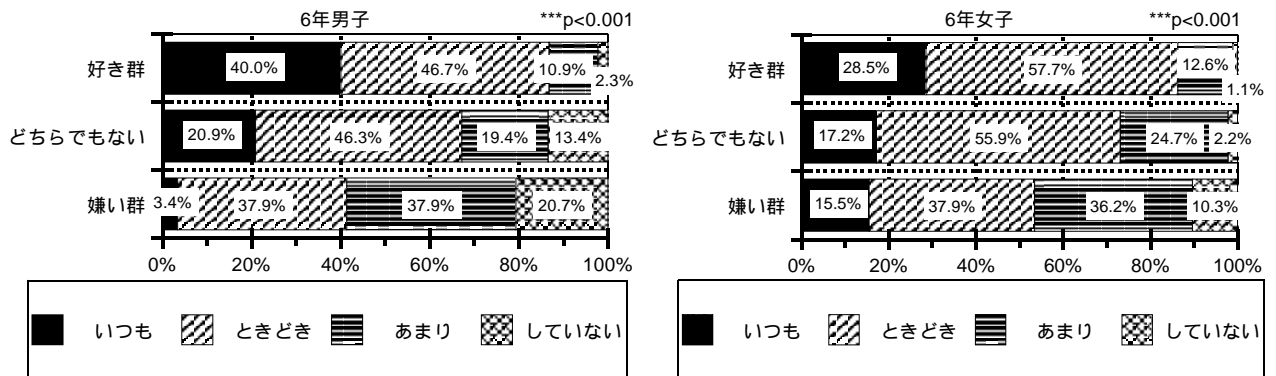


図88 3群×目標をもって活動している(6年生)

めあてが自分に合っているか、考えながら活動しているか？（４・６年生）

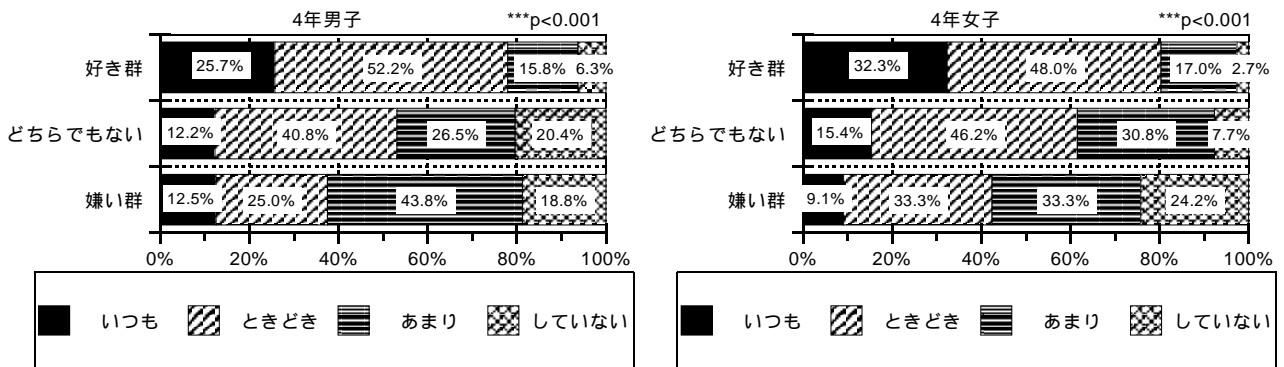


図89 3群×めあてが合っているか考えながら活動している（４年生）

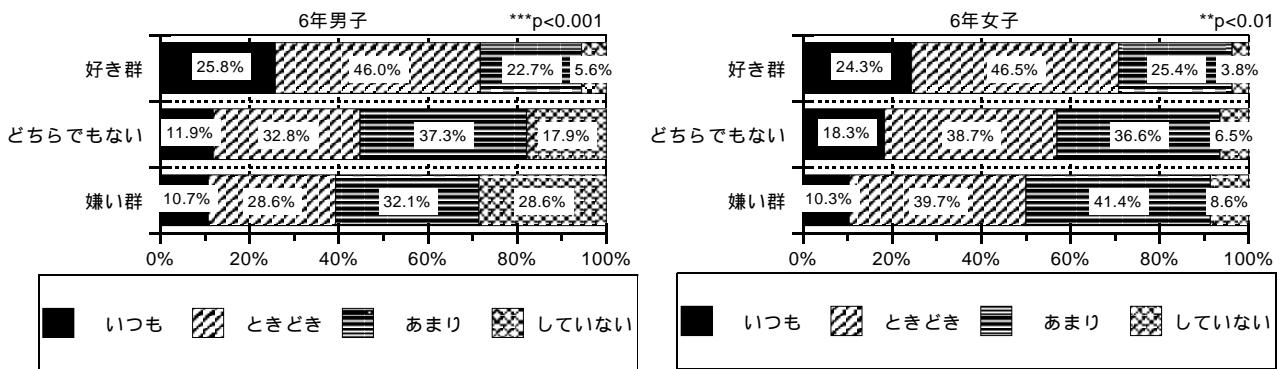


図90 3群×めあてが合っているか考えながら活動している（６年生）

練習の場所や仕方など、いろいろ工夫して活動しているか？（４・６年生）

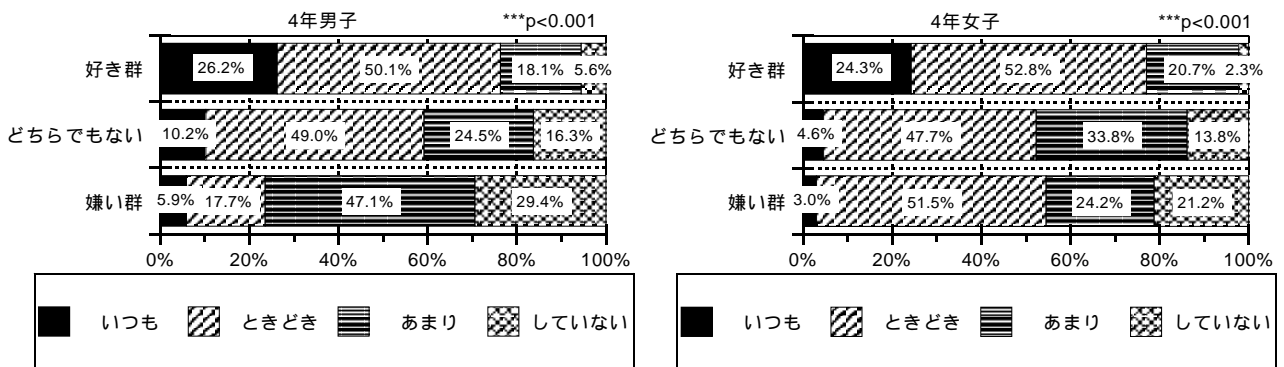


図91 3群×練習の場所や仕方など工夫して活動している（４年生）

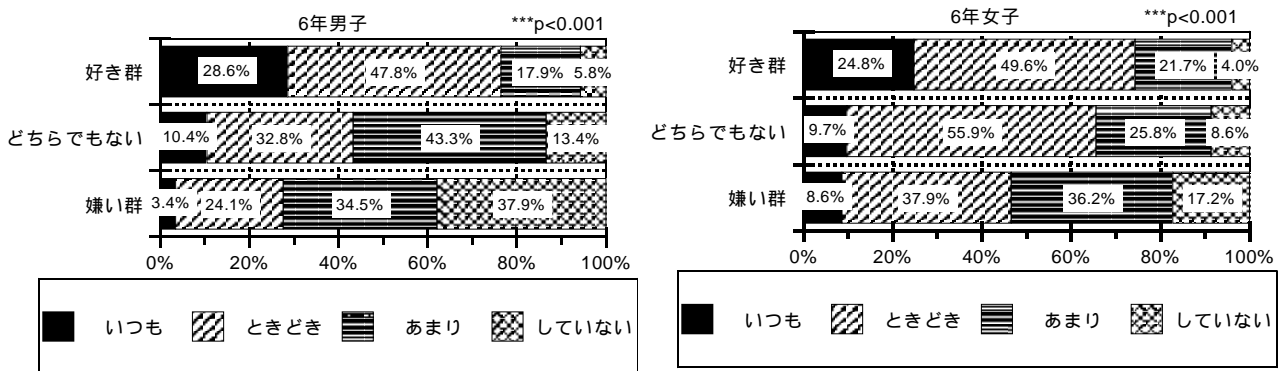


図92 3群×練習の場所や仕方など工夫して活動している（６年生）

友だちとお互いに教え合ったり、協力し合って活動しているか？（全学年）

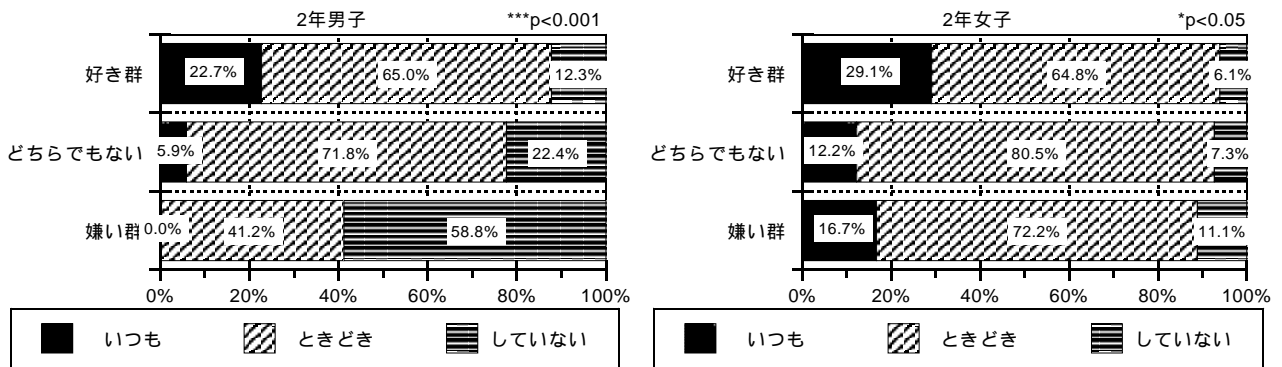


図93 3群×友だちとお互いに教え合ったりして活動している（2年生）

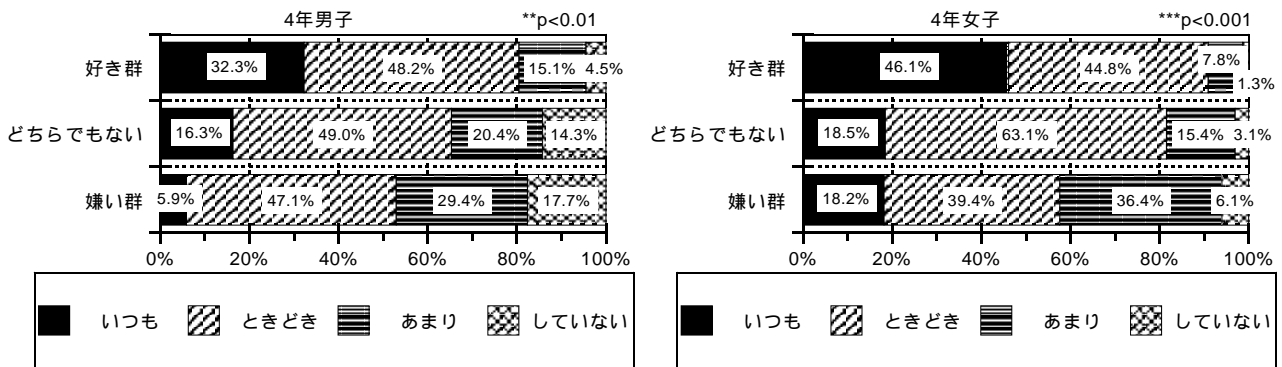


図94 3群×友だちとお互いに教え合ったりして活動している（4年生）

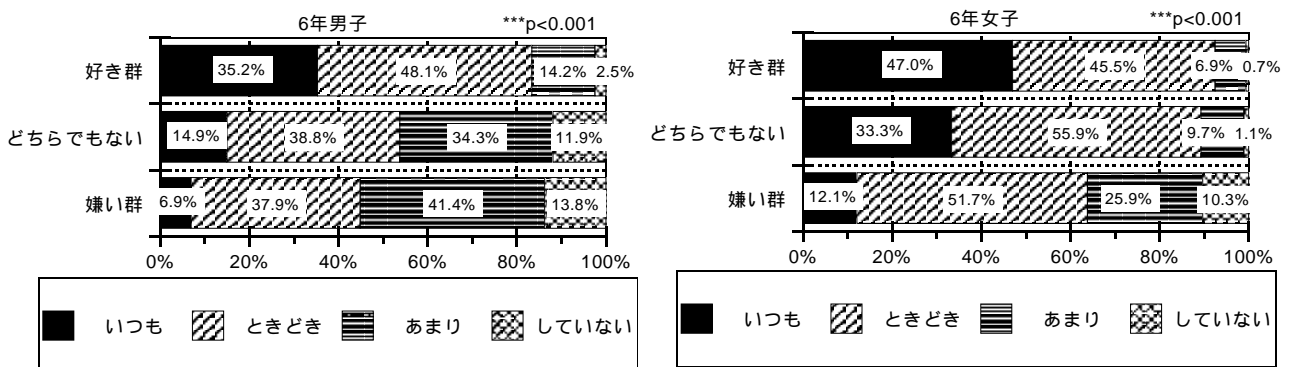


図95 3群×友だちとお互いに教え合ったりして活動している（6年生）

学習を反省したり、できたかどうか確かめながら活動している（４・６年生）

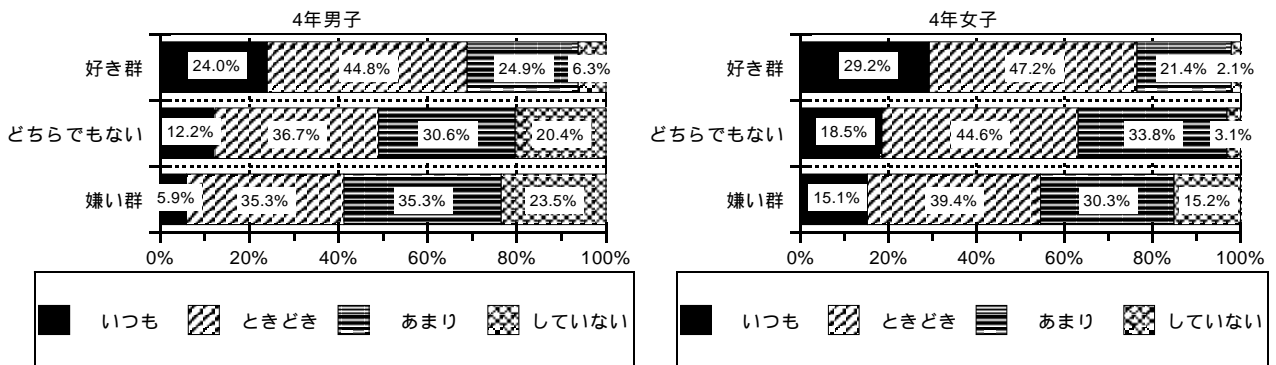


図96 3群×学習を反省したり確かめたりして活動している（４年生）

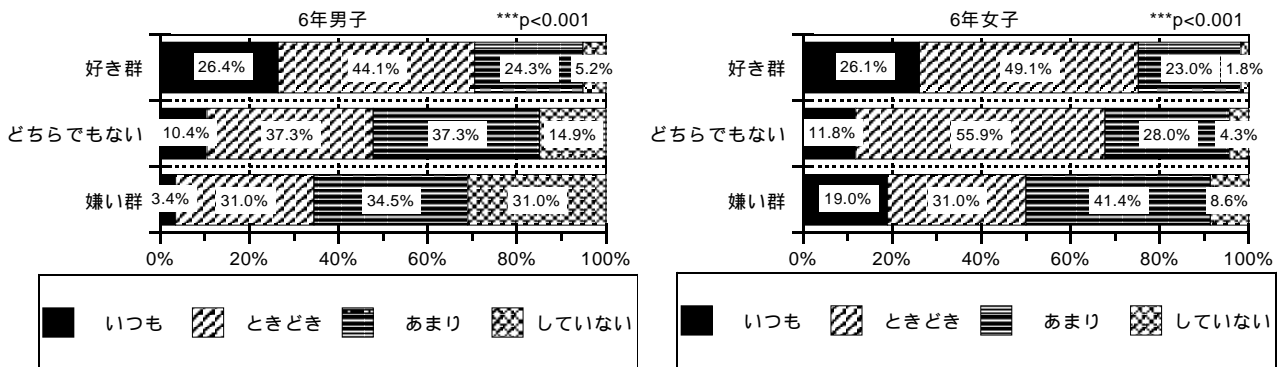


図97 3群×学習を反省したり確かめたりして活動している（６年生）

精一杯、最後まで全力を尽くして活動している（全学年）

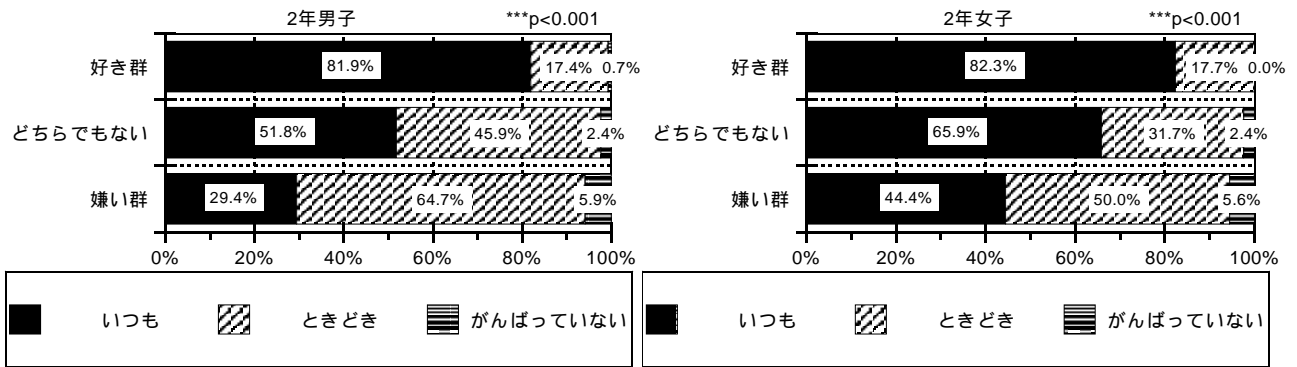


図98 3群×最後まで精一杯全力を尽くしてして活動している（2年生）

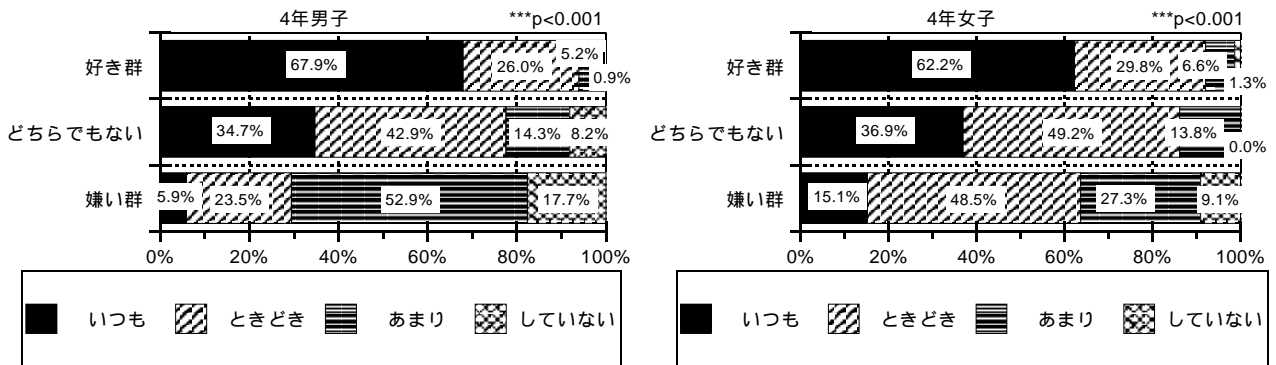


図99 3群×最後まで精一杯全力を尽くしてして活動している（4年生）

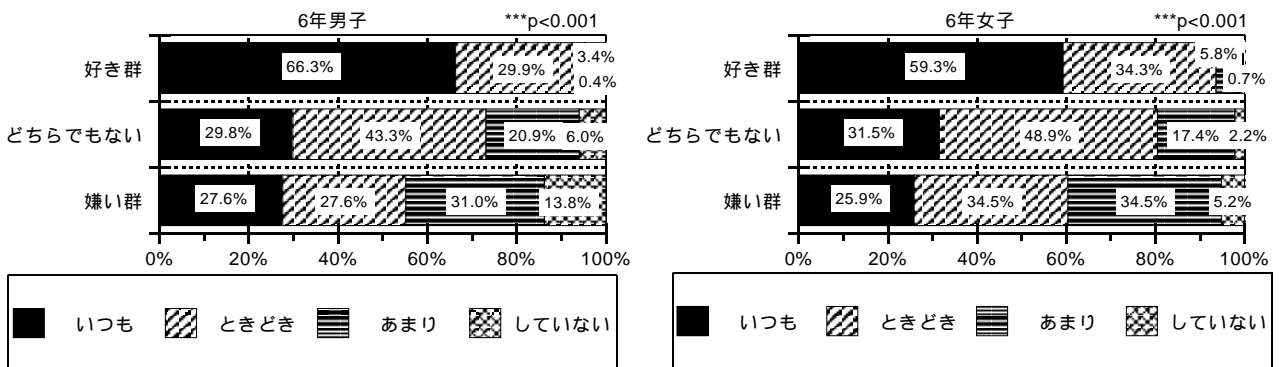


図100 3群×最後まで精一杯全力を尽くしてして活動している（6年生）

準備や片づけに進んで取り組んだり、自分の役割を果たそうと活動している（全学年）

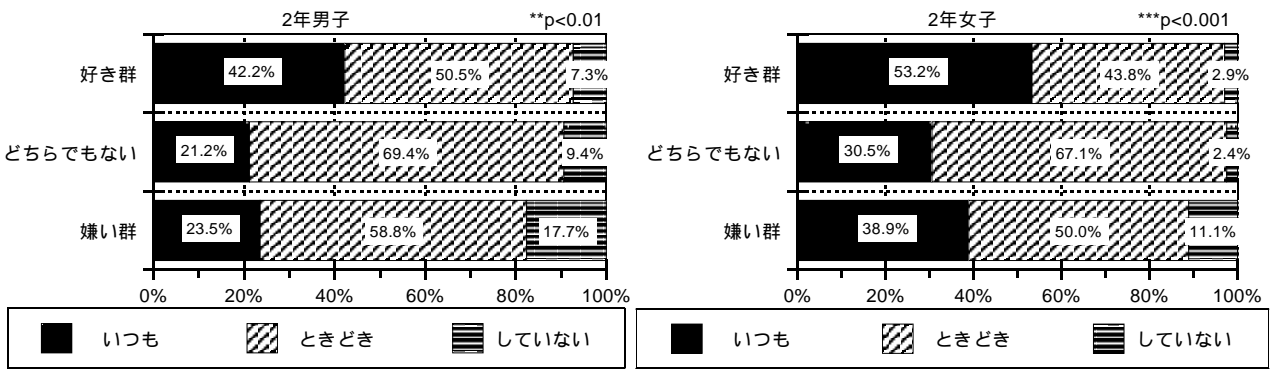


図101 3群×準備や片づけに取り組んだり等の活動している（2年生）

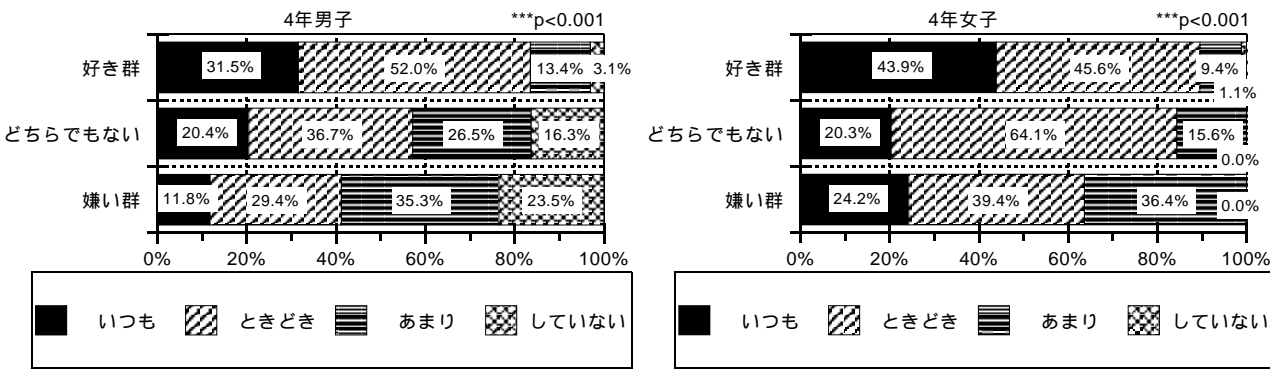


図102 3群×準備や片づけに取り組んだり等の活動している（4年生）

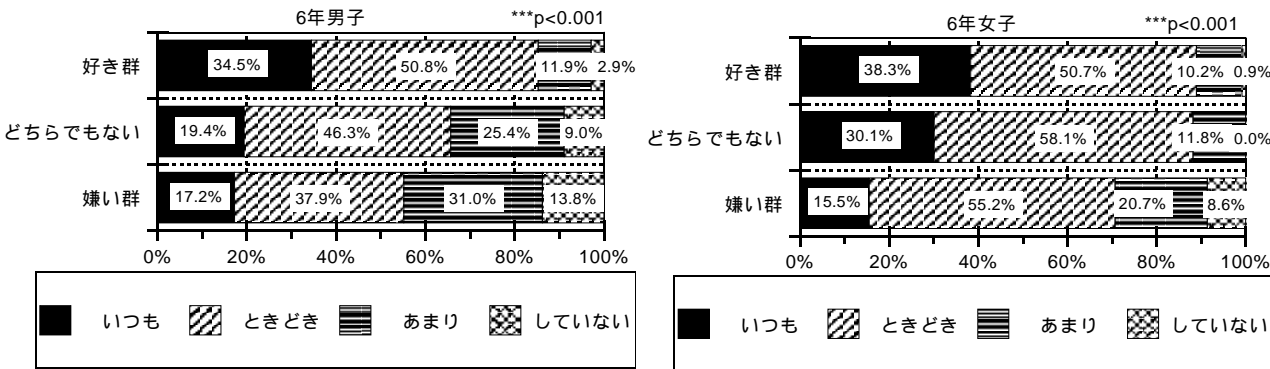


図103 3群×準備や片づけに取り組んだり等の活動している（6年生）

あなたは体育の学習で自分のめあてをどのようにして決めますか？（４・６年生）

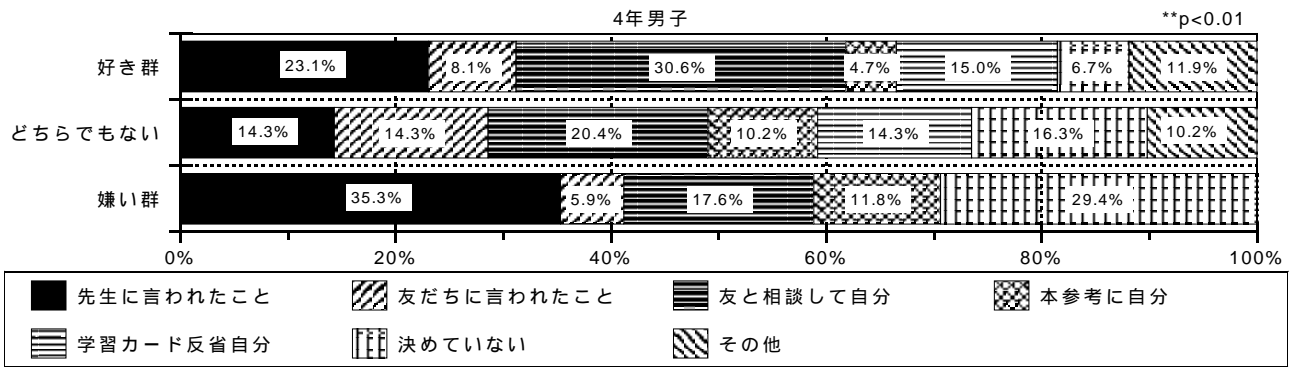


図104 3群×自分のめあての決めかた（４年生男子）

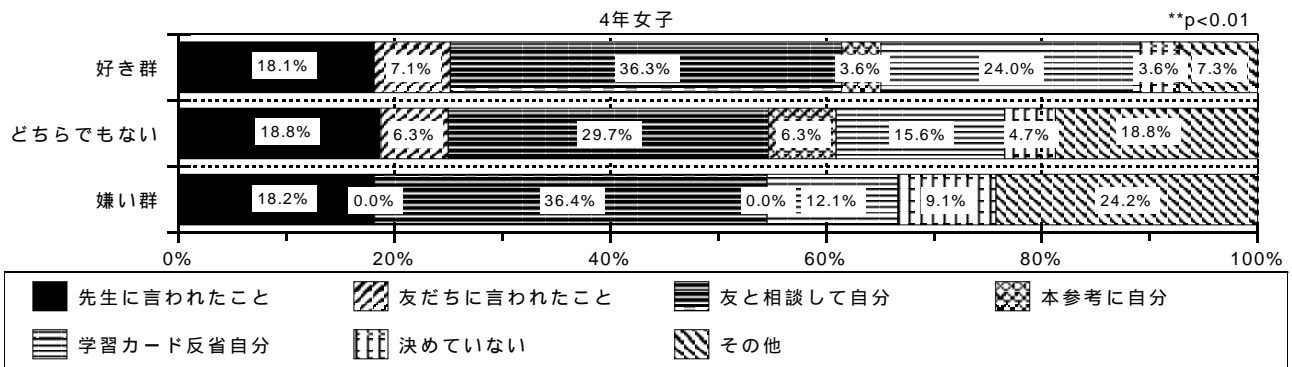


図105 3群×自分のめあての決めかた（４年生女子）

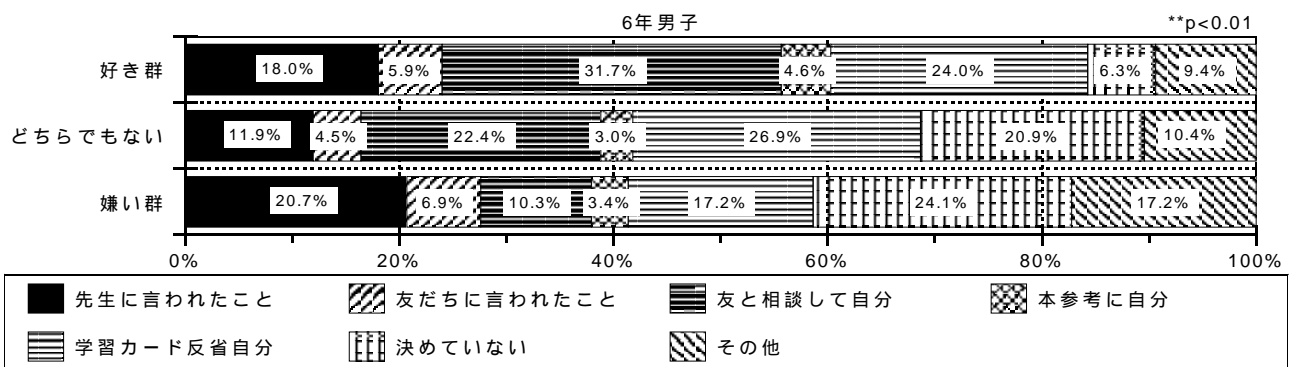


図106 3群×自分のめあての決めかた（６年生男子）

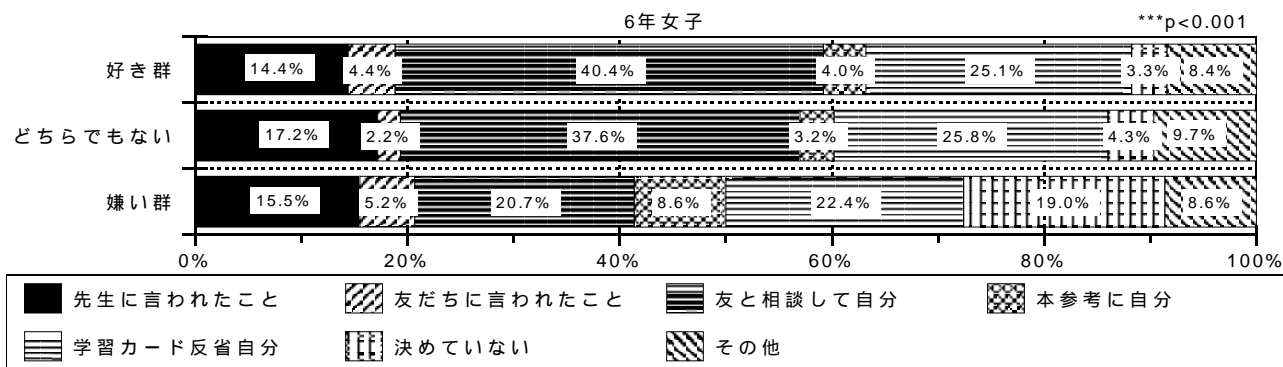


図107 3群×自分のめあての決めかた(6年生女子)

あなたは体育の学習で自分のめあてがうまく達成できないときどうしますか？
(4・6年生)

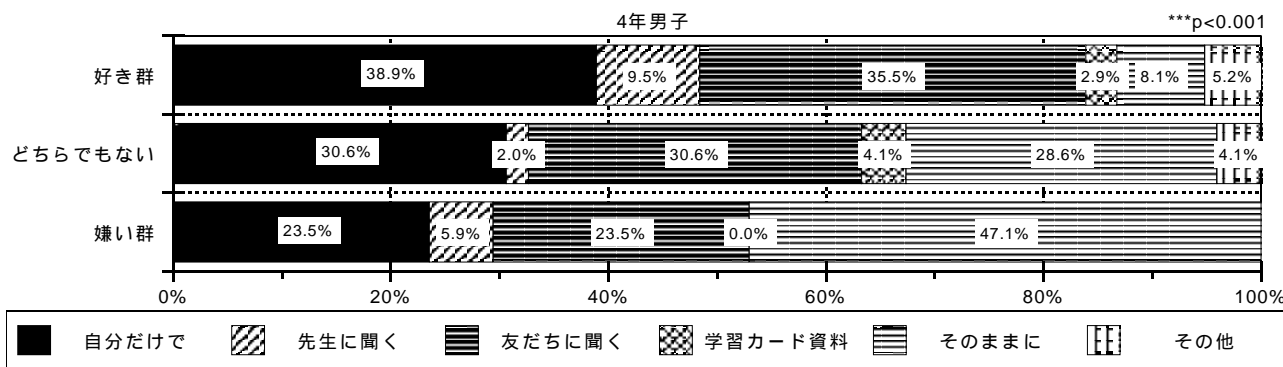


図108 3群×自分のめあてがうまく達成できないとき(4年生男子)

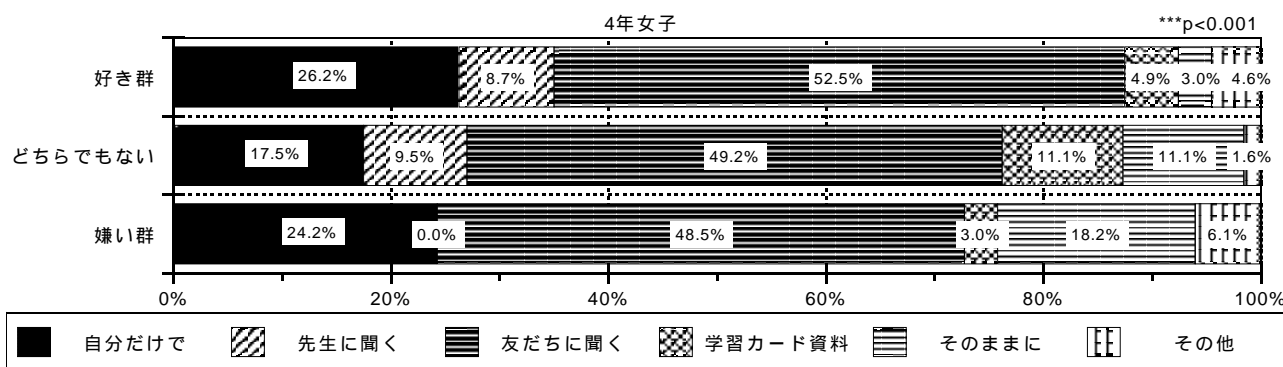


図109 3群×自分のめあてがうまく達成できないとき(4年生女子)

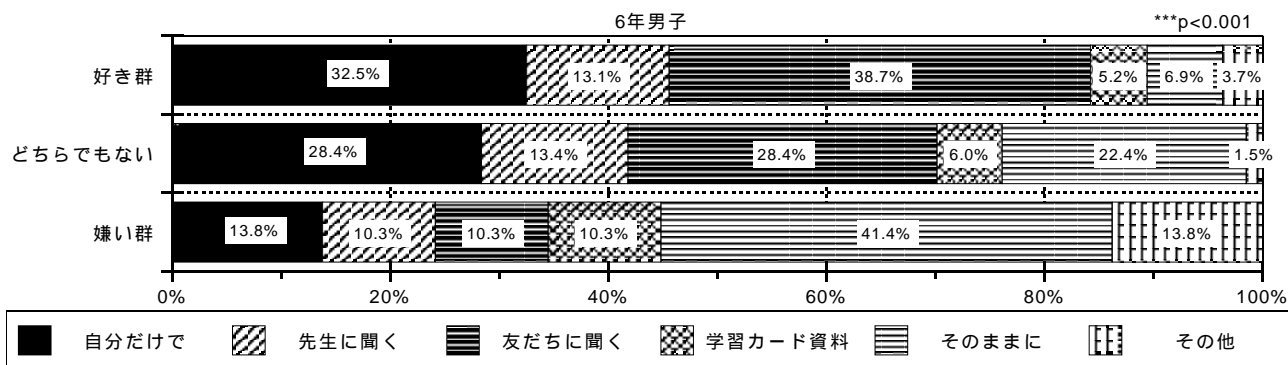


図110 3群×自分のめあてがうまく達成できないとき（6年生男子）

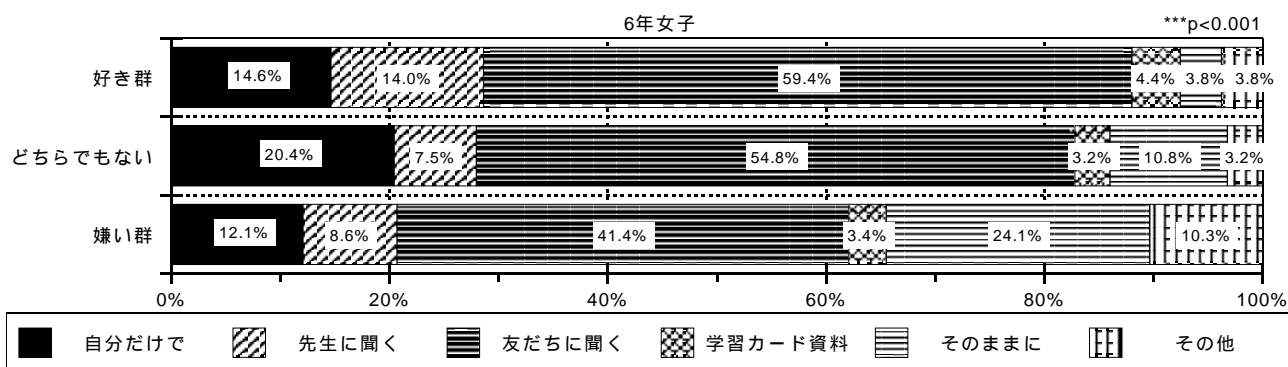


図111 3群×自分のめあてがうまく達成できないとき（6年生女子）

体育の学習の活動状況とのクロス集計結果

今回の結果から、できたかどうか確かめながら活動をしているの項目で4年生男女に関連性がみられなかったが、その他の項目ではすべての学年で体育の好き嫌いと体育の学習の活動状況との関連性がみられた。

「めあて」や目標を持って課題に取り組むこと、「めあて」の振り返り、練習場所や方法の工夫、学習の反省で、体育好きの6年生は男女ともに充実した活動をしており、体育嫌いはあまり充実していない傾向がみられた。

目標決定の方法においても、体育好きの男女はともに「決めている」傾向が強く、体育嫌いは「決めていない」が多くなる傾向にあった。

また、4年生男子のように「めあて」が達成されない時の対処法においては、「そのままに」にしてしまうという児童が体育好きでは少なく、体育嫌いが増える傾向がみられた。

このことから、体育好きは学習の問題解決に対して積極的な姿勢で取り組んでおり、体育嫌いは消極的な姿勢であるといえる。

友達との協力については、2年生女子で体育の好き嫌いに関わらず、行っている傾向にあったが、2年生男子と4・6年生男女では体育好きは行っており、体育嫌いは行っていない傾向がみられた。

このことから、体育好きな子どもの方が学び合いをしている傾向があることがわかった。

体育の学習への取り組み状況をみると、全学年の男女ともに体育好きは最後まで全

力を尽くして活動をする傾向があり、体育嫌いはしなくなっていく傾向がみられた。

また、準備や片付け、自分の役割に対する取り組みにおいても、体育好きがより積極的に取り組んでいた。

このことから、体育が好き嫌いかという意識の違いと、学習意欲には関連性があると考えられる。

(4) 体育を楽しみと感じたとき

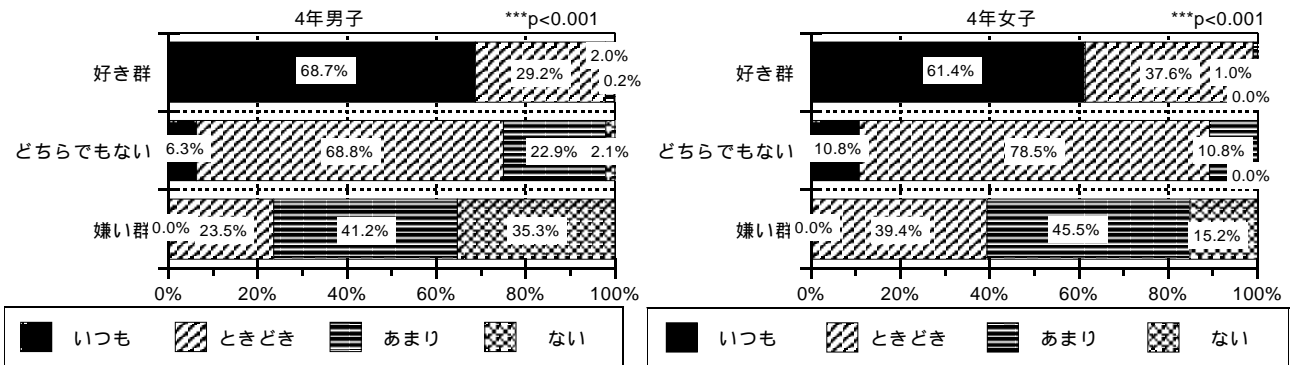


図112 3群 × 体育の学習が楽しいと感じたことがあるか (4年生)

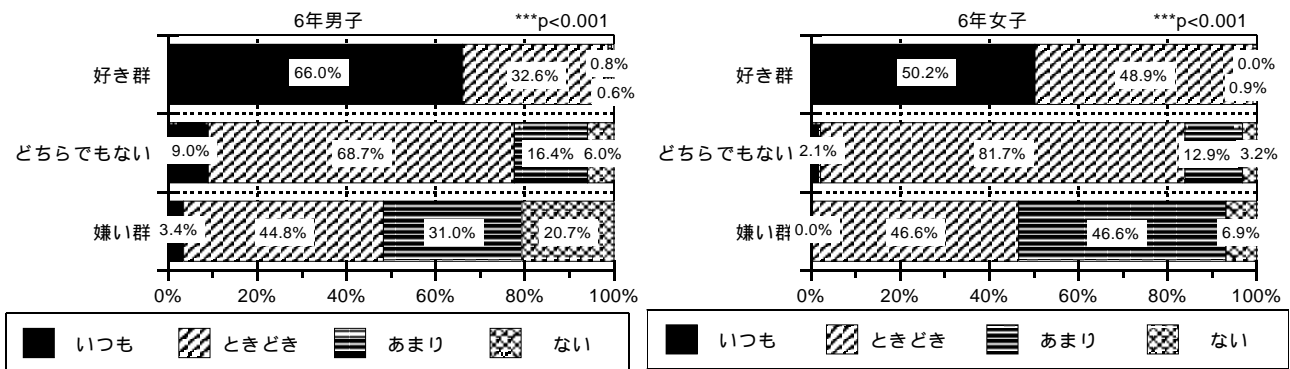


図113 3群 × 体育の学習が楽しいと感じたことがあるか (6年生)

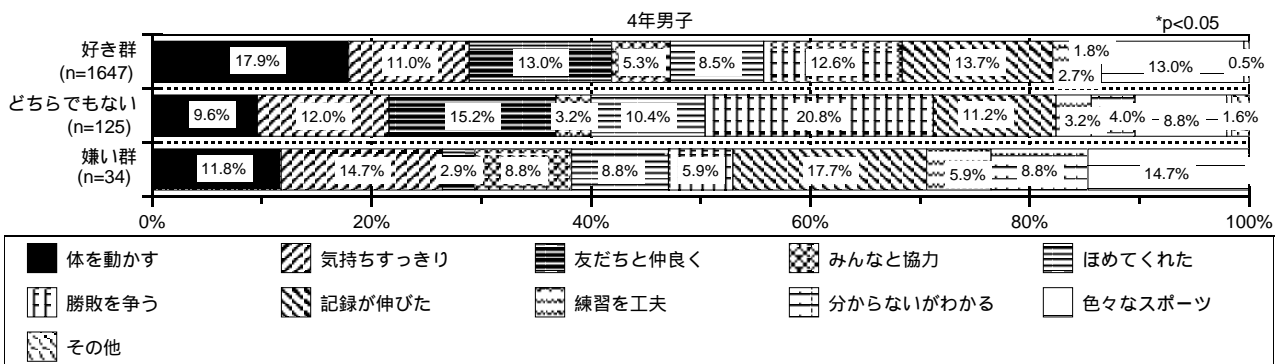


図114 3群 × 体育の学習が楽しいと感じた理由 (4年生男子)

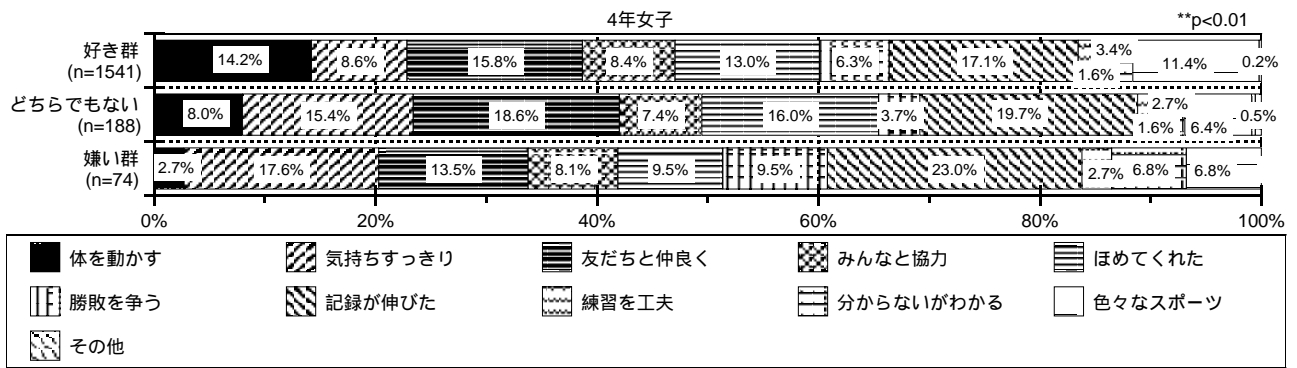


図115 3群×体育の学習が楽しいと感じた理由（4年生女子）

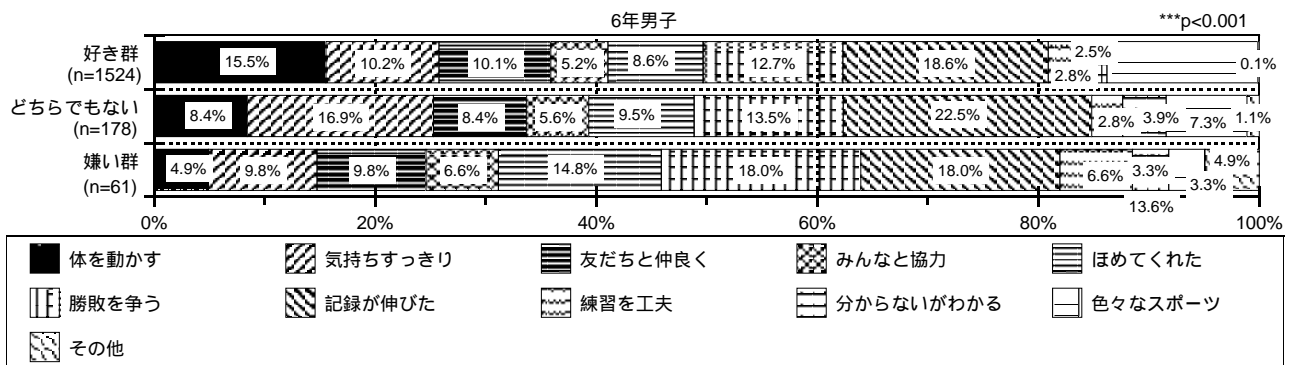


図116 3群×体育の学習が楽しいと感じた理由（6年生男子）

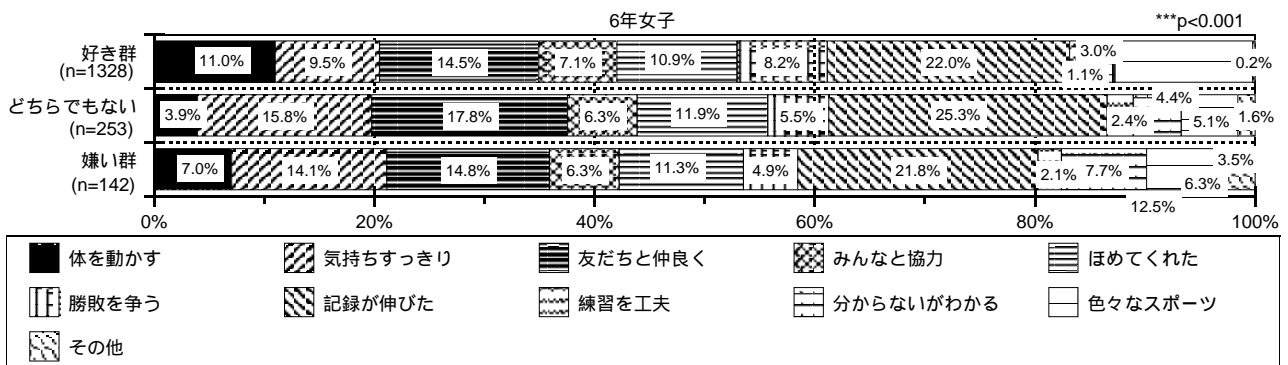


図117 3群×体育の学習が楽しいと感じた理由（6年生女子）

(5) 体育の授業がつまらないと感じたとき

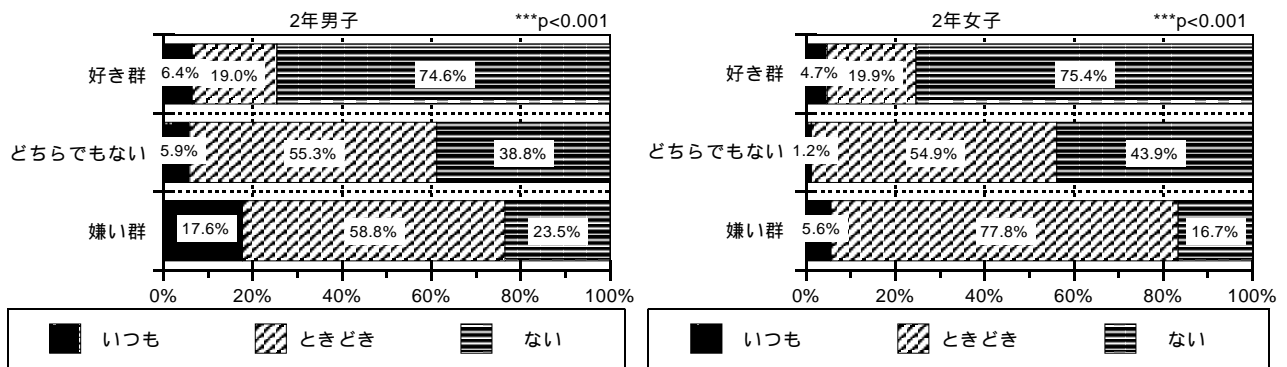


図118 3群×体育の学習がつまらないと感じたことがあるか(2年生)

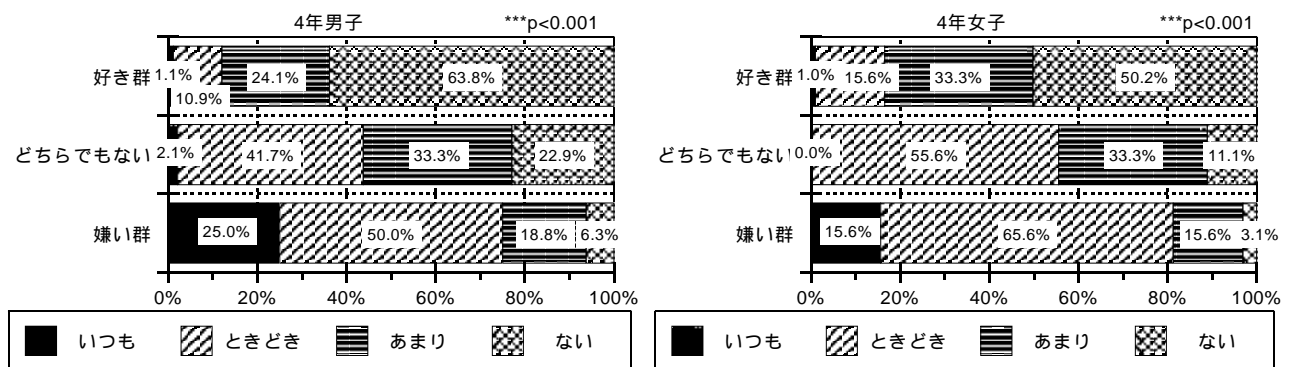


図119 3群×体育の学習がつまらないと感じたことがあるか(4年生)

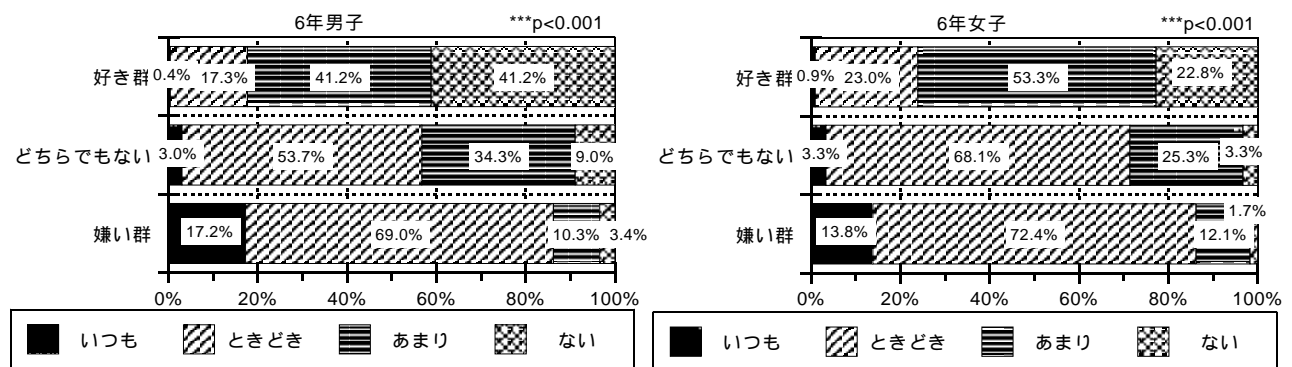


図120 3群×体育の学習がつまらないと感じたことがあるか(6年生)

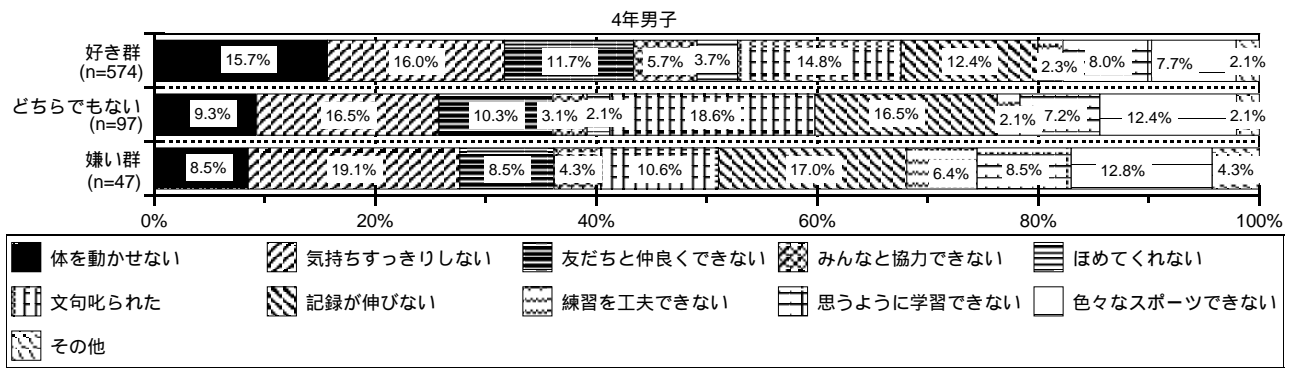


図121 3群× 体育の学習がつまらないと感じた理由（4年生男子）

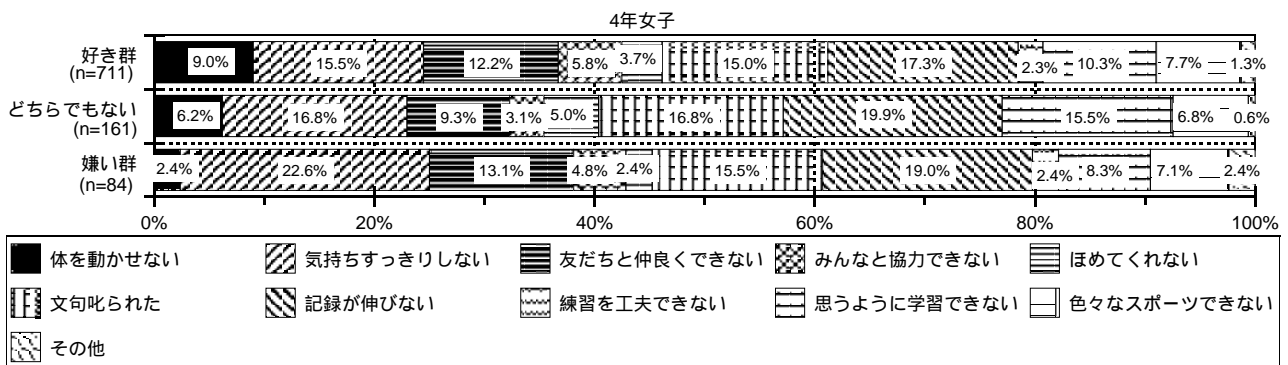


図122 3群× 体育の学習がつまらないと感じた理由（4年生女子）

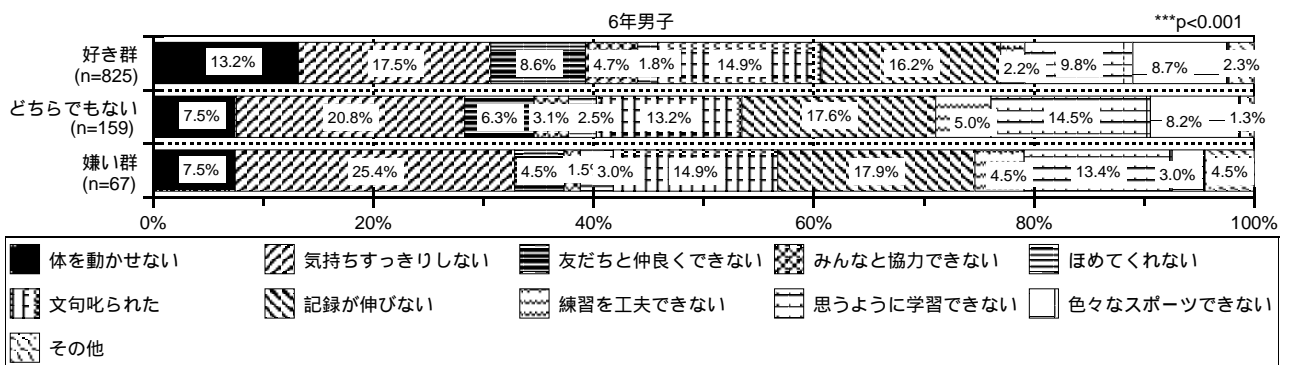


図123 3群× 体育の学習がつまらないと感じた理由（6年生男子）

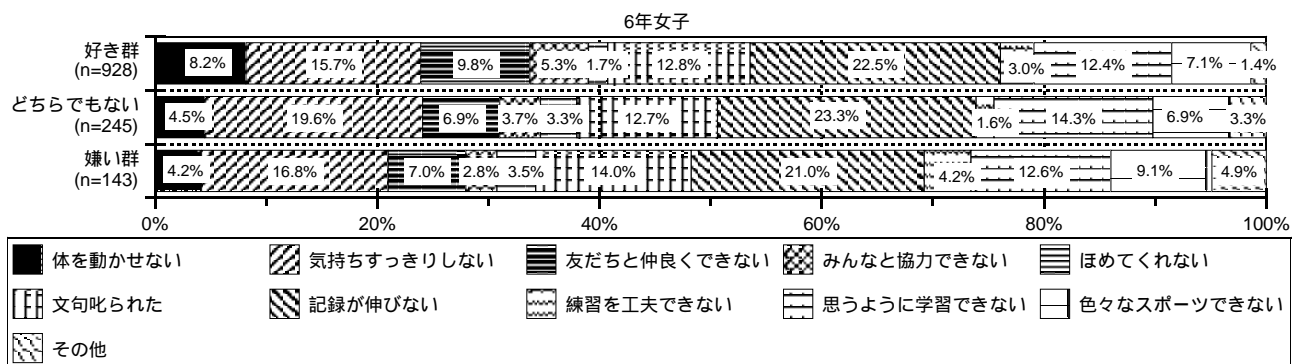


図124 3群× 体育の学習がつまらないと感じた理由（6年生女子）

体育の学習の楽しさ・つまらなさとのクロス集計結果

今回の結果から、体育好きは体育の学習がいつも楽しいと感じ、体育嫌いは楽しいとあまり感じたことがないという傾向がみられた。それに伴い、楽しく感じないと答えた児童が体育好きではほとんどみられないが、体育嫌いでは、顕著にみられた。

このことから、体育好きは楽しいといつも感じながら学習しているのに対し、体育嫌いは楽しいとあまり感じないで学習している傾向があることがわかった。

体育の学習が「楽しい」と感じる理由としては、体育の好き嫌いに関わらず、男女ともに技能や体力が向上したときに楽しいと感じている傾向があることがわかった。

体育の学習が「つまらない」と感じたことがあるについては、体育好きは「つまらない」と感じたことがなく、体育嫌いは「つまらない」と感じたことがあるという傾向がみられた。

6年生男子が体育の学習をつまらないと感じる理由としては、体育の好き嫌いに関わらず、男女ともに疲労感を伴ったときや技能や体力が向上しなかったとき、また、他人から中傷されたときに「つまらない」と感じている傾向があることがわかった。

以上のことから、体育好きと体育嫌いの男女ともに、同じ理由で「楽しい」もしくは「つまらない」と感じていることがわかった。

(6) 体育の学習でけがをしないために心がけていること

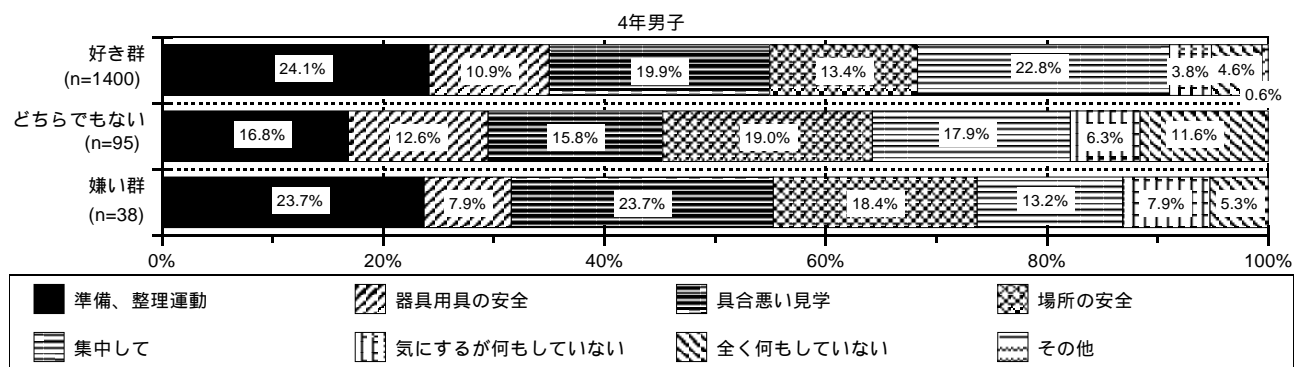


図125 3群×けがをしないために心がけていること(4年生男子)

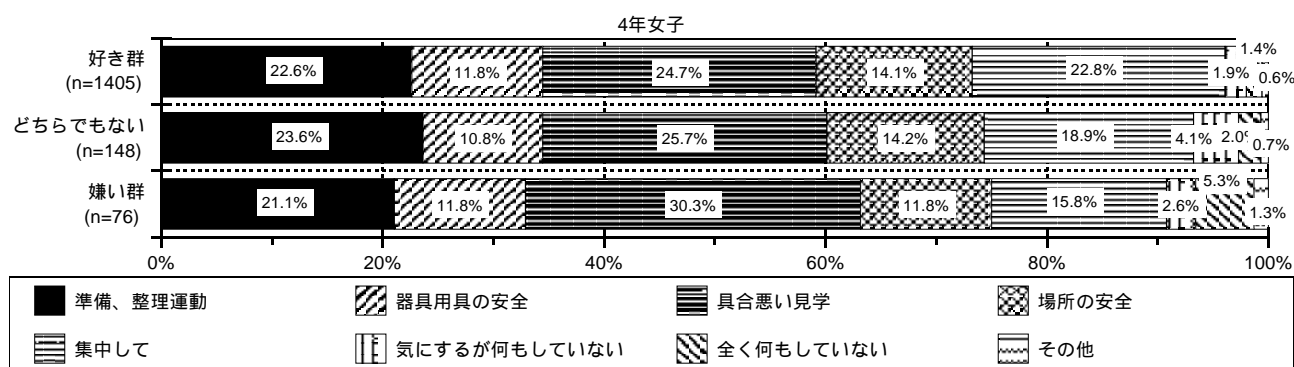


図126 3群×けがをしないために心がけていること(4年生女子)

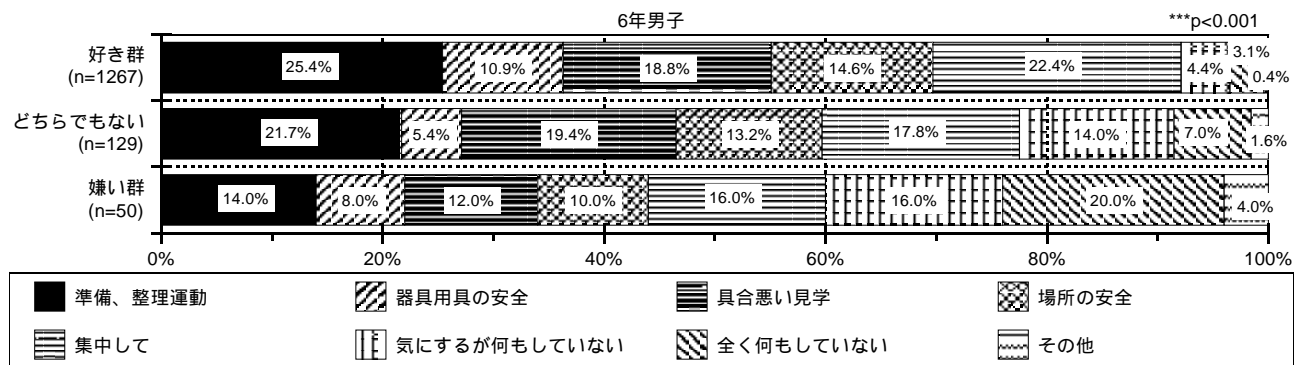


図127 3群×けがをしないために心がけていること(6年生男子)

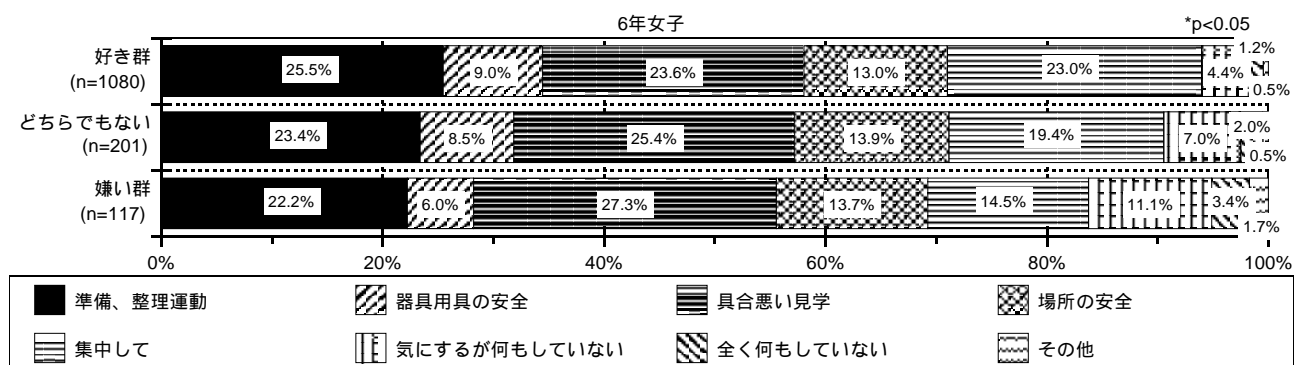


図128 3群×けがをしないために心がけていること(6年生女子)

体育学習時の安全管理とのクロス集計結果

今回の結果から、6年生男女で体育の好き嫌いとはけがをしないうために心がけていることとの関連性がみられ、4年生男女ではみられなかった。

体育好きの6年生男女は、けがを防止するために自分自身の身体や心理状態に気がつけている傾向があることがわかった。

体育嫌いの6年生男女は、体育好きに比べ授業中での集中力がやや低下し、けがに対しても、気にはしているが手だてを講じていない者が多くなる傾向がみられ、特に男子に強く現れていた。6年生女子は具合が悪いと見学をするようにしている傾向が強いことがわかった。

このことから、体育嫌いの男子は体育好きに比べ、安全面に注意を払わない傾向がみられることがわかった。

(7) 学校で休み時間や放課後に運動を行うか

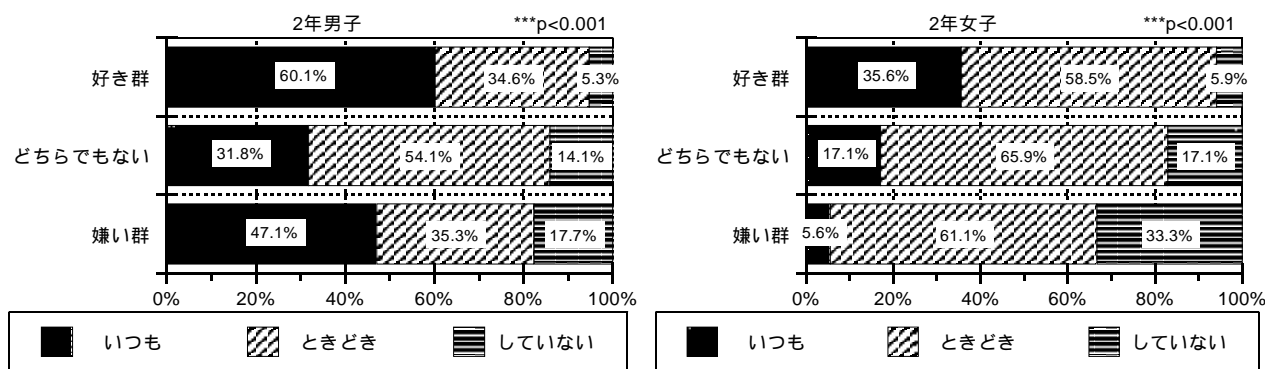


図129 3群×学校で休み時間や放課後に運動を行うか(2年生)

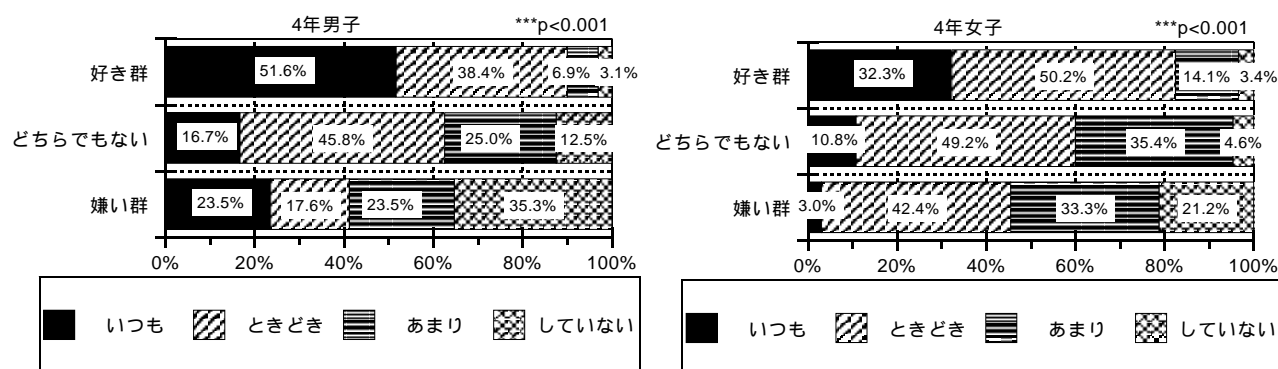


図130 3群×学校で休み時間や放課後に運動を行うか(4年生)

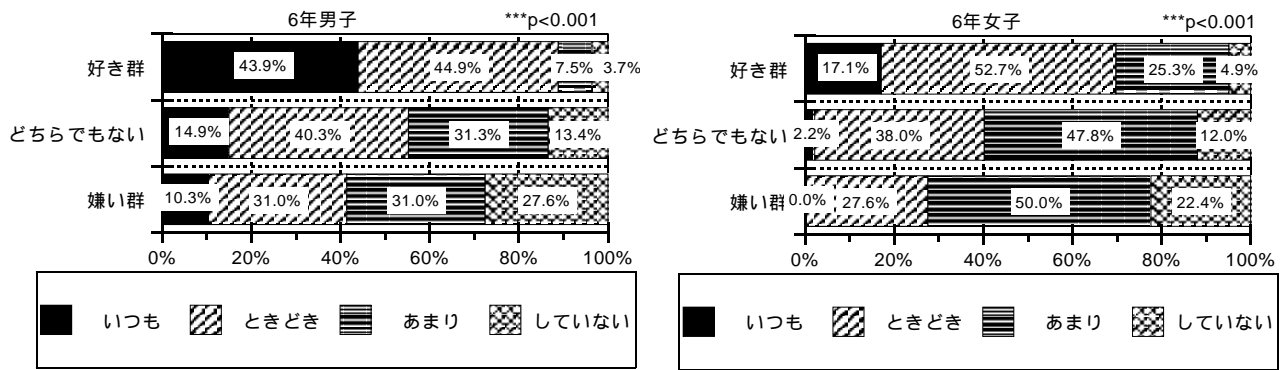


図131 3群×学校で休み時間や放課後に運動を行うか(6年生)

(8) なぜ学校で休み時間や放課後に運動を行うのか?

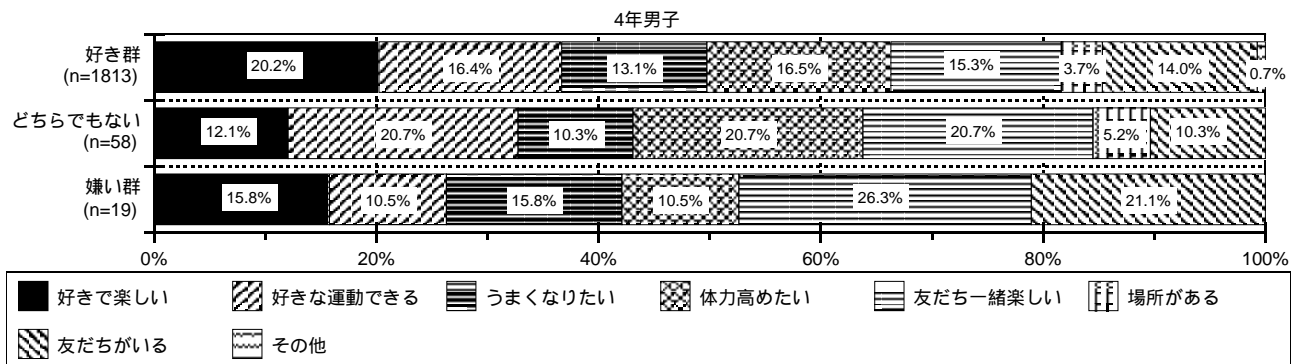


図132 3群×なぜ休み時間や放課後に運動を行うのか(4年生男子)

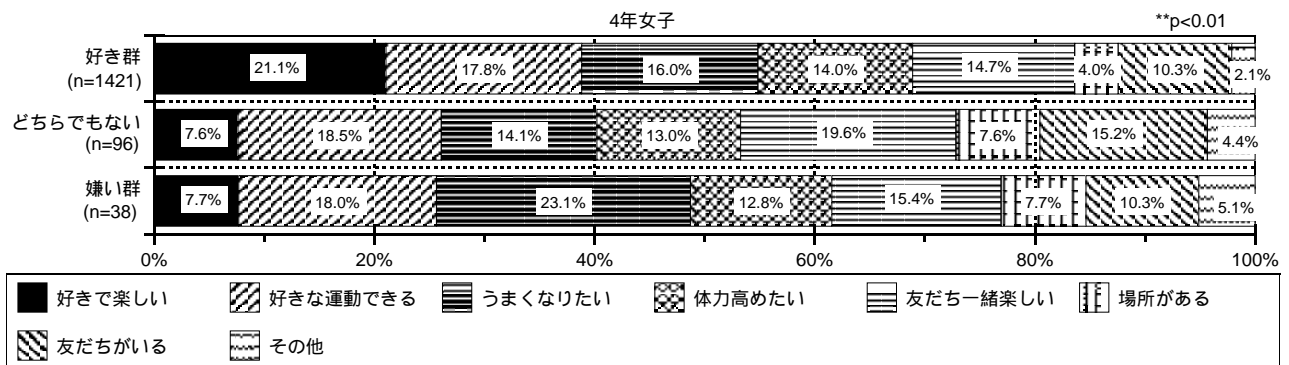


図133 3群×なぜ休み時間や放課後に運動を行うのか(4年生女子)

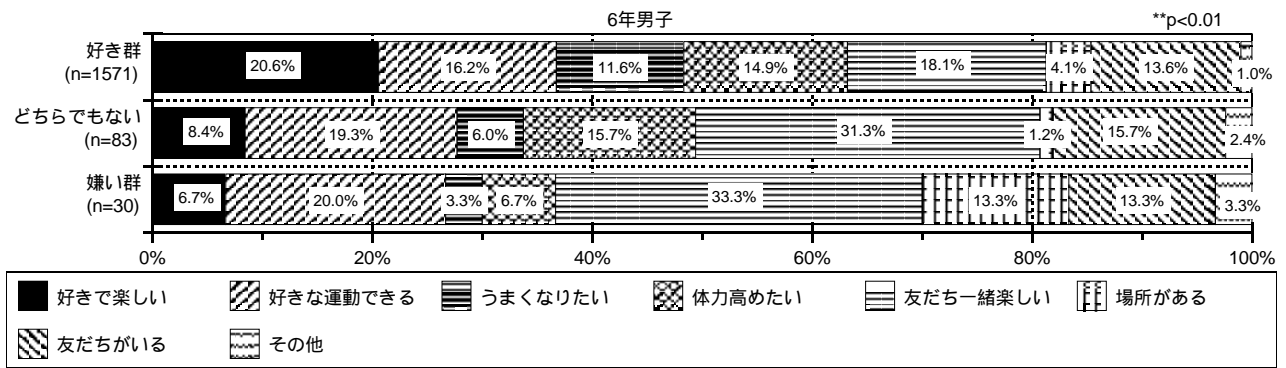


図134 3群 × なぜ休み時間や放課後に運動を行うのか (6年生男子)

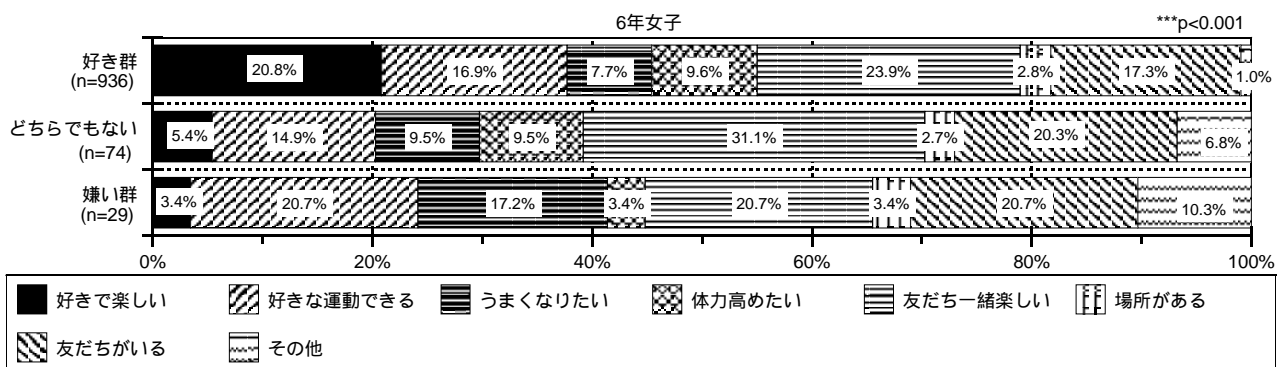


図135 3群 × なぜ休み時間や放課後に運動を行うのか (6年生女子)

(9) なぜ休み時間や放課後に運動をしないのか？

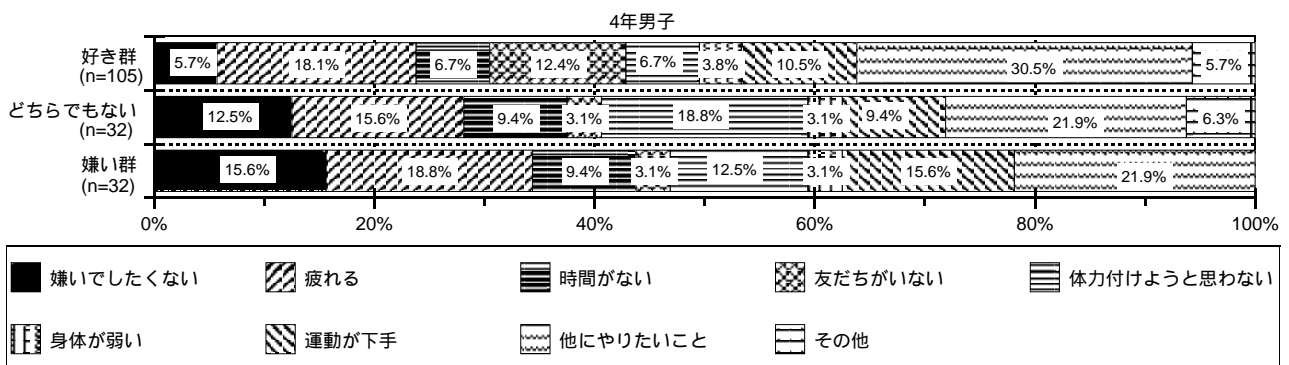


図136 3群 × なぜ休み時間や放課後に運動をしないのか (4年生男子)

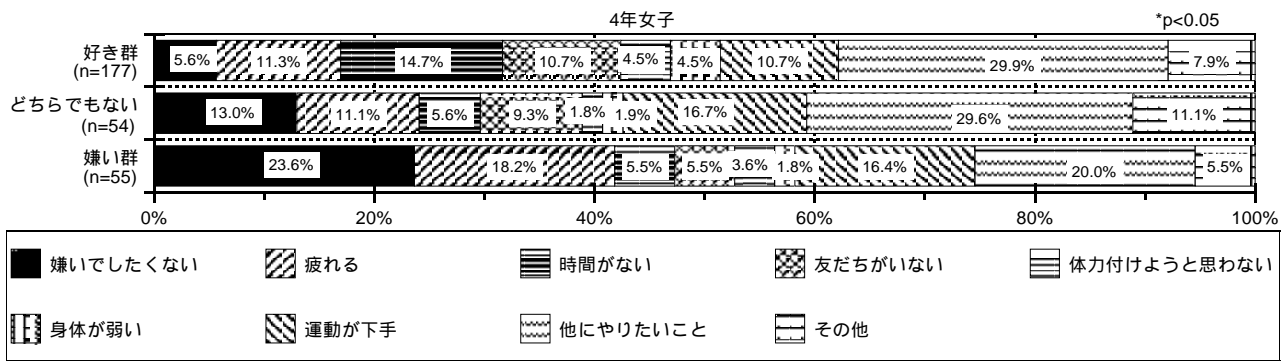


図137 3群×なぜ休み時間や放課後に運動をしないのか(4年生女子)

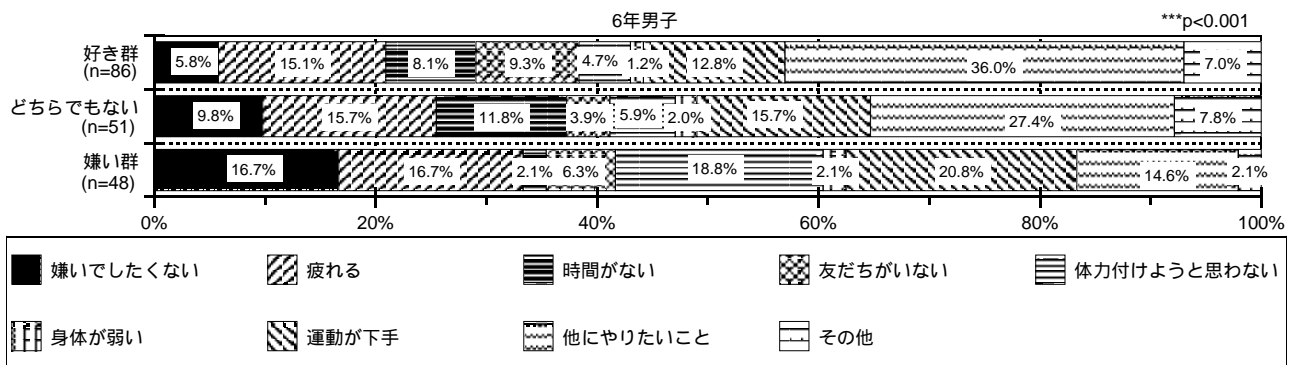


図138 3群×なぜ休み時間や放課後に運動をしないのか(6年生男子)

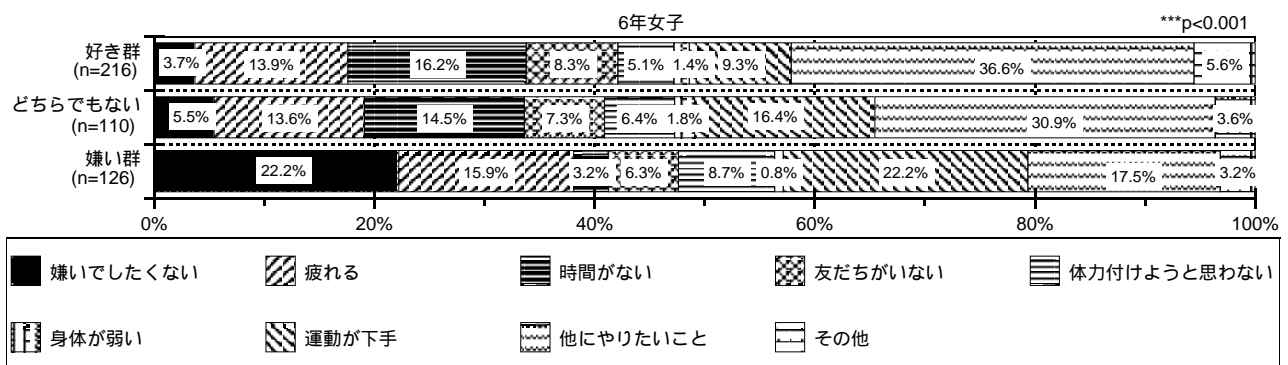


図139 3群×なぜ休み時間や放課後に運動をしないのか(6年生女子)

休み時間や放課後の運動とのクロス集計結果

今回の結果から、すべての学年で体育の好き嫌いとは休み時間や放課後の運動状況との関連性がみられた。

男女ともに体育好きは休み時間や放課後によく運動しているのに対し、体育嫌いはいあまり運動していない傾向がみられた。また、体育の好き嫌いに関わらず学年進行に伴って、休み時間や放課後に運動を行う頻度が減少する傾向がみられ、男子より女子にその傾向が強く現れた。

しかし、2年生のように男子は体育嫌いでも「いつもしている」が多く、女子は「とき

どきしている」の割合が多いことから、2年生は体育の好き嫌いに関わらず男女ともによく運動していることがわかった。また、4年生男子も2年生同様に、体育嫌いでもよく運動をしていることもわかった。

今回の結果から、4年生の男子を除くすべての学年で体育の好き嫌いと休み時間や放課後に運動を行う理由との関連性がみられた。

体育好きは、4年生女子と6年生男女ともに運動そのものが好きであると同時に、運動を通して仲間関係を大切にして運動している傾向がみられた。

体育嫌いは、4年生女子と6年生男女ともに自分の好きな運動を仲間と一緒にすることが楽しくて運動する傾向がみられた。

また、4・6年生の女子のように運動がうまくなりたいからという理由で運動している場合もあった。

今回の結果から、4年生の男子を除くすべての学年で体育の好き嫌いと休み時間や放課後の運動を行わない理由との関連性がみられた。

体育好きは、4年生女子と6年生の男女ともに、他にやりたいことがあるからが大きな理由で休み時間や放課後に運動をしない傾向がみられた。また、6年生男子は運動をすると疲れるから、4・6年生女子は勉強や次の準備で時間がとれないから、運動をすると疲れからという理由も多かった。

このことから、体育好きの男女でも運動以外に優先するものがあり運動しない場合があることがわかった。また、休み時間や放課後の短い時間で疲れてしまうなど、体力の低下傾向を垣間見る結果もみられた。

また、体育嫌いの6年生男子は運動が嫌いだったり、苦手意識があり上手くなろうという気持ちもない児童も多くみられた。4・6年生女子も運動が嫌いだったり、苦手意識があり運動しないという傾向が現れていた。

体育好きは他にやりたいことがあるので、運動を行わない傾向があるのに対し、体育嫌いは運動が嫌いだったり、苦手意識があるため、あえて運動は行わないという傾向があることがわかった。

(10) スポーツクラブへの加入状況

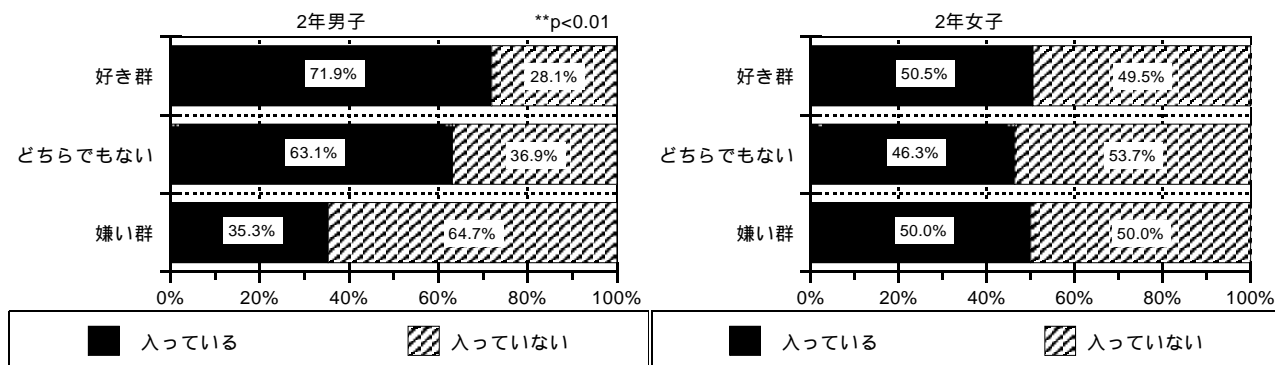


図140 3群×スポーツクラブに入っているか(2年生)

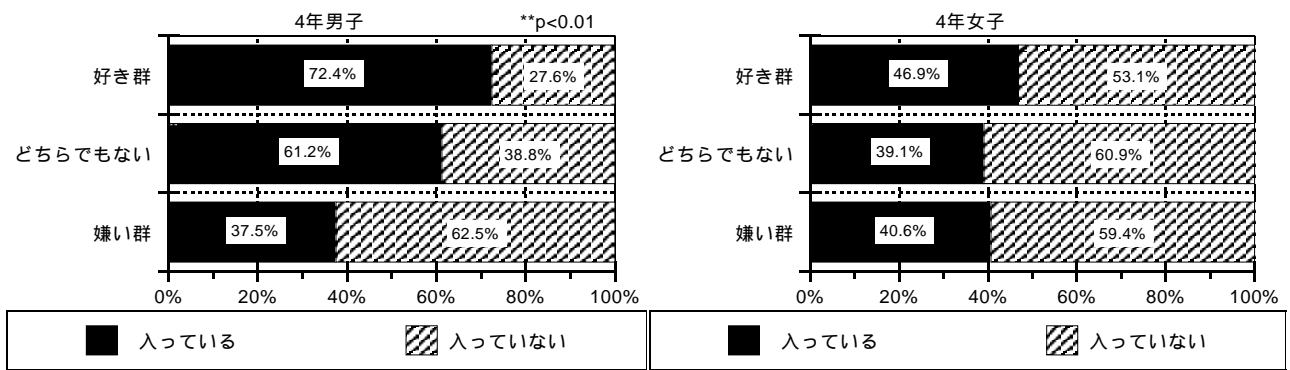


図141 3群×スポーツクラブに入っているか(4年生)

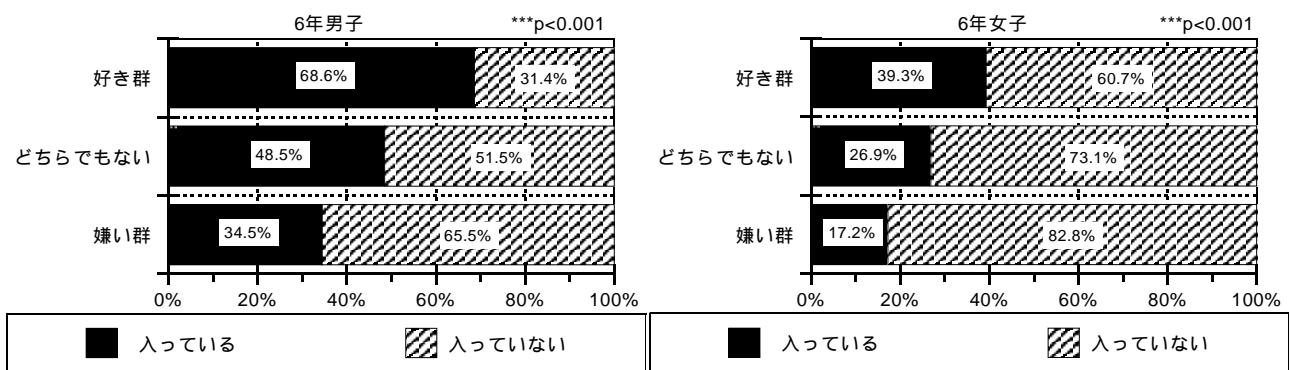


図142 3群×スポーツクラブに入っているか(6年生)

スポーツクラブへの加入状況とのクロス集計結果

今回の結果から、男子は全学年で女子は6年生になると、体育の好き嫌いとスポーツクラブへの加入状況との関連性がみられたが、2・4年生の女子ではみられなかった。

スポーツクラブへの加入状況は、2・4年生男子と6年生男女で同じような傾向がみられ、その状況を見てみると、体育好きは加入率が高く、体育嫌いは加入率が低いことがわかった。特に、体育好きの男子はすべての学年で加入率が非常に高いことがわかった。

また、男子は体育の好き嫌いに関わらず、学年進行しても加入状況はあまり変わらないが、女子は2・4年生に比べ、6年生で大きく減少し、特に体育嫌いがやめていってしまう傾向がみられた。

以上ことから、男子は2年生からすでに体育好きは加入率が高く、体育嫌いは加入率は低い傾向がみられ、女子は6年生になってはじめて、その傾向がでてくることがわかった。

(11) 学校から家に帰った後や休みの日に運動をするか？

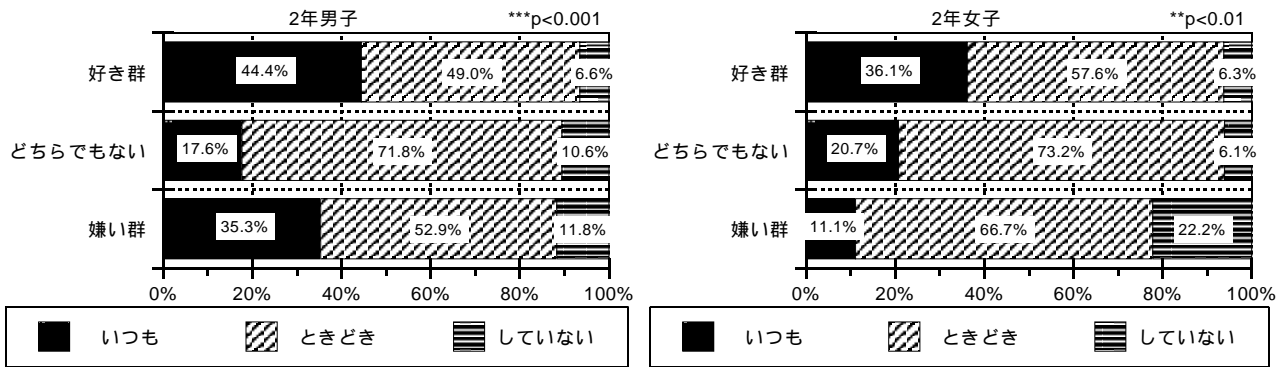


図143 3群×家に帰った後や休みの日に運動をするか(2年生)

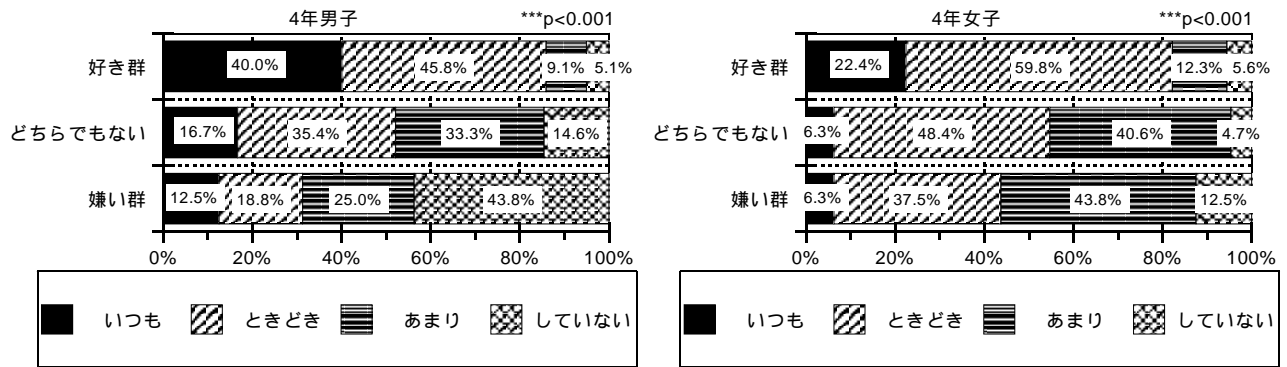


図144 3群×家に帰った後や休みの日に運動をするか(4年生)

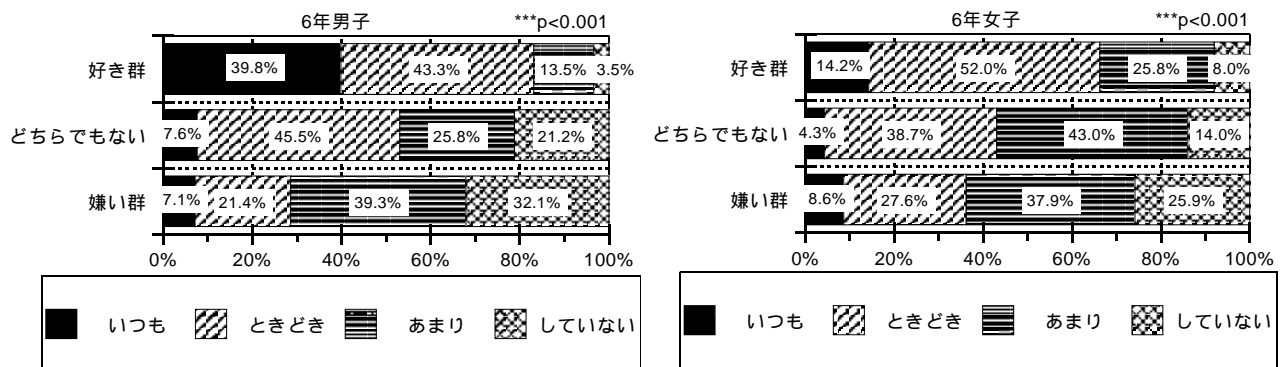


図145 3群×家に帰った後や休みの日に運動をするか(6年生)

(12) なぜ学校から家に帰った後や休みの日に運動をするか

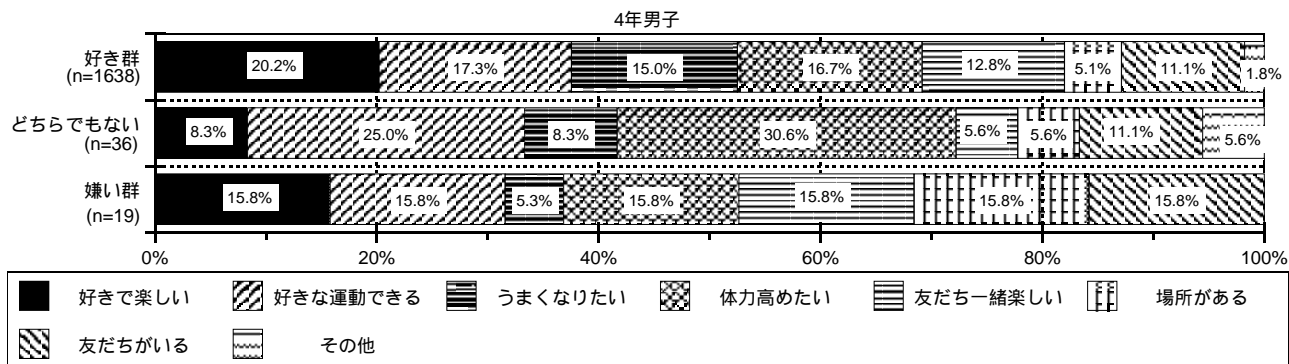


図146 3群×なぜ家に帰った後や休みの日に運動をするか(4年生男子)

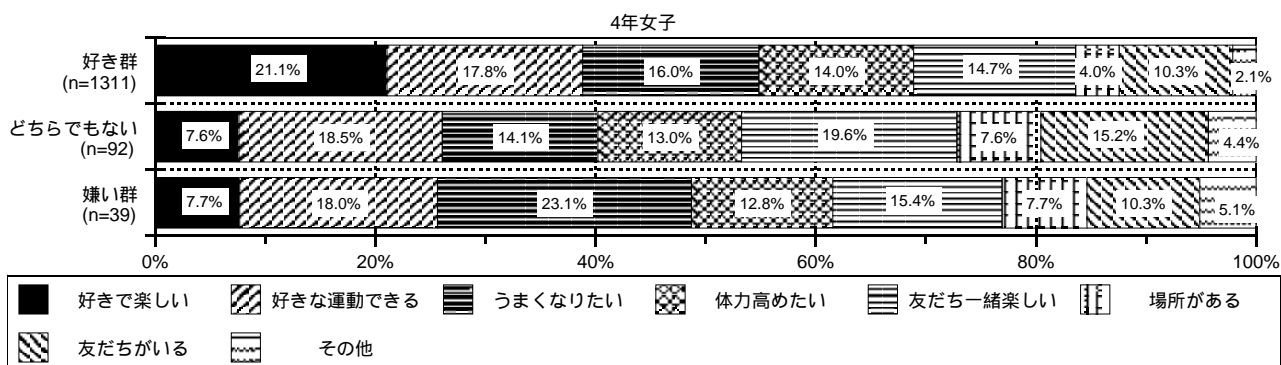


図147 3群×なぜ家に帰った後や休みの日に運動をするか(4年生女子)

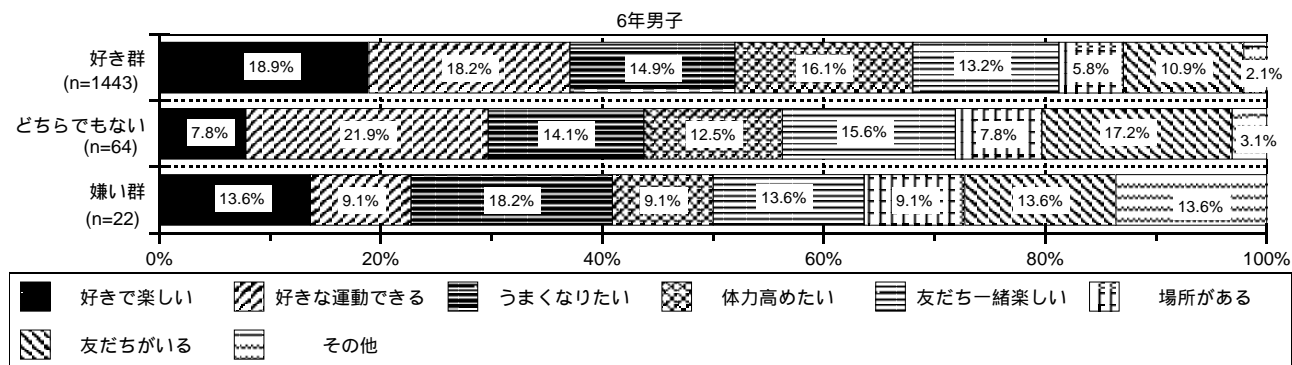


図148 3群×なぜ家に帰った後や休みの日に運動をするか(6年生男子)

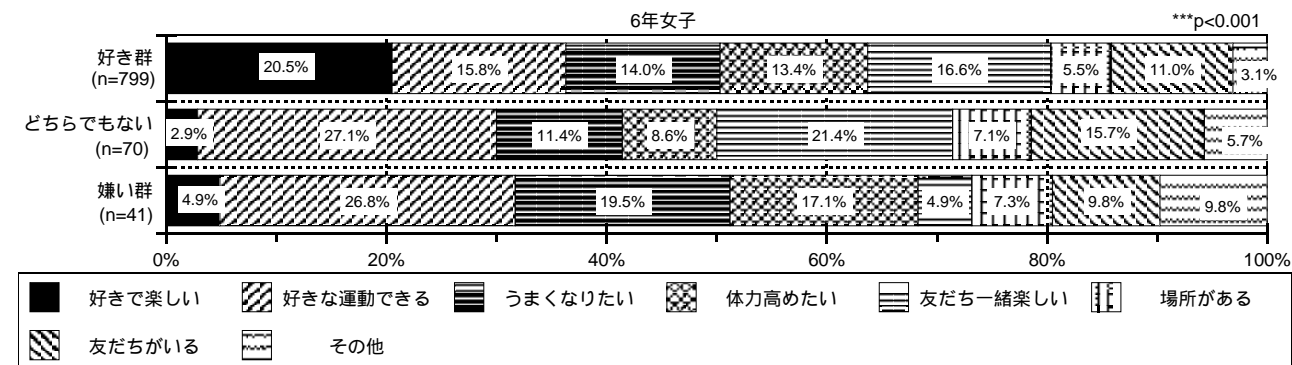


図149 3群×なぜ家に帰った後や休みの日に運動をするか(6年生女子)

(13) なぜ学校から家に帰った後や休みの日に運動をしないのか

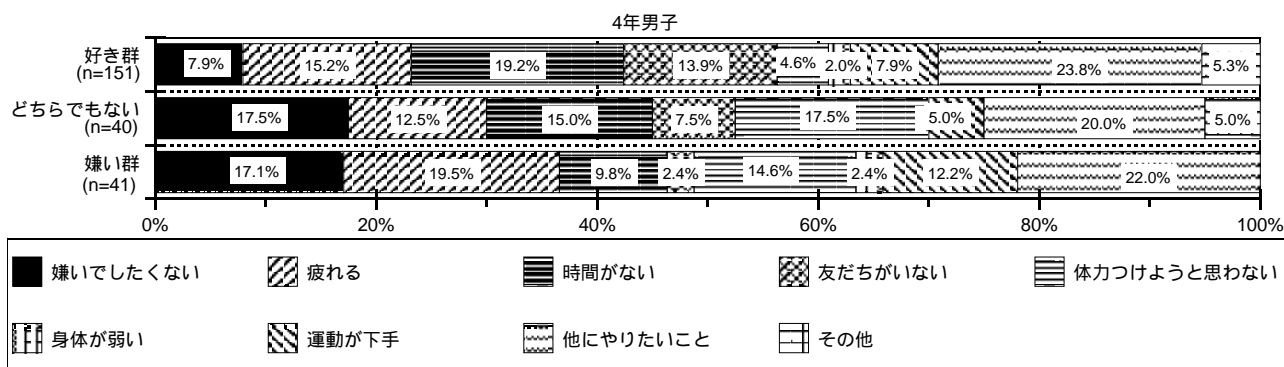


図150 3群×なぜ帰った後や休みの日に運動をしないか(4年生男子)

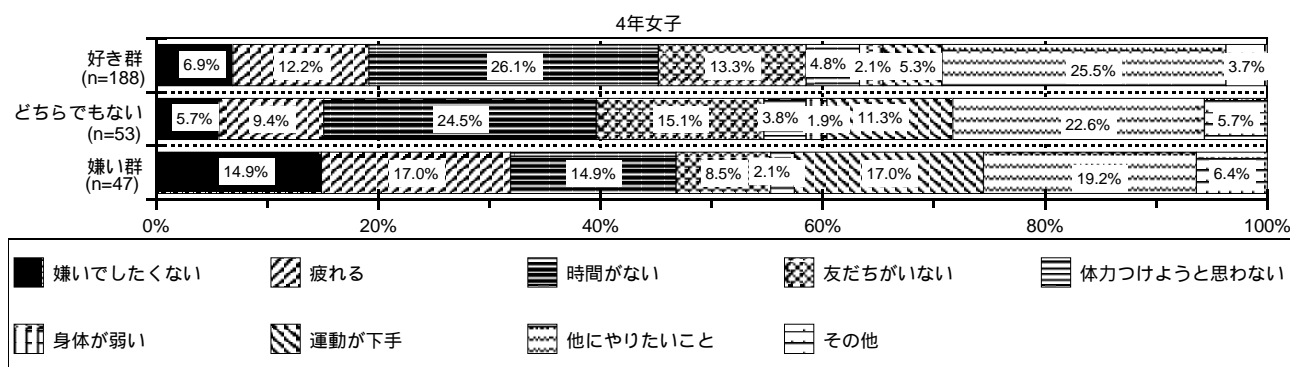


図151 3群×なぜ帰った後や休みの日に運動をしないか(4年生女子)

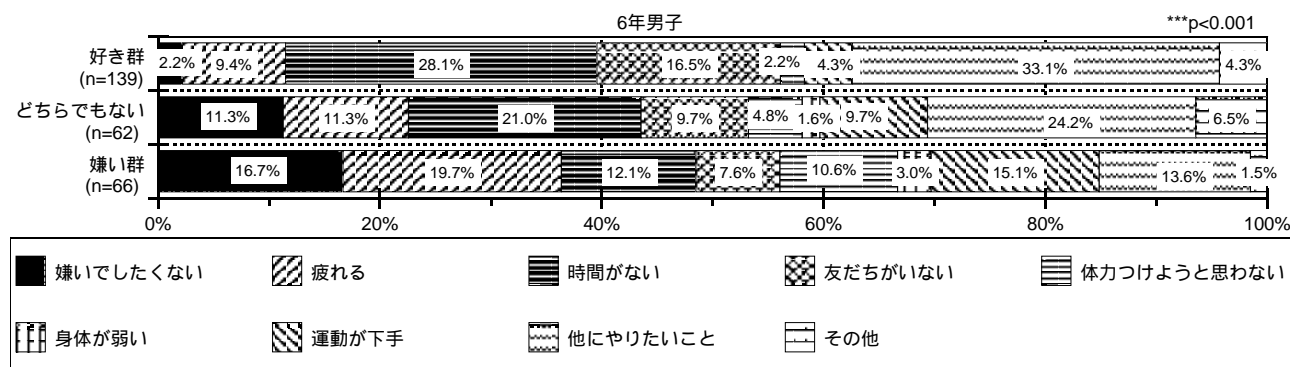


図152 3群×なぜ帰った後や休みの日に運動をしないか(6年生男子)

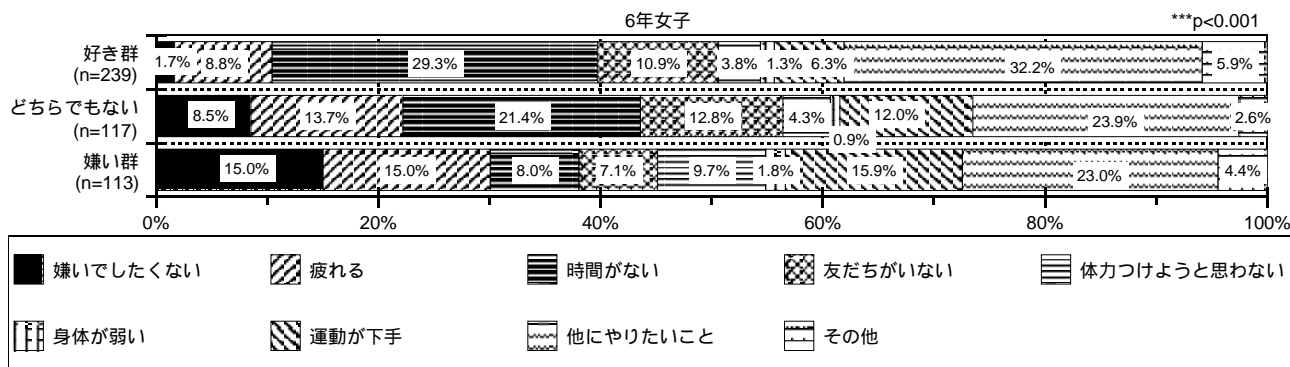


図153 3群×なぜ帰った後や休みの日に運動をしないか(6年生女子)

帰った後や休みの日の運動とのクロス集計結果

今回の結果から、すべての学年で体育の好き嫌いと帰った後や休みの日の運動状況との関連性があることがわかった。

帰った後や休みの日に運動をするかについては、4・6年生男子は、体育好きは運動をしており、体育嫌いは運動をしていない傾向がみられた。2年生男子は好き嫌いに関わらず、運動をしている傾向があった。

また、女子は体育の好き嫌いに関わらず、学年進行に伴い運動をしない児童の増加傾向がみられた。

なお、この結果は学校で休み時間や放課後に運動する状況とほとんど同じ結果となった。

今回の結果から、6年生女子の体育好きは運動そのものが好きで運動していることがわかった。

また、体育嫌いは自分の好きな運動ができることや上手になりたいという理由で運動していることがわかった。

今回の結果から、6年生男女の体育好きは、他にやりたいことがあるや、塾や習い事があり時間がとれないからという理由で運動をしないことがわかった。

また、6年生男子の体育嫌いは、疲れるや運動が嫌いでしたくない理由が多く、女子は他にやりたいことがあるや運動が嫌いでしたくないという理由が多かった。

6年生男女の体育嫌いは、体育好きに比べると運動する時間はあり、一緒に運動する友だちもいるが、運動が嫌いや下手という理由で運動をしない傾向が強いことがわかった。

(14) 学校から家に帰った後や休みの日に誰と運動をしていますか？

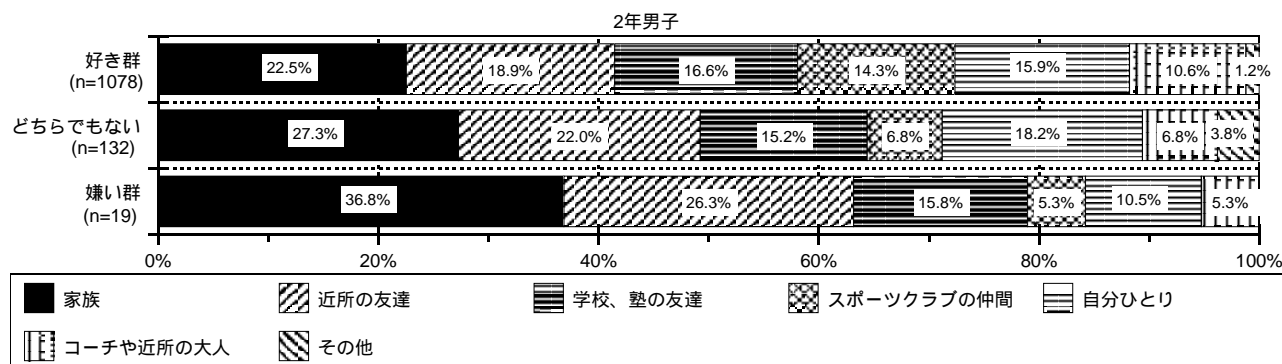


図154 3群× 帰った後や休みの日に誰と運動をするのか (2年生男子)

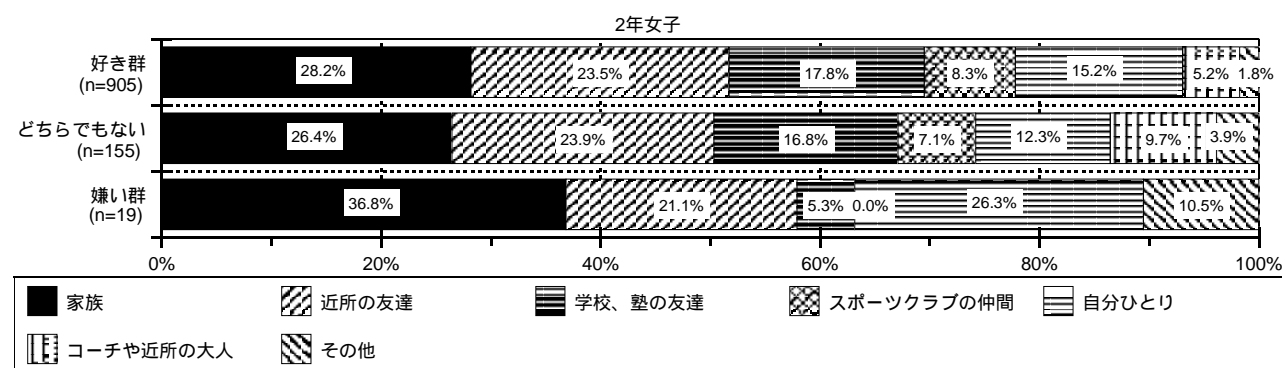


図155 3群× 帰った後や休みの日に誰と運動をするのか (2年生女子)

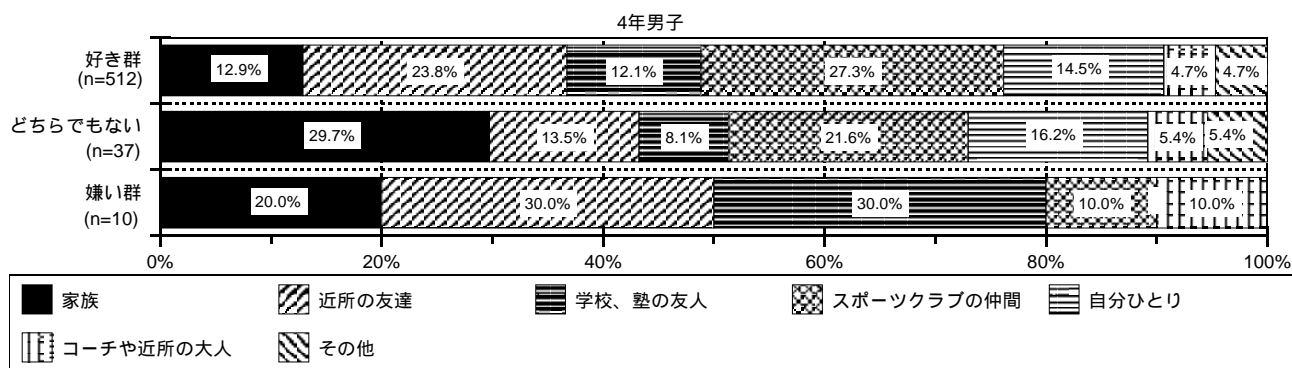


図156 3群× 帰った後や休みの日に誰と運動をするのか (4年生男子)

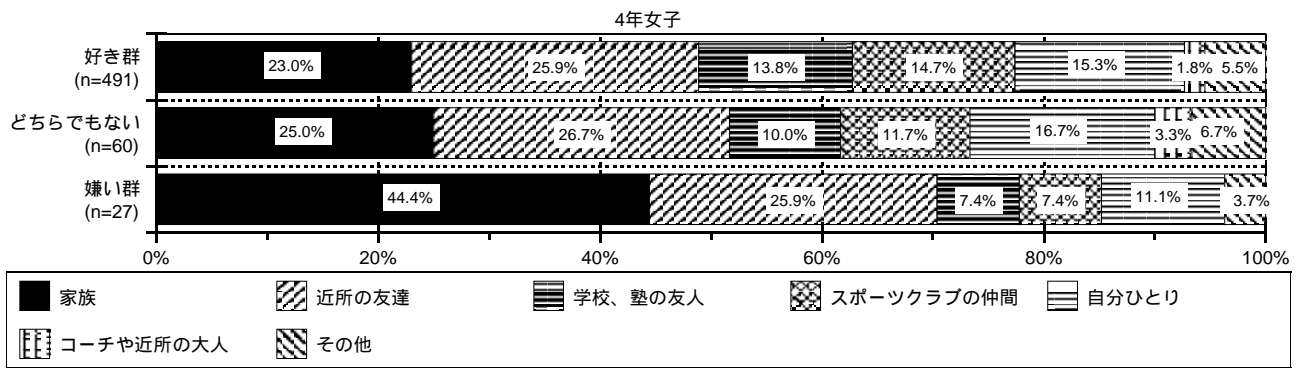


図157 3群× 帰った後や休みの日に誰と運動をするのか（4年生女子）

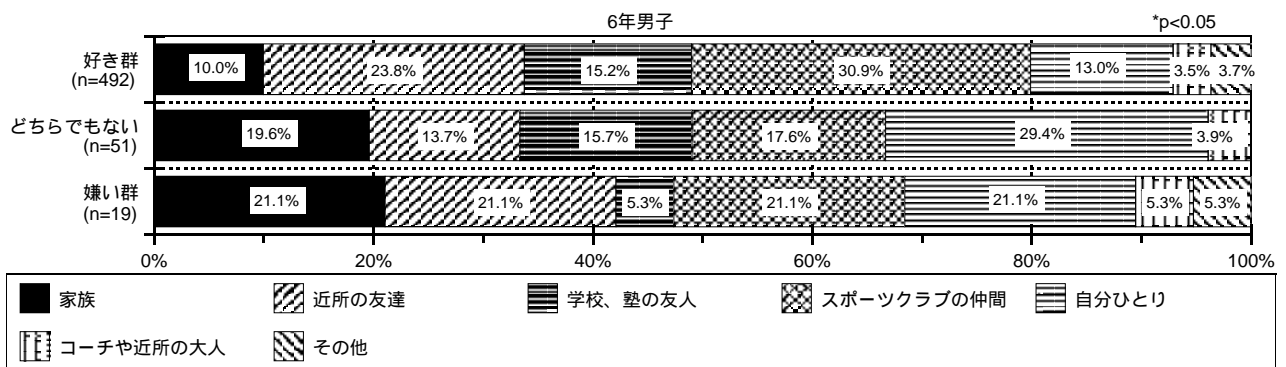


図158 3群× 帰った後や休みの日に誰と運動をするのか（6年生男子）

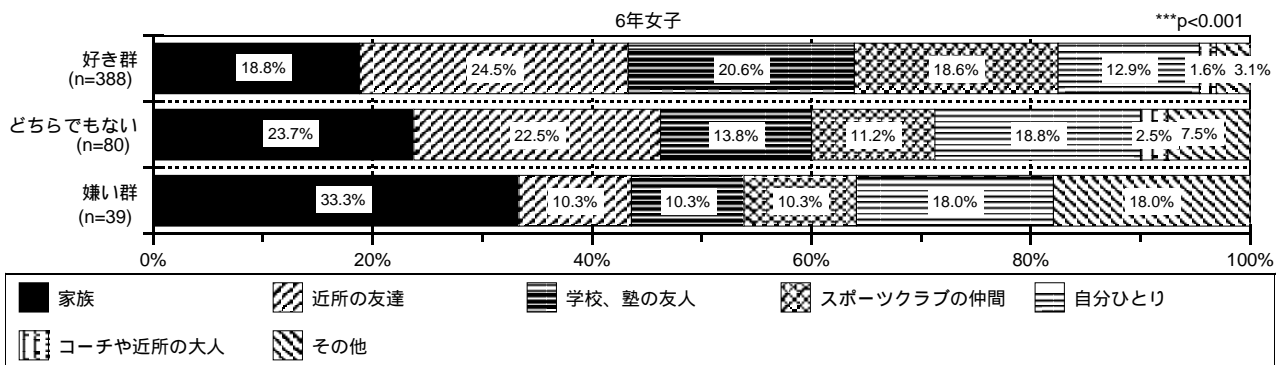
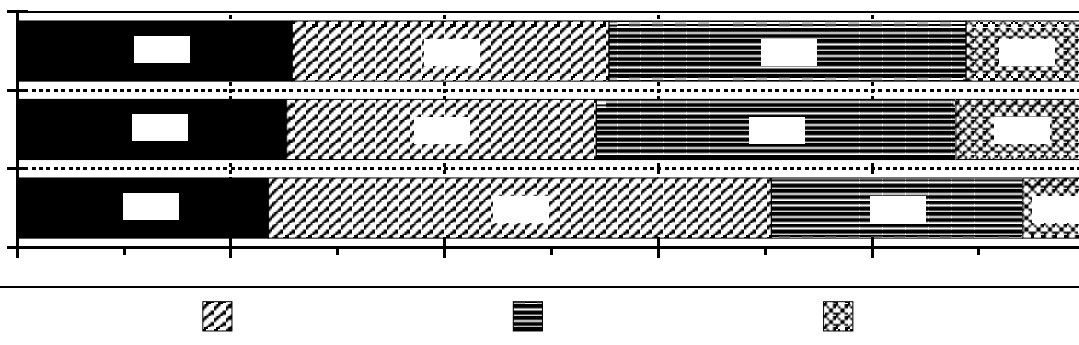
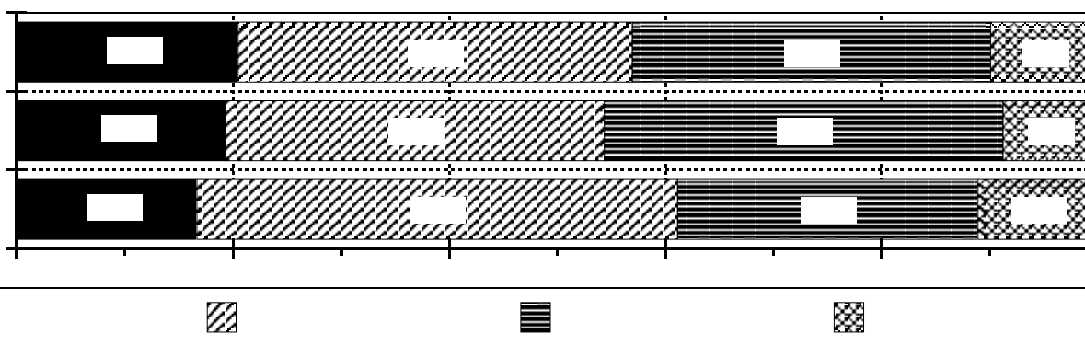


図159 3群× 帰った後や休みの日に誰と運動をするのか（6年生女子）



) 学校から家に帰った後や休みの日にどこで運動をしていますか？

2年男子



11.2%
12.2%
5.9%
100%

図100 2年男子の学校から家に帰った後や休みの日にどこで運動をしていますか？ (n=489)

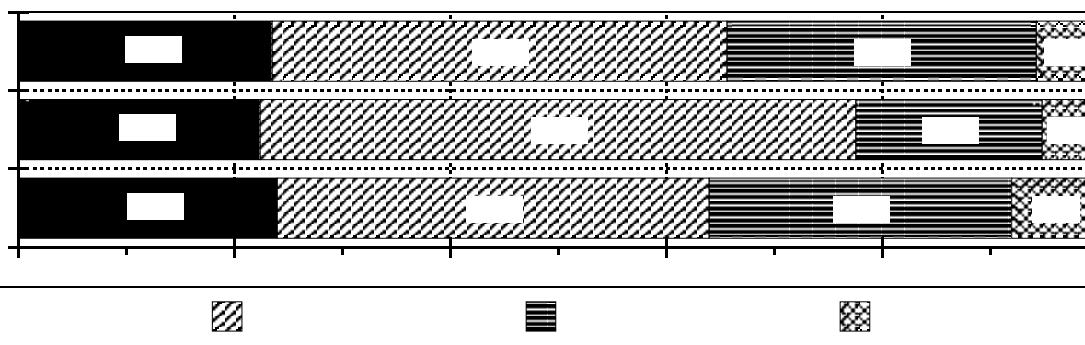
2年女子



9.9%
8.8%
11.1%
100%

図101 2年女子の学校から家に帰った後や休みの日にどこで運動をしていますか？ (n=489)

4年男子



8.3%
7.7%
0.0%
100%

4年女子

好き群 (n=489)	23.5%	42.1%	28.6%	5.7%
どちらでもない (n=58)	22.4%	55.2%	17.2%	5.2%

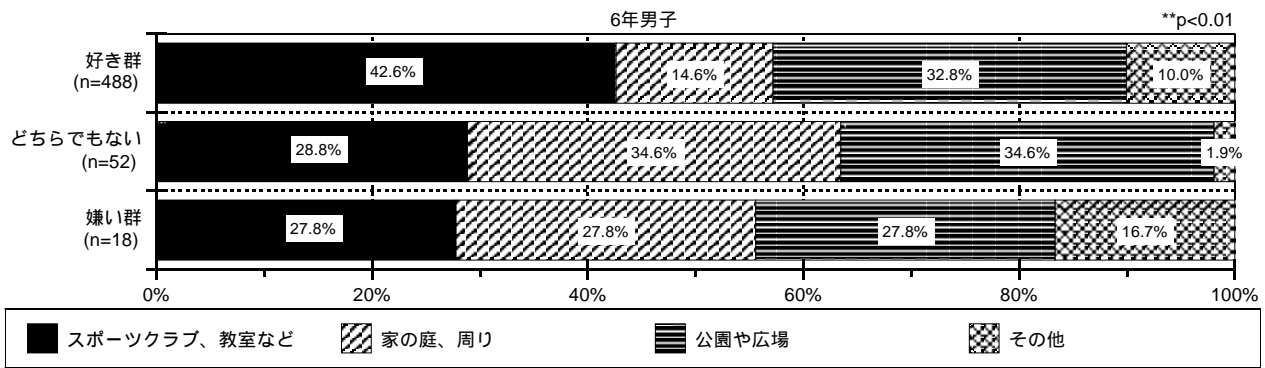


図164 3群× 帰った後や休みの日にどこで運動をするのか（6年生男子）

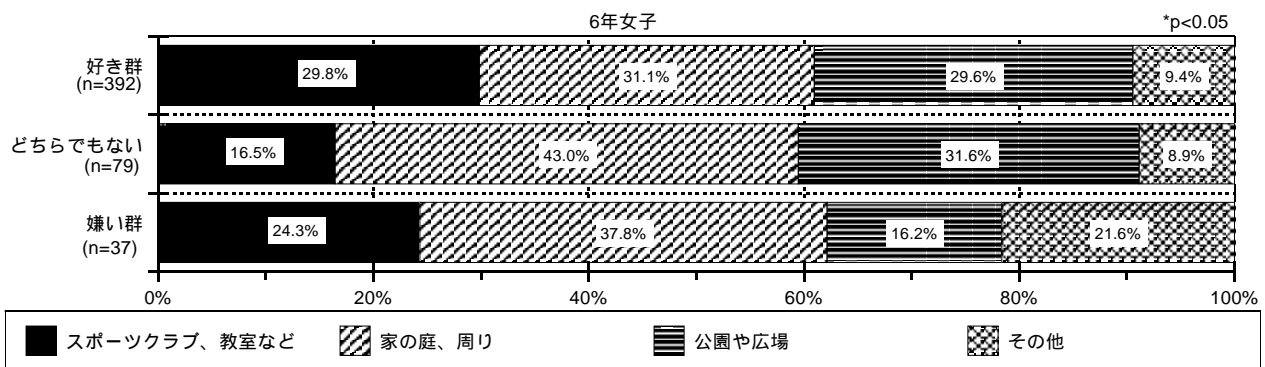


図165 3群× 帰った後や休みの日にどこで運動をするのか（6年生女子）

帰った後や休みの日の運動相手と運動場所とのクロス集計結果

今回の結果から、2・4年生では体育の好き嫌いとは運動相手と場所との関連性はみられなかったが、6年生になるとみられることがわかった。

運動相手については、6年生の男子の体育の好きは「スポーツクラブの仲間」「近所の友だち」が多かったが、体育嫌いはいこれらの他に「家族」や「自分ひとり」も多くみられた。6年生女子の体育好きは「近所の友だち」「学校や塾の友人など」が多かったが、体育嫌いには「家族」が多かった。

運動場所については、6年生男子の体育好きは「スポーツクラブ、スポーツ教室、道場など」が主であったが、これらの他に「家の庭、家のまわり」も多くみられた。6年生女子の体育好きは「家の庭、家のまわり」「スポーツクラブ、スポーツ教室、道場など」「公園や広場」が主であったが、体育嫌いには男女ともに「スポーツクラブ、スポーツ教室、道場など」「家の庭、家のまわり」であり、「公園や広場」は少なかった。

このことから、6年生になると体育嫌いには家族や自分ひとりで家の周りを中心に運動していることがわかった。

(16) 体育の学習をどんな先生に教えてもらいたいのか？

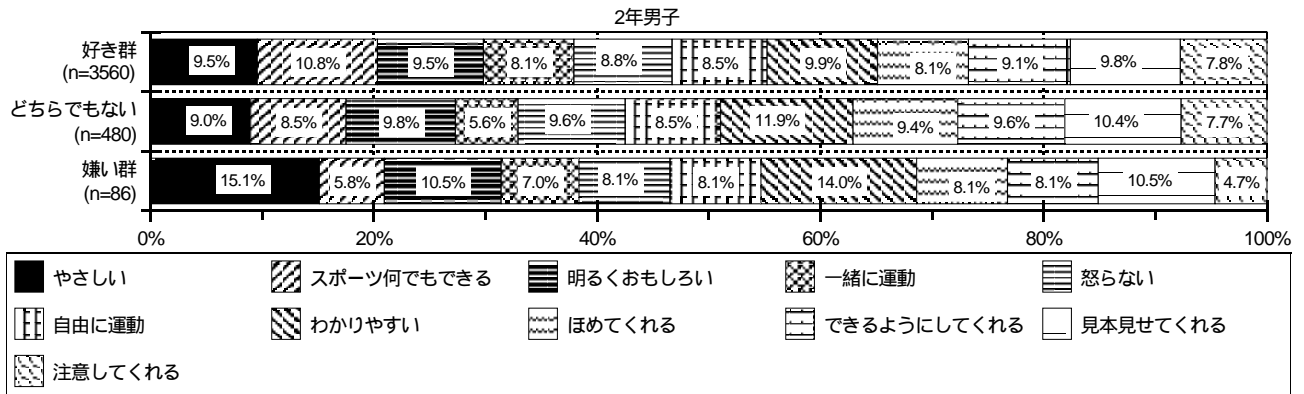


図166 3群×どんな先生に教えてもらいたいか(2年生男子)

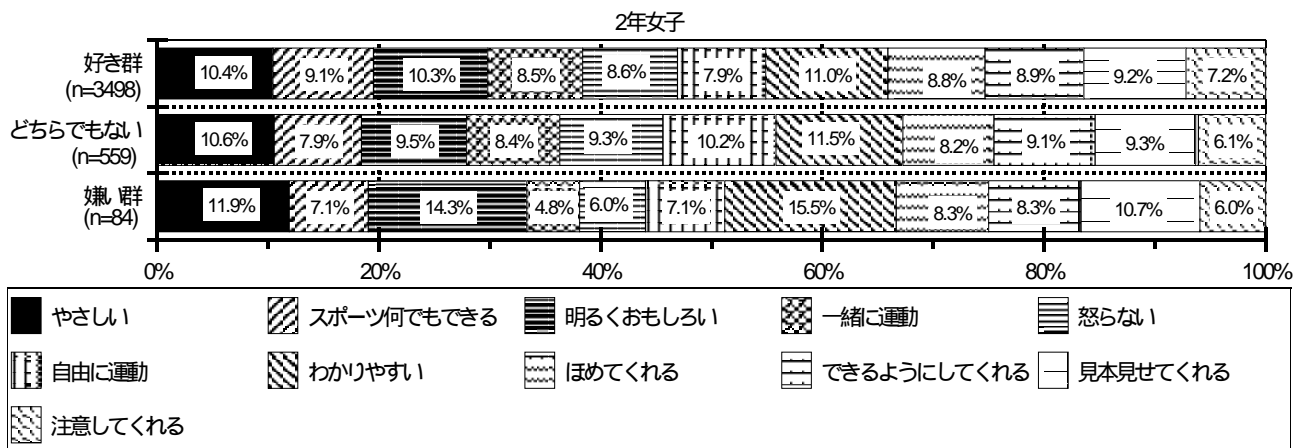


図167 3群×どんな先生に教えてもらいたいか(2年生女子)

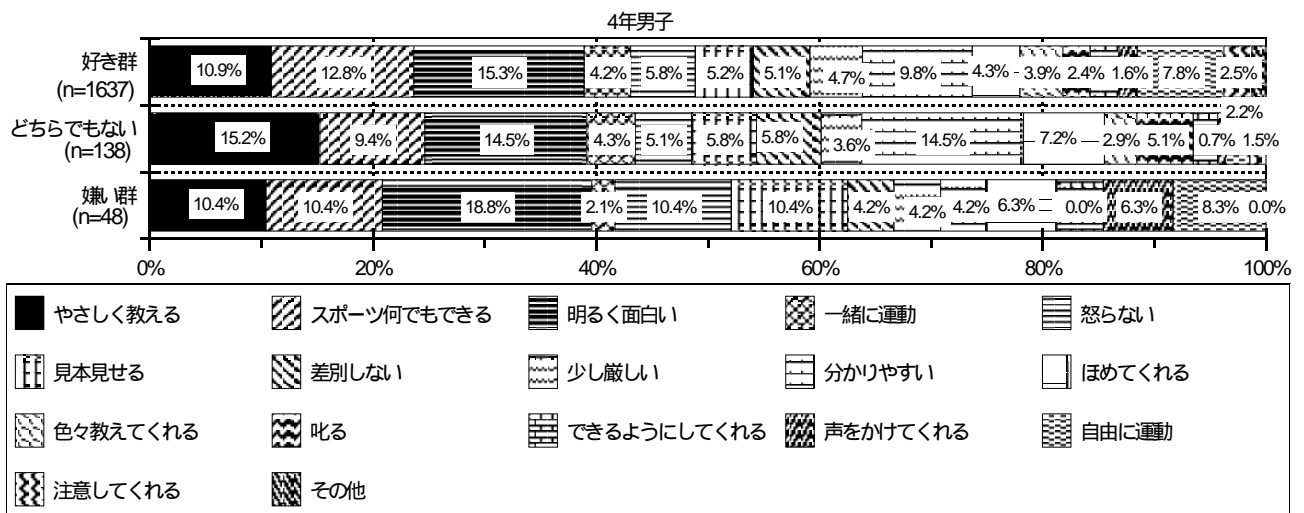


図168 3群×どんな先生に教えてもらいたいか(4年生男子)

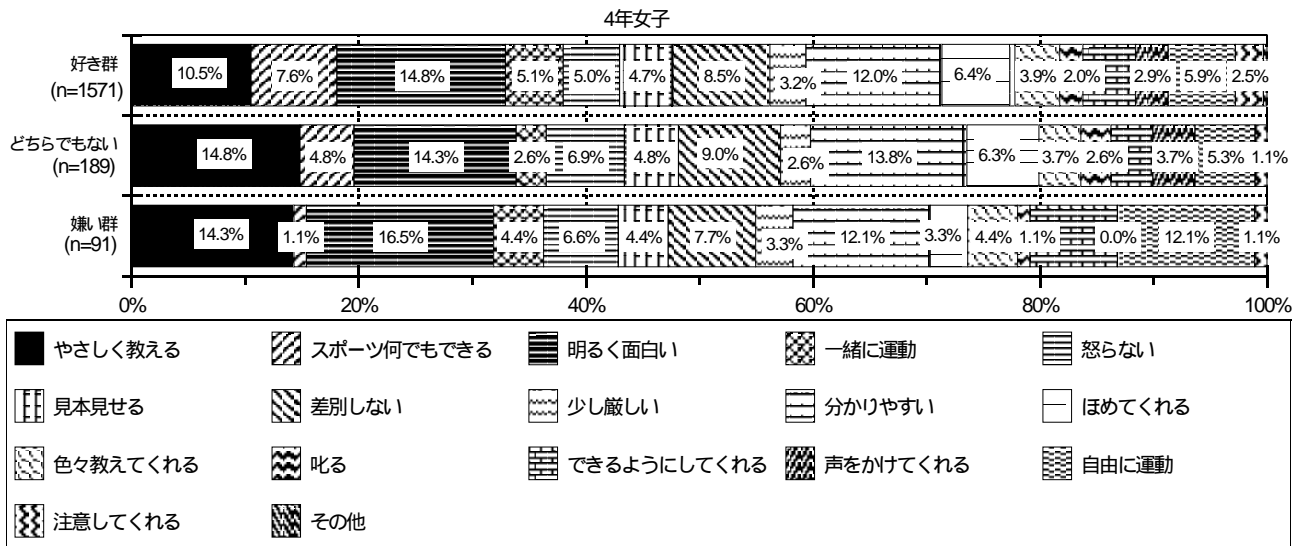


図169 3群×どんな先生に教えてもらいたいか(4年生女子)

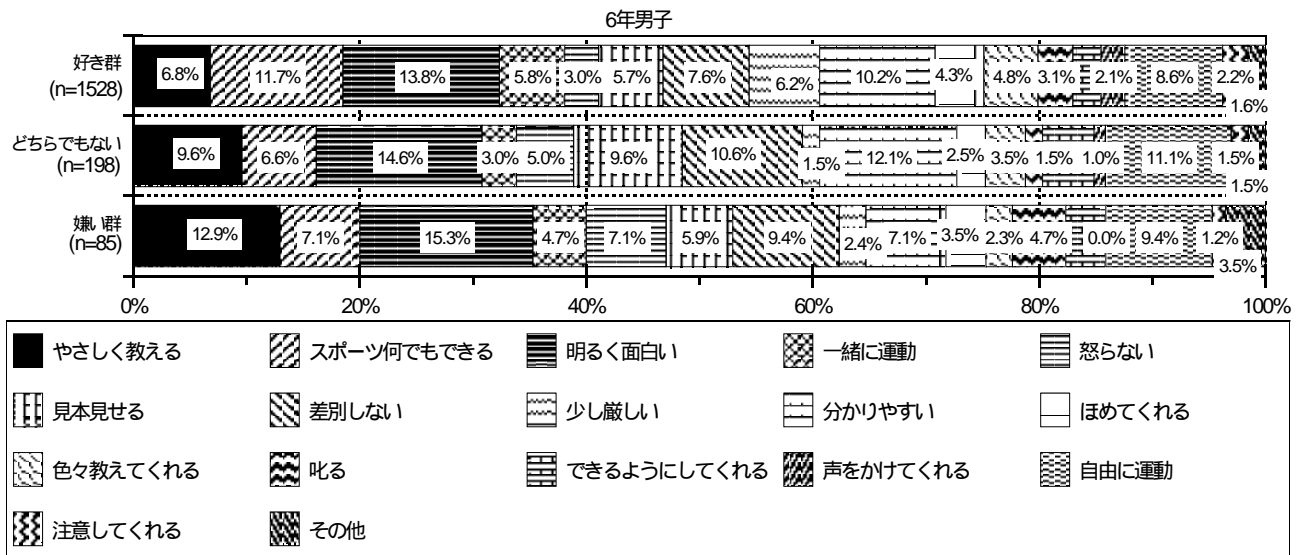


図170 3群×どんな先生に教えてもらいたいか(6年生男子)

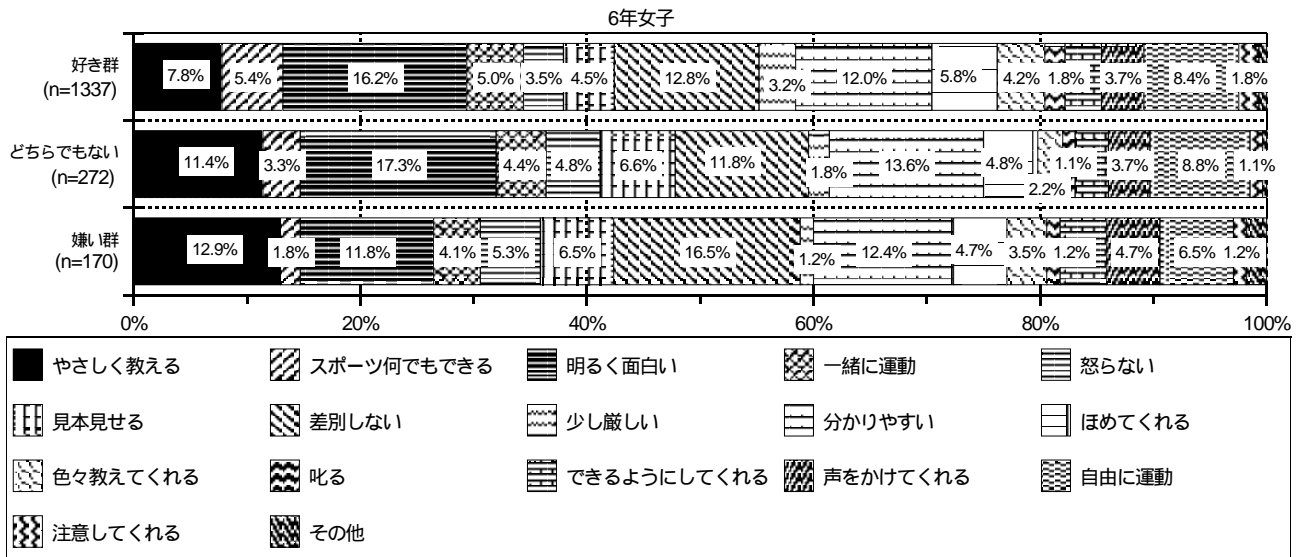


図171 3群×どんな先生に教えてもらいたいのか(6年生女子)

理想の先生像とのクロス集計結果

理想の先生像では、すべての学年で有意差はみられなかった。
このことから、体育の好き嫌いとは理想の先生像との関連性はないことがわかった。

【まとめ】

本研究の目的は、県内の小学生が、 体育の学習にどのように取り組み、どのような気持ちを抱いているのか。また、 運動やスポーツ、体育学習に対する好き・きらいが体育学習への取り組みや日常の活動にどのように影響するかなどの実態を探るとともに、 過去の調査と比較し、それらの変化を明らかにすることにより、 これからの小学校体育の方向性を探るための基礎資料を得ることである。

そのために県下内11地区20校の小学校（2・4・6年生）に対し、アンケート調査を実施し、集計・分析した結果、以下のことが明らかになった。

1 体育の学習が好きか、きらいかについて

体育の学習が「好き」な児童は、全学年を通して男子で84%以上、女子で73%以上であり、「きらい」な児童は、全学年を通して男女とも10%未満であったことから、多くの児童が体育の学習が「好き」であることがわかった。また、運動する子としない子の二極化が進んでいるといわれているが、前回調査と比較すると、「とても好き」の割合が増加し、「きらい」の割合が減少しており、今回の調査からはその傾向はみられず、体育好きが増え、体育嫌いが減った結果となった。

4・6年生の体育の学習が好きな理由に一番は、「いろいろな運動ができておもしろいから」であるが、きらいな理由として、「運動すると疲れたり、苦しくなったりするから」が男女ともに多くあげられており、現在問題になっている体力低下傾向の一端が読みとれる結果となった。

2 運動や遊び、スポーツが好きか、きらいかについて

からだを使って遊んだり、スポーツをしたりすることが「好き」な児童は、全学年を通して男子で85%以上、女子で75%以上であり、「きらい」な児童は、全学年を通して男女とも10%未満であったことから、多くの児童が運動やスポーツを「好き」であることがわかった。

また、クロス集計の結果によると、体育の好きな児童はおおむね運動やスポーツが好きであり、体育の嫌いな児童はおおむね運動やスポーツが嫌いだと見える。

3 体育の学習で行う好きな運動内容（領域）について

『好きな内容』は2年生男子で「ドッジボール」、女子は「水遊び（水泳）」だった。

『人気のない内容』（好きと答えた人数の少ない内容）は、男子は「竹馬（用具を操作する運動遊び）」、女子は「力試しの運動遊び」であった。

4年生は男女ともに「ドッジボール」、6年生男子は「サッカー」、女子は「バスケットボール」だった。

また、領域で見ると、2年生は男女ともに1位が基本の運動の中の「器械や器具を使っての運動遊び」だった。4年生は、男女ともに1位が「ゲーム」だった。6年生は、男女ともに1位が「ボール運動」だった。

前回調査と比較すると、一番好きな領域は、4・6年生男子が「ボール運動」で変わらないが、4年生女子は「水泳」から「ゲーム」に変わり、6年生女子は「水泳」から「ボール運動」に変わった。

このことから、男女とも低学年では体育の好き嫌いが好きな運動領域に影響を及ぼさないが、高学年になるにしたがい、影響が現れるようになり、特にそれは女子に早いと考えられる。

また、体育好きは自分と関わる運動領域や他人と関わる運動領域の両方を好むが、体育嫌いは自分と関わる運動領域のみを好む傾向がみられる。

このことから、他者との関わりを築く学習が高学年には重要だと考える。

4 体育の学習の活動状況について

体育の学習において、多くの児童が自分の目標やめあてを持ち、練習の仕方や場の工夫を行い、友だちと協力して最後まで意欲的に取り組んだり、自分の役割を果たそうとする様子が見られる。

た。

体育好きはすべての活動状況において積極的に活動しているが、体育嫌いは充実した活動にまでは至っていないことがわかった。

また、前回調査と比較すると、体育の学習への取り組む姿勢や態度など、全体を通して活動状況が向上していることがわかった。

5 体育の学習が楽しい、または、つまらないと感じたことがあるか

90%以上の児童が体育の学習が「楽しい」と感じている。ただし、男女別にみみると男子は2年生から6年生まで、ほとんど割合が変わらないが、女子は学年進行に伴って、少しずつだが「楽しい」と感じる児童が減少していた。体育の学習が楽しいと感じたときは、「4年生男子が切り身体を動かすことができたとき」、4年生女子と6年生男女は「記録が伸びたりできなかったことができるようになったとき」だった。一方、「つまらない」と感じている児童は、男女とも2年生で割合が高く、4年生で減少し、再び6年生で増加している。また、女子の方が「つまらない」と感じる割合が高かった。

なお、体育嫌いは楽しいと感じる割合が体育好きに比べ極端に低く、「つまらない」と感じる割合は高かった。

また、前回調査と比較すると、「楽しい」と感じている児童の割合が大きく増加し、「つまらない」と感じている児童の割合が大きく減少していることから、体育の学習が改善されてきている結果といえよう。

6 安全面で一番心がけていること

体育学習時に児童が安全について心がけているのは、男女とも「準備運動や整理運動を十分している」「気を抜かないで集中して取り組むようにしている」「具合が悪くなったり、病気やけがの時は見学するようにしている」であり、けがを防止するために、自分自身の身体や心理状態に気をつけていることがわかる。一方、活動場所や使用器具などに注意する児童は多いとはいえない。学習の場や教具・教材など学習環境を中心とした安全管理については、まず教師が十分配慮するとともに、学習ノートの工夫や安全チェックシートの活用等、学習環境に関わる児童の意識を高める支援をする必要があると考える。

また、前回調査では主に男子が「学習への取り組み方」や「自分の健康状態を把握すること」、女子が「自分の健康状態を把握すること」でけがを防止できるという回答が多かった。

7 体育の学習以外（休み時間や放課後）の運動実践について

休み時間や放課後に運動やスポーツをしている状況をみると、全般的に自ら進んで運動やスポーツに取り組んでいる様子が見えかけた。また、運動やスポーツをしている児童は、男女ともに気の合う仲間と一緒に自由に体を動かすことが楽しいと素直に感じて運動していることがわかった。子どもたちが積極的に運動やスポーツに取り組むためには、時間・空間に加え、仲間の存在が大きな要素であることが改めて確認できた。

一方、2年生が男女ともによく運動しているのに比べ、4年生以降、男子は緩やかに減少し、女子は6年生で大きく減少しており、行わない理由として、「他にやりたいことがあるから」「運動をすると疲れるから」が多かった。後者のように運動をすると疲れるということは、それこそ体力の低下傾向を象徴していることであり、悪循環に陥らないためにも、体力の低い児童にこそ運動習慣の定着を図るため、学校に於いて、いわゆる「3間（時間・空間・仲間）」を上手に用意する取り組みが必要だといえる。

また、体育好きは休み時間や放課後によく運動しているのに対し、体育嫌いはあまり運動していない傾向がみられた。

なお、前回調査と比較すると、休み時間や放課後に運動やスポーツを行う児童の割合は、6年生女子でやや増加したが、全体的には変化はなかった。

8 スポーツクラブへの入部状況について

スポーツクラブへの加入率は女子に比べ男子が高かった。また、男子は学年進行に伴って、加入率に大きな変化はみられないが、女子は減少していくことがわかった。

また、体育好きの男子は加入率が高く、体育嫌いは加入率が低い傾向がみられた。一方、女子は2・4年生では体育の好き嫌いとは加入率の関連性は見られないが、6年生になると体育嫌いの児童がスポーツクラブをやめていくという傾向がみられた。

9 学校以外（学校から帰宅後や休日）での運動実践について

帰宅後や休みの日に運動やスポーツをしている状況をみると、2年生は男女ともによく運動していることがわかる。しかし、4年生以降、男子は緩やかに減少し、女子は6年生で大きく減少している。ただし、行っている児童は、自ら進んで運動やスポーツに取り組んでいる様子が見え、全体を通じて休み時間や放課後の様子とはほぼ同じになった。

帰宅後や休日に運動する割合は女子に比べ男子の方が高く、運動やスポーツをする理由としては男女ともに運動の楽しさを友だちと一緒に味わうことであることがわかった。

行わない理由として、スポーツや運動以外に興味・関心がある児童と、運動は行いたいけど塾や習い事で時間がとれないという児童がいることがわかった。

なお、前回調査と比較すると、帰宅後や休みの日に運動やスポーツをしている児童の割合は、残念なことに若干減少している。

10 学校以外（学校から帰宅後や休日）での運動場所や運動相手について

運動やスポーツを行う場所として、2年生は男女とも「公園や広場」「家の庭や家のまわり」が多い。4・6年生の男子では「スポーツクラブ、スポーツ教室、道場など」が増加するが、女子は2年生同様、「家の庭や家のまわり」「公園や広場」が主な場所だった。

また、運動相手として2年生は男女とも「家族」、4・6年生の男子は「スポーツクラブの仲間」、4・6年生の女子は「近所の友だち」が主だった。

なお、2・4年生は体育の好き嫌いとは運動場所や相手との関連性は見られなかった。6年生の体育好きは、自分の活動範囲に応じて仲間を見つけて運動やスポーツをしている傾向がみられた。

一方、6年生の体育嫌いは家族や自分一人で家の周りを中心に運動やスポーツをしている傾向がみられた。

このことから、低学年や女子、体育嫌いの児童に関しては「家族」の存在は大きな要素であるとともに、友だちや仲間の存在も見逃すことはできない。体育好きの6年生男子では、同じ目的を持った仲間との活動が大きいことがわかった。

なお、運動場所は前回調査と比較しても大きな差はなかったが、運動相手については前回調査が男女ともに「近所の友だち」が一番だったが、今回「スポーツクラブの仲間」が男子の一番になった。

11 好きな、行いたいスポーツ（運動）について

2・4年生の一番行いたいスポーツや運動は男子がサッカー、女子が水泳だった。6年生では男子がサッカー、女子がバスケットボールで、4・6年生については、前回調査と同様の結果だった。

また、男女差がはっきりでた内容もあった。男子が多く女子が少なかった内容は、2年生はサッカー、4年生はサッカーと野球、6年生はサッカーだった。反対に女子が多く男子が少なかった内容は、2年生はなわとび、ダンス、バレーボールで4年生はバドミントン、バレーボール、一輪車、ダンスだった。6年生はバレーボール、バドミントン、ダンスだった。

このことから、男子は学年進行に伴い競技性が高く、動きが激しいボール運動を好むようになり、女子では勝敗にこだわらないスポーツを友だちと仲よく行っていきたいと考えるようになるのではないかと推測できる。

12 体育を指導してくれる理想的な教師像について

子どもたちは、全学年を通じて明るく、おもしろく、かつ指導力のある先生を望んでいることがわかった。

また、男子には「スポーツが何でもできる先生」という回答も多く、はつらつとして運動ができる先生を望んでおり、2・4年生女子は「やさしく教えてくれる先生」、6年生の女子は「できる人とできない人を差別しない先生」という回答も多いことから、やさしくてみんなを平等に扱ってくれる先生を望んでいることがわかった。

また、前回調査でも、男女ともに「明るくておもしろい先生」が理想の教師像だった。

【これからの小学校における体育について】

1 どうやって 体育（運動）を好きにさせるか？

子どもたちは、年少時から生活体験や遊び体験、さらには学校生活や仲間との人間関係、これらのことに本人の性格や両親の姿勢や兄弟の影響などが加わって、運動が好きになったり、嫌いになったりする。

したがって、教師や保護者など周囲の大人の関わり方によっては、運動が好きな子どもたちをより多くすることができると考えられる。

子どもが自主的・積極的に運動するかしないかは、今回の調査における体育の学習以外での運動やスポーツをする理由及びしない理由からもわかるように、物理的な条件によって左右されるのではなく、子どもたち自身が運動やスポーツの根本的な楽しさを感じているかいないか、つまり、好きか嫌いかにによって決定されるものであり、運動ができる環境をいくら整えても、本人が運動が好きでなければ、運動をしようとしなないことを意味している。反対に、運動やスポーツが好きであれば、主体的に運動をするということになるといえる。

今回の調査結果から、次の2つにまとめることができる。

運動の楽しさに主体的にふれること

他から強制されるのではなく、まず、低学年では遊び感覚で運動に関わり、自分を解放し、思いきり表現できるような雰囲気、仲間との交流の楽しさが実感できるような集団作りなどへの配慮が重要となる。

体力・運動能力や運動技能の向上の実感

人は誰でもできないことができるようになったり、上達したとき、また、自己記録を更新したり、自己の成長・発展が実感できたときに、大きな喜びを感じることができ、それがさらにもっと運動しようとする意欲や態度につながっていく。主体的な運動実践や粘り強い努力・挑戦が、体力・運動能力や運動技能の向上につながるという体験を数多くさせるように配慮することが大切となる。「できた体験」「うまくなった体験」が数多く保証されるような工夫が望まれる。

2 授業の方法

低学年では、運動で体を動かすことと遊びは一体化しているため、運動好きな児童が多い。

しかし、中・高学年になると、好きだという児童の減少傾向がみられる。運動やスポーツが好きであれば、主体的に運動をするという傾向がみられたことから、運動が好きな児童はさらに運動が好きになり、嫌いな児童でも好きになるような授業を行う必要がある。

そこで、今回の調査で、体育の学習が「楽しい」と感じる理由として、「記録が伸びたりできなかったことができるようになったとき」が一番多かったことから、このような経験を積むことにより、体育好きが増えると考えられる。併せて、2番目以降の回答で、男子は「思いきりからだを動かすこと」や「勝敗を競うこと」を上げ、女子は「友だちと仲よく一緒に学習できたとき」や「うまくできたり、がんばったときに仲間や先生がほめてくれたとき」を上げていることも考慮して、低学年から高学年までを見とおした教育課程を編成することが必要になる。

たとえば、低学年においては、導入段階で遊びの延長として取り組めるような配慮が大切とな

るので、ここでの中心的な指導上の課題は、「運動好きを増やす」ことである。教師は個々の児童に能力差を感じさせないように、動くこと自体に親しみ、楽しむことをねらいに、児童が自分から進んで運動する中で、運動の仕方を理解し、徐々に体力・運動能力や運動技能の向上につながるような単元計画を立て、毎時の指導を展開する必要がある。

中学年においては、児童が低学年で獲得した運動への積極的な意欲や態度をもとに、より高度な技能や複雑なルールを内容とする運動をとおして、個々の「めあて」に向かっていかれるように配慮する必要がある。

高学年においては、いろいろな領域の運動に積極的に取り組み、それぞれの運動の実践に伴う喜びや楽しさを十分に味わうことができるように配慮する必要がある。

また、全体としては、すべての児童に記録や技能の向上に関する達成感を確実に味わせた上で、男女それぞれの特性を生かすことが大切となる。男子に対しては、学習時間の中で運動量を確保することや競争の場面をつくること、女子に対しては、グループで協力して活動する場面をつくり、うまくできたときは誉めて向上心を高めるような支援が必要となろう。

このように、発育・発達に伴う学校体育に関する意識の違いを十分考慮した指導により、基礎・基本の定着を図るとともに運動を好きにさせるような手だてを講じることが大切だと考える。

3 教師の支援

楽しい体育の実践の中で、確かに体育の学習が好きな児童が増えてきた。また、場の工夫や一人ひとりに対する細かい配慮もみられるようになってきた。しかし、「楽しい体育」の実践で楽しさだけが重視されたり、児童の自主的な活動を重んじ過ぎたため、ややもすると、教師の支援の中で、「見守り」の部分が表面に出過ぎてしまっている感は否めない。児童の様子をみとり、助言し、指導し、見守るということが繰り返されて、初めて支援になると考える。

具体的にいうと、体育嫌いではやさしくわかりやすく指導して欲しいという願望があることから、体育が嫌いな児童に対しての励ましや、周囲の子どもの言葉かけに留意し、児童一人ひとりにあったきめの細かい指導をすることが必要になると考える。

4 授業以外での方法

体育の授業だけで、運動を好きにさせることはなかなか難しい。学校と家庭や地域が協力し合って子どもの体力低下傾向を真剣に考えていこうという取り組みは、全国各地で広がりつつある。

神奈川県でも「子どもキラキラタイム」を実践しており、外遊びからのアプローチを各学校で展開しているところである。この取り組みは、まさに体育以外から運動の好きな子どもたちを育てていく事になると考える。このように、友だちや先生、さらには地域の人たちと外で動き回って遊ぶ経験が増えれば、運動が嫌いな子どもたちも、運動の好きな子どもたちとの活動や楽しい雰囲気の影響の中で、受け身的な姿勢から行動的な姿勢に変わってくるに違いないと考える。

終わりに、本調査にご協力いただいた各学校、関係機関、さらには集計を担当していただいた横浜国立大学教育人間科学部体育心理研究室の皆様へ深く感謝申し上げます。

【参考文献】

- 1) 中央教育審議会「子どもの体力向上のための総合的な方策について」1-31(2002)
- 2) 加賀秀夫「運動の好きな子、嫌いな子」、体育科教育、第22巻、第4号、12-14(1983)
- 3) 全国アウトドア・マリンスポーツフェアinかながわ実行委員会「子どもの遊びに関する調査結果報告書」(2004)
- 4) 池田延行、戸田芳雄編、改訂小学校学習指導要領の展開 - 体育科編 明治図書(1999)
- 5) モノグラフ・小学生ナウVol.20-1 ベネッセ教育研究所編集・制作(2000)
- 6) 佐久本稔「運動群別に見た好き嫌いの現状」、学校体育9月号臨時増刊 下手な子嫌いな子を好きにさせる体育指導、第31巻、第11号、31-37(1978)
- 7) 小原孝徳「運動が苦手(接し方・かかわり方がわからない「気がかりな子」の理解と指導 - 教師はどう理解し、指導したらよいか)」、児童心理8月号、第52巻、第12号 101-103(1998)